

仙台大学 広報室



Monthly Report

平成25年度 仙台大学入学式を挙行



入学者を代表して宣誓する蜷川七海さん＝仙台大学第五体育館

4月6日（土）、本学第五体育館で「平成25年度仙台大学入学式」（第47回体育学部及び第16回大学院入学式）が執り行われました。体育学部625名（編入学生12名含む）、大学院31名、計656名の入学生を迎えました。朴澤学長から656名全員に入学許可告知がなされた後、入学者を代表し

にながわななみて、蜷川七海さん（体育学科1年－東京・駒場高校出）が「私たちは、体育・スポーツ、健康に関わる諸科学を探究し、これからの時代の担い手となるよう、身体を鍛え、教養を深め、心を磨き、豊かな学生生活を送るよう、努力して参ります」と力強く宣誓しました。

次に、来賓の滝口柴田町長からご祝辞（たいとんだいがく りゅう平間副町長代読）を頂き、さらに、仙台大学と国際提携大学である台湾・台東大学の劉学長が本学の入学式に初めてご出席され、「仙台大学と台東大学の交流は2003年に両校の交流協定を結んでから、丁度10年になりました。この10年間に、ダブルディグリー制度の実行・教員の派遣・シンポジウムの開催・共同研究などの交流が行われてきました。積極的な学術交流を通して、様々な実績を見ることができました。台東大学を代表して、貴大学の発展及び両校の友好、ますますの発展を祈っております」とご祝辞を頂戴致しました。

入学生一人一人の大学生活が豊かで充実したものになることを、心からご祈念申し上げます。

< 目 次 >

平成25年度 仙台大学入学式を挙行	1
平成25年度 新任者紹介挨拶	2
台湾・台東大学と「教育に関する協定書」を締結	4
スポーツ情報マスメディア学科映像アカデミーが「優秀賞」を受賞	5
第7回しばたまちさくら回廊ポート体験会を開催	6
学生の競技結果	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp



平成25年度 新任者紹介 挨拶(平成25年4月1日付)

— 教員8名・事務職員2名・新助手7名・臨時職員7名の計24名が着任 —




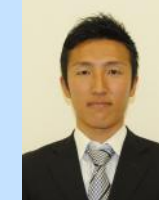



【教員8名】

<p>阿部 芳吉 教授 (合議制担当副学長)</p> 	<p>スポーツは見る、する、支えるのすべてが好きです。皆様からご指導ご支援を賜りながら質の高い学生を育成して参りたいと存じます。空手道部の学生たちと稽古できるのが、とても楽しみです。</p>	<p>若井 彌一 教授 (合議制担当副学長)</p> 	<p>今から30～35年前、まだ本学が質素な施設・設備の頃、教職を目指す学生達と共に燃えました。再び皆さんと共に夢や志を実現できるよう全力を尽くす決意です。</p>
<p>斎藤ちさ子 教授</p> 	<p>自然豊かな船岡の地で、エネルギーあふれる若者とともに学ぶ機会に恵まれうれしく思います。楽しく、きびしく、しなやかに頑張りたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。</p>	<p>久能 和夫 教授</p> 	<p>「地元に戻り教員になりたい」。研究室を訪ねてきた学生の澄んだ瞳が心に残りました。学生に優しい環境づくりがされている本学の教員として、その思いに応えていきたい。</p>
<p>志賀野 博 教授</p> 	<p>全学の皆様、初めまして。縁ありまして本学にお世話になることとなりました。機能する生徒指導のあり方を、学生の皆さんと一緒に授業の中で探索しようと考えています。</p>	<p>高橋 義夫 教授</p> 	<p>新聞社在勤38年の後、更生保護行政に携わりました。元野球少年でしたので、スポーツ面作りには力が入りました。担当は「マスメディア」。情報について一緒に考えましょう。</p>
<p>小田 桂吾 講師</p> 	<p>本年度より講師を務める、小田桂吾です。昨年までジェフユナイテッド千葉でフィジオセラピストとして活動してきた経験を生かし、トレーナーを目指す学生と一緒に頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>	<p>横田由香里 講師</p> 	<p>これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。新しい出会いに感謝しスポーツ栄養をともに楽しみ精進したいと思います。</p>

【事務職員2名】

<p>伊勢 裕介 さん</p> 	<p>教務課に配属になった伊勢裕介です。学生支援センターで学んだ2年間を生かし、仙台大学発展の力になれるように、頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。</p>
<p>笹原 聖大 さん</p> 	<p>昨年12月より法人事務局に勤務し、以前は民間企業にて会計等の仕事をしておりました。皆様と一緒に仙台大学を盛り上げていけるよう精一杯頑張ります。宜しくお願いします。</p>

【新助手7名】

<p>鈴木のぞみ新助手</p> 	<p>昨年度までの経験を活かし、学内・外でのアスレティックトレーニング活動の復旧や、学生アスレティックトレーナー育成の手助けとなっていきたいと思います。</p>	<p>菅野 恵子 新助手</p> 	<p>宮城県に10年振りに住みます。新しい仕事・生活がとても楽しみです。早く環境に慣れ、色々学びたいと思います。明るく元気に頑張ります！！よろしくお願いします。</p>
<p>田上紳二郎新助手</p> 	<p>新助手として働くことになりました田上です。硬式野球部コーチとしてのスキルアップを図ると共に、目標の全国制覇に尽力して参りたいと思います。よろしくお願いします。</p>	<p>和泉 隼 新助手</p> 	<p>今年度より新助手してサッカー部の指導をさせていただきます、和泉隼です。昨年度まで、学生支援センターで学生ボランティアの支援をしておりました。常に高い目標を持ち、精いっぱい努力してまいりますのでよろしくお願い致します。</p>
<p>千葉慎太郎新助手</p> 	<p>今年度より新助手として働かせていただくことになりました。皆様方からたくさんのお話を学ぶことができるよう、そして仙台大学に貢献できるよう努めますのでよろしくお願い致します。</p>	<p>杉山 竜馬 新助手</p> 	<p>昨年度卒業し、今年度から新助手としてGTセンターで働くことになりました、杉山です。これからは男子バスケット部のAコーチとして頑張りますのでよろしくお願い致します。</p>
<p>西川 里美 新助手</p> 	<p>今年度より運動栄養学科の新助手として勤務させていただきます。新社会人として気を引き締め、創意工夫を持って務めたいと思います。ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願いたします。</p>		

【臨時職員7名】

<p>石栗 はるか さん</p> 	<p>今年度から臨時職員として働かせていただく石栗です。学生支援室で語学支援を担当させていただきます。社会人としてはまだまだ勉強不足なので、これからたくさんのお話を学んでいきたいです。ご指導よろしくお願いします。</p>	<p>佐藤 由佳 さん</p> 	<p>今年度より学生支援室にて、学校支援ボランティアとアクティビティを担当させていただきます。人と人との関わりの中で、心身共に大きく成長していきたいです。ご指導の程よろしくお願いします。</p>
<p>野村 早紀 さん</p> 	<p>先の3月に仙台大学を卒業し、今年度から学生支援センター内のボランティアセンターを担当させて頂くことになりました。ボランティアコーディネーターとして学生と依頼先との橋渡しになれるよう、精一杯務めたいと思っております。ご指導の程、よろしくお願い致します。</p>	<p>目黒 志歩 さん</p> 	<p>スポーツ健康科学研究実践機構で働く事になりました。不慣れなため、皆様方にご迷惑をお掛けしてしまう事もあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いします。</p>
<p>佐藤 志帆 さん</p> 	<p>今年度より学生支援室にてノートテイク、キャンパスライフサポートを担当させていただきます。将来の養護教諭を目指し、学生の悩みに寄り添い、大学生活が充実したものになるよう手助けできればと考えています。よろしくお願い致します。</p>	<p>茗荷谷なつみさん</p> 	<p>昨年度、仙台大学を卒業し、今年度から学生支援センターの留学生語学支援を担当させて頂くことになりました。在学中お世話になった恩を忘れず、様々な経験を通して成長できるよう努力して参ります。何卒、ご指導の方よろしくお願いします。</p>
<p>佐藤 夕貴 さん</p> 	<p>今年度より健康管理センターに勤務させていただきます。仙台大学で働かせていただけることに感謝し、一生懸命取り組みたいと思います。よろしくお願い致します。</p>		

ドイツ・オルデンブルク大学との交換留学生在が来訪



左から朴澤学長、阿部・若井各副学長、ゼーレンさん、郷野さん、鎌田国際交流センター長、小松恵一教授

4月1日（月）、本学と国際交流協定を締結しているドイツ・オルデンブルク大学からの交換留学生ーゼーレン・ニーヴィントさん（28歳）と、オルデンブルク大学ごうのしげるでの1年間の交換留学を終え帰国した本学の郷野茂さん（体育学科3年ー宮城野高校出）が、鎌田国際交流センター長及び小松恵一教授（国際交流センター委員・ドイツ担当）と共に学長室を訪れました。

オルデンブルク大学人間・社会科学部体育学科6セミスター生のゼーレンさんは、「将来の夢は、ギムナジウム（日本の中高一貫校に相当）の教師になること。留学の期間は半年間と短いですが、何事にも積極的に取り組み有意義な時間を過ごしたい。「剣道」と「スポーツ栄養学」の授業を楽しみにしている」と留学の抱負を笑顔で話しました。

また、郷野さんは、「ドイツ留学で得た友人たちはかけがえのない財産。これからも交流を図っていきたい」「ドイツの文化に肌で触れ、ドイツの良さを実感できたし、日本の良さも学べた。この貴重な留学経験を大学生活の中で生かしたい」と感想を話しました。

仙台大学とオルデンブルク大学をつなぐ仲介役である小松恵一教授（哲学）は、「留学は自分の国と自分自身の再発見ができる機会である。異文化の人の考え方や価値観に触れることは大きな刺激になる。戸惑うことも多いと思うが、ゼーレンさんには日本人に対し、共感的な態度を培ってほしい」と留学の意義や期待が述べられました。

台湾・台東大学と「教育に関する協定書」を締結



前列左から3番目が劉学長、4番目が朴澤学長

仙台大学は4月6日（土）、本学管理研究棟2階大会議室において、台湾・台東大学と「教育に関する協定書」を改めて締結しました。仙台大学と台東大学は、2003年の交流開始から10年目という節目を迎えたこと、そして、両大学の現学長が協定書を締結した当時とは異なっていることから、改めて調印式を行うことになりました。

調印式には、本学からは朴澤学長・阿部・若井各副学長・鎌田国際交流センター長ら12名が、台東大学からは劉学長・蔡国際交流センター長ら4名が出席しました。

朴澤学長と劉学長は協定書を取り交わすと、相互により緊密な連携協力を確認し合いました。

調印式で劉学長は「台東大学からの留学生を立派に育てて頂いて感謝している。これからも互いに成長していきたい。今年中に新しいキャンパスが完成する。完成式の際には、ぜひ台東大学に来てほしい」と述べられ、朴澤学長は「ダブルディグリー制で今年3月に卒業し、台東大学と仙台大学の2つ



ろげんちゅうの学位を取得した盧彦中さんは、台湾代表のスケルトン選手になった。学生交流や教育交流をますます深めていきたい。来年新キャンパス完成の暁には、ぜひお伺いしたい」と述べました。

なお、本学では、台湾・台東大学の他に、スポーツ科学を中心とした分野で、中国や韓国・アメリカ・フィンランド・タイ・ベトナム等の世界各国の大学と交流を行っています。

東日本大震災こども未来基金交付式



左から西塚学生支援室長、山谷教授、朴澤学長、高成田教授(東日本大震災こども未来基金理事長)、大山学生支援センター長

4月12日(金)、昨年に引き続き、東日本大震災で親を亡くしたり、親が重度の障害を負ったりした子ども達に学資支援を行うNPO法人「東日本大震災こども未来基金」に、学内で集めた約30万円を寄付する「交付式」が学長室で行われました。寄付したお金は、昨年10月に開催した「東北こども博」のイベント売上金と商工会協賛金、大学祭でのチャリティーバザール売上金と募金、学内ボランティアセンターでのカウンター募金により集められたものです。

仙台大学東北こども博実行責任者である山谷幸司教授から、東日本大震災こども未来基金理事長の高成田享教授に目録が贈呈され、高成田教授からは仙台大学に対し、感謝状が授与されました。

スポーツ情報マスメディア学科映像アカデミーが「優秀賞」を受賞



「優秀賞」に輝いた映像アカデミー所属学生たち
(4月18日・第三体育館映像スタジオ)

平成25年2月16日(土)、せんだいメディアテーク7階スタジオシアターで「平成24年度仙台市自作視聴覚教材審査会」(主催:仙台市教育委員会)が開催され、仙台大学スポーツ情報マスメディア学科映像アカデミー(旧仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所映像アカデミー)の出品作品「仙台市におけるスポーツ振興」(DVDビデオ約20分)が社会教育部門において「優秀賞」を受賞しました。

同自作視聴覚教材審査会の開催趣旨は、「学校教育及び社会教育ともに学習内容が多様化し、学習内容に対応するきめの細かい自作教材の制作と確保が極めて重要になってきている。また、郷土の自然、歴史、文化等に関する視聴覚教材の充実が強く求められている。そこで、視聴覚教材自作活動の促進と内容の充実、制作技術の向上を図るため、同審査会を開催する」というものです。「優秀賞」受賞作品の「仙台市におけるスポーツ振興」DVDビデオの制作に、学生の指導的立場で携わった小野寺努臨時職員は、「仙台市内には様々なスポーツ団体や

スポーツ活動があるので、その一部を紹介し、知ってもらうことを意図した。また、スポーツ振興の一部に役立つ映像ソフトを制作することも目的の一部とした。取り上げたスポーツは、「地域スポーツ(ノルディックウォーキング、パークゴルフ等)」・「高齢者スポーツ(ペタンク、弓道等)」・「子ども向けスポーツ(ドッチビー、トランポリン等)」・「障害者スポーツ(車椅子バスケットボール等)」・「市民参加スポーツイベント(マラソン等)」の5つで、「地域色の強いもの」「あまり知られていないもの」を中心に「多くの人に知ってもらおう」を基本とした」と企画の意図を話されました。

ささきまこと

同映像アカデミー所属学生の佐々木誠さん(スポーツ情報マスメディア学科3年一登米高校出)は「応募作品が評価されて嬉しい。取材を通して、多くの出会いをし、自分自身が成長できた」「テレビ局の映像ディレクターの仕事に関心がある。大学卒業までにスポーツドキュメンタリーを制作してみた

おおともこうき

い」と意欲的に話し、大友晃貴さん(スポーツ情報マスメディア学科3年一名取高校出)は「良い作品に仕上げるために必死だった。審査員の方から出演者の表情がとても良かった、インタビュアーが良いから良い表情を引き出せたとお褒めの言葉を頂き、自信になった」「ラジオ局のディレクターを目指している。これからも学外に足を延ばし、積極的に取材したい」とそれぞれ今後の抱負を意欲的に話しました。

なお、同映像アカデミーの優秀賞受賞作品は、仙台市の小中学校及び社会教育の学習教材として利用されます。

「第7回しばたまちさくら回廊ボート体験会」を開催



ロンドン五輪ボート競技日本代表の岩本亜希子選手(中央)

4月20日(土)、柴田町内を流れる白石川北船岡河川敷を会場に、「第7回しばたまち白石川さくら回廊ボート体験会」が開催されました。

当日は柴田町内の中学生など約20名が参加し、満開の桜の中、仙台大学漕艇部員が同乗したボートを実際に漕ぎながら、白石川堤に咲く桜を眺めていました。

また、今回はロンドン五輪ボート競技日本代表の
いわもとあきこ
岩本亜希子選手(アイリスオーヤマボート部)や

おおもとひでき

OB大元英照選手(アイリスオーヤマボート部-H18年体育学科卒-塩釜高校出)も参加し、中学生にとっては貴重な時間となったようでした。

参加した中学生は「初めてのボート体験は楽しかった。また、桜も見ることができたのでよかった。オリンピック選手と一緒に体験することができてうれしかった」と語り、なかなかできない体験を楽しんでいる様子でした。

この体験会は、町内の中学生などが、身近にある豊かな自然を通し自分たちが住む町のすばらしさを再認識する、川の環境を保つ大切さを肌で感じる、柴田町の方々に漕艇を通して、スポーツに興味・関心を持って頂くことを目的に開催されているものです。

参加者への指導に携わった本学漕艇部員は「素晴らしい桜並木の下を漕ぐ経験は柴田町でなければできないこと。自分も含め、参加した子供たちに楽しんでもらえてよかった」と語り、主催者、参加者共に有意義な時間を過ごせたようでした。

<報告：漕艇部コーチ 石森靖明>

留学生歓迎お花見開催



仙台市では21日(日)朝、4月下旬としては昭和22年以来66年ぶりに積雪が観測されました。19日(金)お花見当日もその天気の前兆ともいえるほど寒空ではありましたが、留学生の歓迎会を兼ねたお花見会が船岡城址公園にて開催されました。夕方まで吹き荒れていた風も留学生を歓迎するかのようにおさまり、終始和やかな雰囲気での会が進行しました。

お花見会では、とある留学生が映画「スター・ウォーズ」の中の悪の大ボスであるダース・ベイダーの格好で、テーマソングを奏でる留学生と一緒に登場するという、サプライズがあり、大いに盛り上がりました。話す人が「寒いけれども…」と口にするたびに、「いや! 熱いこう!」という声が飛び交い学内でみせることのない笑顔がありました。

<留学生からのコメント>

「ある先生が、中国の元総理の周恩来氏と握手をしたことがあると聞いて驚いた。ちなみに、周恩来氏は私が一番尊敬している方だ。その先生と色々な話をして、写真を撮れてよかった。」(中国留学生)

「ドイツには桜祭りがないので、お花見はとても楽しかったです。」(ドイツ留学生)

お花見会には、想像以上の参加者が集まり、大いに賑わいました。このようなイベントを通して、留学生との親睦を深めていきたいと思います。

<報告：学生支援室 茗荷谷なつみ・石栗はるか>



第7回体育施設管理士 資格認定証授与式



体育施設管理士資格認定証を授与された学生たち

4月25日（木）、本学管理研究棟2階大会議室で「第7回体育施設管理士資格認定証授与式」が執り行われ、朴澤学長から学生一人ひとりに認定証が授与され、講話も頂きました。

体育施設管理士は、財団法人日本体育施設協会が認定している資格で、国家資格ではありませんが、教育委員会系列を主とした全国の体育施設に従事している者の中で、一定の知識のあるものに対して付与している資格です。

今回、同認定試験に合格した本学学生（43名合格）の中でトップの成績だったしみずかずや

清水和也さん（体育学科4年－郡山北工業高校出）は、「将来はスポーツ指導員を目指している。施設管理や安全管理に気を配れるスポーツ指導員になりたい。体育施設管理士の資格を就職試験でアピールしていきたい」と話しました。小島文雄体育施設管理コンサルタントは、「体育施設管理士の有資格者には、顧客満足度を満たす管理と法律に基づく安全管理を念頭に置きながらあらゆる施設で活躍してほしい。人の痛みの理解できる社会人になってほしい」と激励の言葉を送りました。

東北Liga Student2013開幕 —仙台大学女子サッカー部、常盤木学園高校とドロー—



試合前の仙台大学女子サッカー部



早坂が試合終了間際にミドルシュートを決め同点とする

4月14日（日）、仙台大学サッカー・ラグビー場で「東北Liga Student2013」が開幕しました。東北Liga Studentは、東北の高等学校・専門学校・大学が相互で密な交流と情報を図り、リーグ戦を通じて技術向上に努め、女子サッカーの普及・振興に貢献し日本女子サッカー界の学生の発展に寄与することを目的とした大会(公式試合)です。仙台大学女子サッカー部の同大会初戦は、常盤木学園高校。

仙台大学は開始早々、主将の落合優子（健康福祉学科4年—東北高校出）・小島ひとみ（健康福祉学科3年—聖和学園高校出）がシュートチャンスを作るも、ゴールを割ることができませんでした。試合は一進一退の攻防が続き、何度か危ない場面を作りましたが、仙台大学ディフェンス陣の体を張った粘り強い守りで、0-0で前半を折り返しました。

ハーフタイムには、この日、黒沢監督の代行として指揮を執った本多コーチは「相手の背後を狙うこと、しっかりと丁寧にボールをつなぐこと」を指示。しかし、後半に入っても縦パスを失う場面が多く見られ、後半12分、左サイドからボールを失い、そのまま攻め込まれます。そして、うまくDFのマークを外され、フリーでシュートを決められました。

失点後は、仙台大学攻撃陣の闘争心が感じられ、良い形でのサイドからの攻撃が増えました。試合終了間際に、早坂佳苗（運動栄養学科2年—聖和学園高校出）がフリーでボールを受け、ドリブルでゴールエリア前まで持ち上がり、豪快なミドルシュートを決め、同点に追いつき、1-1の引き分けに持ち込みました。

同点ゴールを決めた早坂は「負けている苦しい状況の中、決めることができている嬉しい。次はしっかり勝ち切りたい」と闘志を燃やし、1年生ながら攻守に渡り積極的なプレーを見せました。

升川礼衣奈（体育学科1年—山形西高校出）は「ボールを持ってから焦り過ぎてボールを失うことがあった。次は、もっと頭を使って冷静にボールを動かしていきたい」と抱負を話しました。



1年生ながら攻守に渡り積極的なプレーを見せた升川

なお、東北Liga Studentは、4月～7月まで予選リーグ（12チームを2ブロックに分けて1回戦総当たりのリーグ戦、8月～11月に決勝トーナメント（上位3チームが進出）・順位別リーグを行う予定となっております。

引き続き、仙台大学女子サッカー部への熱い応援を宜しくお願い致します。

【9・10面に関連記事】

東北Liga Student2013 第2節 —仙台大学女子サッカー部 5ゴールで勝利



升川がゴール左隅へ鮮やかなシュートを決め、4-1とする



ドリブル突破する須永



ハーフタイムに指示を出す黒沢監督

東北Liga Student2013第2節、「仙台大学—聖和学園高校」が4月20日（土）仙台大学サッカー・ラグビー場で行われました。

仙台大学は前半15分、右サイドを抜けた阿部楓（体育学科3年—東北高校出）が、ゴール前にいた門間香奈実（体育学科2年—東北高校出）に鋭く低いクロスを上げ、門間がそのままダイレクトで合わせ、先制ゴールを決めました。

これで仙台大学がペースをつかめるかと思われましたが、得点を奪った5分後の前半20分に失点し、1-1の同点とされました。この嫌な流れを断ち切りたい仙台大学は前半25分、ペナルティーエリア付近で相手DFのボールを奪ったますかわれいな升川礼衣奈（体育学科1年—山形西高校出）が豪快なシュートを決め、2-1と勝ち越し。ここから仙台大学は落ち着きを取り戻し、自分たちのペースで試合運びました。前半30分、門間がこの日2点目となるゴールを決め、3-1で前半を折り返しました。

仙台大学は後半開始1分、早坂佳苗（運動栄養学科2年—聖和学園高校出）のパスをゴール前で受けた升川がゴール左隅へ鮮やかなシュートを決め、4-1。後半23分、落合優子主将（健康福祉学科4年—東北高校出）が右サイドからクロスを上げ、須永愛海（体育学科1年—JFAアカデミー福島出）が体で押し込み5-1。後半27分、34分に立て続けに失点しましたが、5-3で勝利しました。

フル出場したGK上田恵里那（体育学科3年—岩手・不来方高校出）は「GKとして、DF陣との連携が課題。プレーだけでなく、DFへコーチングを行い、しっかりと状況判断したい。」「次にチャンスを与えられたら、失点をせずに、チームの勝利に貢献したい」と今後の抱負を話しました。

黒沢監督は「チーム全体としては30点。自分勝手なプレーで3失点。ボールが来る前に状況を見て判断ができていない選手が少ない。普段の練習から自分で状況を判断して、自分の頭で考えることを意識させていきたい」とチーム全体の課題を話しました。

仙台大学女子サッカー部へのなお一層のご声援を宜しくお願い致します。

【8・10面に関連記事】

東北Liga Student2013第3節 —仙台大学女子サッカー部、4-0で快勝



岩崎が鮮やかなロングシュートを決め、2-0とする



小島が豪快なシュートを決め、3-0とする



切れのある動きを見せた須永がシュートを放つ

東北Liga Student2013第3節「仙台大学—明成高校」が、4月27日（土）に仙台大学サッカー・ラグビー場で強風のなか行われました。

前半、仙台大学は強い向い風での攻撃。試合前に黒沢監督は「強い向かい風でのロングボールはボールが浮いて流される。パスをつないで攻撃を組み立てること」を選手たちに指示。

試合は終始、仙台大学ペースで進みました。前半7分、右サイドから抜けたMF門間香奈実（体育学科2年—東北高校出）がゴール前にスルーパス

を送り、MF岩崎杏奈（スポーツ情報マスメディア学科3年—前橋育英高校出）が合わせ、先制ゴールを決めました。前半26分には、岩崎が鮮やかなロングシュートを決め、この日2得点目のゴール。守りでは、ゴールエリア付近まで攻め込まれ、フリーで打たれたロングシュートをGK

遠藤徳奈美（体育学科4年—東北高校出）が見事

な反応を見せナイスセーブ。DF阿部楓（体育学科3年—東北高校出）・DF伊富貴さやか（体育学科4年—山形・羽黒高校出）らDF陣が体を張った献身的な守備を見せ、前半を2-0で折り返しました。

後半に入っても仙台大学ペースで試合が進みました。MF早坂佳苗（運動栄養学科2年—聖和学園

高校出）・MF八島麻奈（スポーツ情報マスメディア学科1年—東京・村田女子高校出）からの

パスを、FW須永愛海（体育学科1年—JFAアカデミー福島出）・FW小島ひとみ（健康福祉学科3年—聖和学園高校出）が相手DFの裏に抜け出してゴール前まで運ぶシーンが多く見られました。

後半6分、小島がドリブルで上がり、DF2人をおかわして豪快なシュートを決め3点目。後半35分には、須永が右サイドをえぐってゴールエリアに入り込むと走りこんできた門間にパス。門前からゴール前にフリーでいた早坂へきれいなパスを通しました。それを早坂がきっちり決めました。仙台大学は最後まで相手を圧倒し続け、4-0で快勝。

試合後、黒沢監督と本多コーチは「選手たちは今のボールの処理や対応が中心で、次の動きを予想する力が足りない。日々の実践を想定した練習を通して、状況を予測する力をつけていきたい」と厳しい表情で更なる選手たちの成長を期待しました。

【8・9面に関連記事】

仙台大学漕艇部から世界へ挑む —外崎海舟と中川ひかりが日本代表に選出



日本代表に選ばれた中川ひかり（左）と外崎海舟

とのさきかいしゅう

仙台大学漕艇部から男子主将の外崎海舟（体育学科4年—青森・むつ工業高校出）と女子の中川ひかり（体育学科3年—愛媛・宇和島水産高校出）がそれぞれ日本代表に選出され、世界へ挑みます。男子主将の外崎は、7月24日～28日にオーストリア・リンツで開催される「U23世界ボート選手権大会」の男子シングルスカルの日本代表に選ばれ、「パワフルさが自分の持ち味。

プレッシャーはあるが、自分の出せる力を全て出し切りたい」「上位入賞（9位以内）を目指す。実業団でも競技を続けたい。国際大会を通して人間的にも成長したい」と力強く活躍を誓いました。

また、中川は7月6日～8日にロシア・カザンで開催される「第27回ユニバーシード競技大会」のボート競技代表女子軽量級ダブルスカルの日本代表に選ばれ、「国際大会出場は高校時代からの目標。正直嬉しい」「いつも支えてくれている家族や監督・コーチへの感謝の気持ちを忘れず、しっかり結果が残せるよう頑張りたい」と少し緊張した面持ちで話しました。

仙台大学漕艇部の小谷コーチは「外崎・中川の両名は、今後の成長も期待できる素晴らしい逸材。チャレンジャーの気持ちを忘れず、自分らしく戦ってきてほしい。自分たちより実力者がいる中で自分の限界を突破してほしい」と活躍に期待を込めてエールを送りました。

世界へ挑む仙台大学漕艇部の外崎海舟、中川ひかりの活躍が期待されます。引き続き、熱いご声援を宜しくお願い致します。

仙台六大学野球春季リーグ開幕 —開幕カード1勝2敗で勝ち点を奪えず

4月13日（土）、仙台六大学野球春季リーグが開幕。

本学硬式野球部の開幕カードは、東北工業大学と1勝1敗のタイとなり、4月23日（火）に東北福祉大学野球場で第3戦が行われました。

たちばなかん

仙台大学の第3戦の先発投手は立花完（体育学科4年—土浦日大高校出）。初回を無失点に抑える好調な立ち上がりを見せまし

まつもともたろう

た。その裏、仙台大学の攻撃。3番松本桃太郎（体育学科1年—北海高校出）の二塁打で、幸先よく先制点を挙げました。しかし、5回に同点に追いつかれ、8回に2点を取られたところで、立花に

のぐちりょうた

代わって、前日の第2戦で被安打2の完封勝利を挙げた野口亮太（体育学科3年—前橋商業高校出）が2死2塁から登板。野口が投げた初球をいきなり相手4番打者に強振され、右越え2ランホームラン。1-5と主導権を握られました。

い がらしあゆむ

仙台大学は9回、3番松本のソロホームランと5番五十嵐歩（体育学科3年—帝京安積高校出）の右越え2ランホームランで1点差まで追い上げ、その後2死一、二塁の好機を作りましたが、後続が倒れ、惜しくも4-5の敗戦となりました。

開幕カードは残念ながら勝ち点を落としましたが、引き続き、本学硬式野球部への温かい声援を宜しくお願い致します。



第3戦に先発した立花投手

【12面に関連記事】

仙台六大学野球春季リーグ第三節一連勝で今季初の勝ち点



9回5安打無四球8奪三振でリーグ戦初勝利を完封で飾った熊原投手



0-0で迎えた5回裏、2死二塁から2番青木主将が決勝の中前打を放つ

4月28日（日）、東北福祉大学野球場で、仙台六大学野球春季リーグ第三節2回戦「仙台大学－宮城教育大学」が行われました。

仙台大学の先発投手熊原健人（体育学科2年－柴田高校出）は、初回を二者連続三振と外野フライ、2回は三者連続三振に抑える素晴らしい立ち上がりを見せました。

打線は5回裏、2死から四球で1番我妻真太郎（体育学科4年－山形中央高校出）が出塁。我妻

が盗塁を決め、2死二塁。続く2番青木一将主将（体育学科4年－東京農業大学第二高校出）がセンター前にヒットを打ち、我妻が還って1点を先制。最大のピンチは8回表、2死二塁からライト前にヒットを打たれ、二塁走者が一気に本塁を狙いましたが、ライト柳田恭平（体育学科4年－北海道・鶴川高校出）からの好返球でタッチアウト。

この日の熊原の最速は142キロ。球威のあるストレート、切れ味鋭いスライダーを軸に宮城教育大学打線を散発5安打無四球8奪三振と好投。バックの固い守りにも助けられ、嬉しいリーグ戦初勝利を完封で飾りました。

仙台大学は1-0で宮城教育大学を下して連勝（1回戦は9-0で七回コールド勝ち）し、今季初の勝ち点を挙げました。

試合後、森本監督は「熊原が要所を締め、いつも通りの力でよく投げてくれた。第三節（宮城教育大学戦の2試合）は、無四球・無失策の試合ができた。これが負けない、常勝チームの条件。次節も守り勝ちたい」と話し、気を引き締め直していました。

仙台六大学野球春季リーグ第四節は、5月3日（祝・金）13時30分～（VS東北大学1回戦）及び5月5日（日）11時～（同2回戦）が東北福祉大学野球場で行われる予定です。

【11面に関連記事】

<編集後記>

今回のMonthly Reportから表紙のデザインが新しくなりました。写真や色で「春」を演出してみました。いかがでしょうか。毎月、写真や色を変えて、季節感を出していきたいと思っております。

4月1日付で新たに教職員24名が加わりました。全教職員の皆様に楽しみにして頂けるような、親しまれる紙面づくりを心がけて参りたいと思っております。

皆様からのたくさんのご意見・ご感想をお待ちしております。

広報室

仙台大学 広報室



Monthly Report

TOKYO2020との連携協定を締結 = 仙台大学



参加38大学を代表して挨拶の辞を述べる朴澤学長

仙台大学は5月23日、東京都スポーツ振興局招致推進部及び東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会と、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動における連携協定を締結しました。東京都庁で行なわれた締結式には、今回協定を締結した国内77大学のうち38大学の代表者及び縁のあるアスリートが出席。第1回の締結大学と合わせて全国82の大学が連携することになりました。

小倉和夫・招致委員会評議会事務総長は、「7割の方が招致に賛同してくれているが、今後はさらに若い人たちの支持が必要。また授業でのオリンピック・パラリンピックについての議論や調査研究、選手・指導者・関係者の人材育成もお願いしたい」と述べ、大学との連携に大きな期待を寄せていることを明らかにしました。

また朴澤泰治本学学長は、参加大学を代表したスピーチの中で、「若い人にとってオリンピックは夢であり、これをぜひ実現したい。教育・研究・社会貢献という大学の使命においても招致活動に協力することはその役割の一つ」とメッセージを発信しました。

オリンピック教育を先導的に推進する筑波大学の真田久教授は、「これだけ多くの大学が連携することは日本のオリンピック史上初めてのことで世界的にも珍しい。近代オリンピックの父・クーベルタン男爵は『オリンピックの理念や精神を継続ならしめるには批判的性格を持つ大学の連携が必要』としたが、今回の連携はそれが具現化されたもの」と、協定締結の意義について解説しました。

本学は5つの連携事項で協定を締結。相互の資源を有効に活用しながら取り組みを進めていきます（「協定書」の連携事項については2面参照のこと）。

<報告：講師 阿部篤志>

< 目 次 >

TOKYO2020との連携協定を締結	1
吉田事務局長が着任 「春の叙勲」を本多名誉教授が受章	2
ジュニア新体操教室始まる	3
海を越えて輝く学生達(合同報告会)	4
仙台大学と丸森町社会福祉協議会との連携事業	5
学生の競技結果	6

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
 広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
 にも旬な話題を提供していきたいと考えて
 おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
 広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp



参加38大学によるフォトセッション



東京2020オリンピック・パラリンピック招致に向けて意気込みを見せるアスリートたち



仙台大学から出席した左から朴澤学長、2004年アテネ五輪4×400mR4位・OB佐藤光浩（H17年大学院修了—H15年体育学科卒—日大東北高校出）、阿部

2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動における
仙台大学と東京都・招致委員会との「協定書」に示された連携事項

- 1) 人的分野及び教育的分野での連携
- 2) オリンピック・パラリンピック招致に関わる研究分野での連携
- 3) オリンピックムーブメント推進に関する連携
- 4) オリンピック・パラリンピック招致に関わる国内PR活動での連携
- 5) スポーツ・健康を通じた被災地支援活動での連携

吉田龍哉事務局長、着任挨拶(5月1日付)



吉田龍哉事務局長

はじめまして、5月1日に事務局長に就任しました吉田でございます。
生まれは九州熊本です。社会人となったのは昭和49年で、東京大学に採用され、その後、いくつかの国立大学の転勤を経て、宮城教育大学で今年、定年を迎えました。縁あって仙台大学に勤務することとなりました。幸い、阿部副学長とは宮城教育大学で一緒に仕事をさせていただき、若井副学長とは全国教育系大学の会議で縁があり、お二人が副学長でおられることは私にとって心強い限りです。

住居のある船岡新栄から大学に向かって歩いていくと、右に雪の残る蔵王連峰が正面に船岡の観音様が見えます。毎日、すがすがしい気持ちで通勤しているところです。また、大学構内に入れば体育大学らしい学生の元気な挨拶があります。

「爽やかという字の風が吹いているこの翠なす五月の空を」

微力ではございますが「学生生活」・「教育」・「研究」のより良い環境づくりを行っていきたいと思います。学生の皆様、教職員の皆様どうぞよろしくお願いいたします。

平成25年「春の叙勲」を本多弘子名誉教授が受章



本多弘子名誉教授

平成25年4月29日付で、平成25年「春の叙勲」受章者が政府より発表され、本学の本多弘子名誉教授が「旭日双光章」を受章しました。長年にわたり、宮城県におけるレクリエーション活動の普及・発展に貢献した功績が認められての受章となりました。

なお、本多弘子名誉教授の叙勲受章記念祝賀会（宮城県レクリエーション協会主催）を平成25年8月31日（土）16時～「ホテル白萩」で開催する予定です。

留学生17名がACLベガルタ仙台—江蘇舜天(中国)戦を観戦

—OB蜂須賀選手(ベガルタ仙台)がフル出場し、1アシストの活躍—



留学生17名が5月1日(水)、留学生日本交流事業の一環として、ユアテックスタジアム仙台(仙台市泉区)でACL(アジアチャンピオンズリーグ)1次リーグの最終戦(第6戦)「ベガルタ仙台—江蘇舜天(中国)」の試合を観戦しました。

留学生たちは、日本で初めて観るサッカーの国際試合に、胸を躍らせながらスタジアムへ向かいました。スタジアムに着くや否や、特に中国人留学生はサポーターの中に混ざって大いに盛り上がっていました=写真左上。得点シーンのたびに一喜一憂し、試合終了(1-2)のホイッスルで江蘇舜天の勝利が決まった瞬間は、歓喜に満ち溢れていました。

ベガルタ仙台は残念ながら惜敗しましたが、

OB蜂須賀孝治選手(H24年体育学科卒—桐生第一高校出)が左サイドバックでフル出場、1アシストの活躍。蜂須賀選手は、本学OBとして誇らしく感じる勇姿を見せてくれました。



試合観戦していた中国人留学生の一人であったろけん蘆健さん(大学院2年—上海体育学院出)は、江蘇舜天の選手に依頼した結果、ユニフォームを頂くことができ、喜びを隠せない様子でした。

今回の観戦には、台湾・ドイツ・中国からの留学生が参加し、皆さんから大変好評でしたが、日本で母国のサッカーチームに触れ合えた中国人留学生にとっては、特にかげがえのないものになったのではないのでしょうか。

<報告：学生支援室 茗荷谷なつみ>

平成25年度 ジュニア新体操教室始まる



大学生と一緒にからだを動かす子ども達

5月15日(水)、仙台大学第4体育館2階ダンス・新体操場で「平成25年ジュニア新体操教室」が始まり、3歳から小学校6年生までの男女110名とその保護者が開校式に参加しました。

開校式では、まず本学事業戦略室の半澤和茂課長が諸注意を説明(=写真上)した後、本学新体操競技部の山梨雅枝副部長が挨拶を述べました。

開校式終了後は、第一回目の教室を行ないました。同教室では、はじめに、「じゃんけん列車」や「障害物競争」のゲームを行ない、みんなで仲良く楽しみました。次に、30分間、柔軟性を身に付けるためのウォーミングアップ。グループ(年齢・性別)に分かれて、簡単な手具操作の練習を行ない、初日を終わりました。

新体操競技部の河野未来監督は「子ども達には、新体操に必要な柔軟性やリズム感を養ってもらい、リボンやフープといった本格的な演技にも挑戦してもらいたい。大学生たちは、子ども達の発達段階に応じた指導法を学んでほしい」「安全面への目配り、気配りをしっかりしていきたい」と話しました。

なお、同教室は仙台大学男・女新体操競技部の学生たちが主体となって、12月初旬まで(毎週水曜日)実施していきます。

海を越えて輝く学生達(合同報告会)

5/13

Mon

17:30~

@第5体育館2階
大教室

仙台大学国際交流センター主催

海外留学研修報告会



どなたでも参加できます。
海外留学に興味がある人は
是非聞きに来てください!

〈報告者研修・留学先〉

- ・ 台湾・台東大学【短期交換留学】
- ・ フィンランド・カヤニ応用科学大学【短期交換留学】
- ・ アメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校【スポーツ栄養&スポーツマネジメントセミナー】
- ・ アメリカ・ハワイ大学【アスレティックトレーニング研修】【短期英語研修】
- ・ デンマーク・ノアフュンス国民大学【福祉研修】
- ・ ドイツ・カール フォン シェツキー大学オルデンブルク【交換留学】

お問い合わせは事業戦略室(A棟1階)まで



海外留学研修報告会案内ポスター

5月13日(月)17:30～ 第五体育館2階の大教室において、平成24年度に実施した海外研修・短期留学他に関し、参加した学生達による合同の報告会が行われ、朴澤学長、キーナート副学長をはじめ約70名もの多くの出席者が熱心に耳を傾けました。

発表をしたのは以下のとおりです。

- ①アメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校でのスポーツ栄養&スポーツマネジメントセミナー
- ②アメリカ・ハワイ州立大学でのアスレティックトレーニング研修ビギナーコース
- ③同大学での短期英語研修プログラムNICE
- ④デンマーク・ノアフュンス国民大学での福祉研修プログラム
- ⑤フィンランド・カヤニ応用科学大学での短期交流留学プログラム
- ⑥台湾・台東大学での短期交換留学プログラム
- ⑦ドイツ・カール フォン シェツキー大学オルデンブルクでの交換留学

最初に鎌田国際交流センター長より「海外で学んできた34人の学生達の成果に期待し、積極的な質疑応答をお願い致します」とのご挨拶がありました。

引き続き、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校での研修に参加した9人をはじめ、7つのグループの学生達が現地で学んだ英語やドイツ語に果敢に挑戦し、動画を駆使しながら発表しました。



デンマークにおける福祉プログラムでは、サービスを提供するだけでなく自分達ができることはするという理念に学ぶ点が多かったそうです。高齢者センターでは学生達がカレーを作り、施設の方々に大変喜ばれたとのことでした。幼稚園・小学校は少人数で生徒一人一人がクリエイティブな発想をすることが大事にされているそうです。

台湾の台東大学に短期交換留学した3人は、日本と違い学生が授業で活発に発言しており、学生同士が教えあっていたことが印象的だったと述べました。

ドイツに1年滞在した学生は交換留学第1号と、これまで誰も手掛けていないからこそ価値があり、できるだけ日本人がいない場所・大学へ行くことを勧めていました。ドイツでは子供の頃から自分の意見をきちんと発言するよう育てられ、教師と学生との会話・対話が多い学生参画の授業であることも紹介されました。

彼らが共通して述べていたのは、①英語によるコミュニケーションの重要性②積極的な意思表示の必要性③日本の良さを再発見することの大切さです。

最後に朴澤学長より「報告会は年々、内容が濃くなっています。海外に行くことは日本を知る第一歩でもあり、体験した内容を資料として整理し、このように人前で発表することは、お互いに向きあって学ぶチャンスです。是非継続してください」とのお言葉がありました。34人が得た知識・経験は彼らだけにとどまることなく、これからさらに発展しつつ、後輩たちへと受け継がれていくことでしょう。

仙台大学と丸森町社会福祉協議会との連携事業 —丸森たんぼぼこども園「運動クラブ」を初開催



幼児たちと楽しくリズム体操をする山梨講師＝丸森町民体育館

5月22日（水）、仙台大学と丸森町社会福祉協議会との連携事業である丸森たんぼぼこども園（保育所と幼稚園の機能が一体化した施設）の「運動クラブ」が丸森町民体育館で初めて開催され、本学の山梨雅枝講師（ダンス）が4・5歳の幼児約80名と一緒に、60分間、楽しみながらリズム体操を行いました。

参加した幼児たちは、大きな歓声と笑顔でイキイキと体を動かしていました。

本事業は、平成25年4月に仙南地区で初めて開設された丸森たんぼぼこども園の「運動クラブ」の運営について、本学が持つ教育的資源を活用し、「幼児の健全なる発達並びに能力開発」に寄与することを目的としています。

丸森町社会福祉協議会の小野浩昭事業局長は「子どもたちが楽しそうに、ニコニコしながら体を動かしていた。体育の専門大学である仙台大学の先生方から指導してもらえるのが有難い。本事業を通して、運動好きの子どもが増えると同時に、子どもたちの豊かな心、健やかな体が育つことを期待している」と話しました。

なお、本事業は、3月まで20回にわたり開催する予定です。

仙台ハーフマラソン大会 国際姉妹都市等交流会



5月12日（日）、第23回仙台国際ハーフマラソンが晴天の下、仙台市内で開催された。

東日本大震災による中止を経て、昨年から市民ランナーにも開放され規模を拡大した今年は、車いすの部などを含め、これまで最多の1万2874人が参加し、女子マラソン五輪優勝の野口みずき選手や世界陸上選手権マラソン代表の川内優輝選手ら有名ランナーとともに、新緑がもえる杜の都を快走した。

大会終了後には、国際姉妹都市・友好都市等からの選手団と仙台市民の交流を目的として、江陽グランドホテルにおいて交流会が開かれ、これも過去最高となる230名が出席し、ベラルーシ共和国ミンスク市や長春市等8国の選手団の紹介や成績発表と表彰、アトラクション等国际色豊かに行われ、交流を深めた。

特に、ミンスク市と仙台市は今年姉妹都市協定締結40周年目を向え、本学においても平成21年度から新体操の先進国であるベラルーシ共和国より新体操競技部のコーチとして指導者を迎えている。現在2人目となるエレナコーチは、東日本インカレの大会と重なり、残念なことに出席はできなかったが、学長をはじめ、中国からの留学生も交流会に出席し、選手団と楽しい時間を過ごした。

<報告：新体操競技部 部長 大山さく子>

仙台六大学野球春季リーグ第四節一連勝で勝ち点を2に伸ばす



リーグ通算15勝目を挙げた野口亮太投手(5月3日・東北大学1回戦)



今季リーグ初勝利を挙げた立花完投手(5月5日・東北大学2回戦)



3打数3安打3打点の活躍を見せた5番DH斎藤(5月5日・東北大学2回戦)

仙台六大学野球春季リーグ第四節の5月3日（金）、東北福祉大学野球場で「仙台大学－東北大学」の1回戦が行われました。

仙台大学は一回表、1番我妻真太郎（わがつましんたろう 体育学科4年－山形中央高校出）、2番青木一将主将（あおきかずまさ 体育学科4年－東京農業大学第二高校出）、3番松本桃太郎（まつもともたろう 体育学科1年－北海高校出）のそれぞれが初球を安打し、3球で無死満塁のチャンスを作り、6番五十嵐歩（いがらしあゆむ 体育学科3年－帝京安積高校出）の右前打などで一挙に4点を先制。二回裏、先発野口亮太（のぐちりょうた 体育学科3年－前橋商業高校出）が東北大学打線に捕まり、3点を返され4－3。仙台大学は、二・三・四回と無得点に終わり、序盤は苦しい試合展開を強いられました。しかし、

4－3で迎えた五回表、仙台大学は、柳田恭平（やなぎだきょうへい 体育学科4年－北海道・鶴川高校出）が中越え2点二塁打を放ち、追加点を取り6－3。これで勢いに乗った仙台大学打線は、六・七・八回にも追加点を奪い、10－3。先発野口は、二回以降を1安打無失点に抑える力投を見せました。八回裏には、金沢光基（かなざわみつき 体育学科4年－札幌創成高校出）が今季リーグに初登板。1回を三者凡退に抑え、仙台大学は10－3（八回コールド）で東北大学を下し、先勝しました。

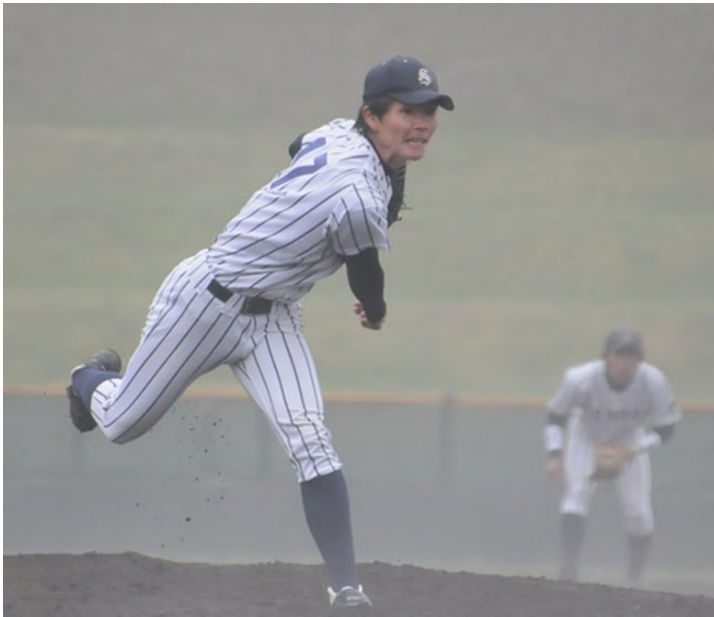
5月5日（日）、東北福祉大学野球場で同2回戦が行われました。

仙台大学は1回裏、先頭の我妻が敵失で出塁。2番青木が四球。3番松本がきっちり送って1死二三塁。4番馬場康治郎（体育学科4年－利府高校出）が四球を選び、1死満塁のチャンスで5番DH斎藤寛生（体育学科4年－聖光学院高校出）の右前打で先制。2死後、7番柳田の左前2点タイムリーで3点を先取しました。4回裏は、我妻・馬場のタイムリーで5－0。さらに続く斎藤が、2死一二塁から右中間を深々と破る三塁打を放ち2点を追加。7－0と主導権を握りました。斎藤は3打数3安打3打点と活躍を見せました。5回裏、1死一二塁から我妻の右前タイムリーで8－0。一三塁から青木のセフティーバントが決まり、相手守備の乱れも重なり一塁走者も生還。これで仙台大学は、10－0（五回コールド）で東北大学に勝ち、連勝で勝ち点を2に伸ばしました。

先発の立花完（たちばなかん 体育学科4年－土浦日大高校出）は、130キロ後半の直球とチェンジアップを有効に決め、東北大学打線を5回3安打6奪三振に抑え、今季リーグ初勝利を挙げました。

引き続き、仙台大学硬式野球部への熱い応援を宜しくお願い致します。

仙台六大学野球春季リーグ第五節—5季ぶり東北学院大学から勝ち点



最後まで気持ちを切らさず、粘り強く投げた立花投手
(5月13日・東北学院大学3回戦)



2番青木主将が右前にタイムリーを放つ
(5月12日・東北学院大学2回戦)

5月13日（月）、1勝1敗で迎えた東北学院大学との第3戦が、東北福祉大学野球場で行われました。

1回表、仙台大学は敵失で先制。しかし、2回裏、1死一三塁から内野ゴロで同点とされました。1-1で迎えた五回表、先頭の1番・わがつましんたろう我妻真太郎（体育学科4年—山形中央高校出）が左前打で出塁。

あおきかずまさ2番・青木一将主将（体育学科4年—東京農業大学第二高校出）が送りバントをきっちり決

まつもともたろうめ、1死二塁。続く、3番・松本桃太郎（体育学科1年—北海高校出）が右越え三塁打を放ち、2-1と勝ち越し。ツーアウトから5番・DH さいとうひろき

齋藤寛生（体育学科4年—聖光学院高校出）の打席で、暴投で三塁走者の松本が生還し、3-1。5回裏、内野ゴロで1点を返され、1点差。7回裏、2死三塁と同点のピンチを迎えますが、後続を内野ゴロに抑えました。仙台大学は、3-2（濃霧による7回コールド）で東北学院大学を下して、2010年秋季リーグ以来、5季ぶりに東北学院大学から勝ち点を挙げました。

この試合は途中、濃霧で1時間13分試合が中断。濃霧による3度の試合中断という悪いコンディションの中でも気持ちを切らさず、粘り強 たちばなかん

い投球を見せた立花完（体育学科4年—土浦日大高校出）の活躍が光りました。

立花は、5月11日（土）の東北学院大学第1戦にも先発し、東北学院大学打線を1点に抑え、完投勝利を挙げました。

引き続き、仙台大学硬式野球部への一層のご声援を宜しくお願い致します。

仙台大学サッカー部、総理大臣杯東北地区予選一初戦を16-0で大勝



FW川島がこの日4得点目のゴールを決める



後半途中出場のFW新井が左隅へ強烈なシュートでゴールを決める

5月12日（日）、仙台大学サッカー・ラグビー場で「平成25年度第14回東北地区大学サッカー選手権大会兼第37回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント東北地区予選」の初戦が行われ、仙台大学は東北学院大学工学部と対戦（本学サッカー部は2回戦から登場）しました。

仙台大学はキックオフから相手を圧倒しすがいたくやました。前半2分、DF菅井拓也主将（体育学科4年一かわしましろうじ聖和学園高校出）からのクロスみねざしひかるを川島章示（スポーツ情報マスメディア学科1年一柏レイソルユース出）が流し込み先制。川島は前半だけでハットトリックを達成しました。MF嶺岸光（体育学科4年一聖和学園高校出）は動きがよく、積極的なプレーで4得点の活躍。また、後半10分から途中出場した183cmの長身FWあらいれいじ新井侖治（体育学科2年一聖光学院高校出）もフィジカルを生かしたダイナミックなプレーで4得点を挙げる活躍を見せました。菅井主将とMFしげたしゅうと繁田秀斗（体育学科1年一浦和レッズユース出）もそれぞれ2点を挙げ、同東北地区予選の初戦を16-0で大勝しました。

引き続き、仙台大学サッカー部への応援を宜しくお願い致します。

女子柔道部一東北学生柔道優勝大会7連覇達成



大会7連覇を達成した女子柔道部の選手たち

5月26日（日）、宮城県武道館（仙台市太白区）で「東北学生柔道優勝大会」が行われ、仙台大学女子柔道部は見事大会7連覇を達成しました。

3校（仙台大学・富士大学・東日本国際大学）によるリーグ戦で優勝が争われ、仙台大学は富士大学に3-0、東日本国際大学に7-0で勝利するという内容。

くどうちか 工藤千佳（現代武道学科2年一青森・五所川原農林高校出）が2試合全てで一本勝ち。1年生ながしなるみら富士大学戦に大将として出場した志賀成美（現代武道学科1年一福島・磐城農業高校出）が「後ろけさ固め」で一本勝ちを決める活躍を見せましせとみさとた。大会優秀選手賞は、瀬戸美里主将（体育学科4年一東北高校出）が選ばれました。

南條和恵監督は「優勝できてホッとしている。今年のチームは派手さはないが、チームワークが抜群で雰囲気の良いチーム」と笑顔で話し、「全国で十分戦える力はある。全国ベスト8を目標に頑張りたい」と力強く抱負を話しました。

なお、仙台大学女子柔道部は、6月22日（土）に東京・日本武道館で開催される「全日本学生柔道優勝大会」に出場します。

引き続き、仙台大学女子柔道部への熱い応援を宜しくお願い致します。

男子サッカー部—総理大臣杯東北地区予選、4年連続29度目の優勝で全国へ



4年連続29度目の優勝を果たした男子サッカー部



延長後半8分、DF菅井主将(2)がPKを決めて2-1とする



FW川島章司(9) (スポーツ情報マスメディア学科1年-柏レイソルユース出)がダイレクトボレーシュートを放つ



DF中條(29)がヘディングシュートを放つ

5月26日(日)、快晴の中、宮城県松島フットボールセンターで「平成25年度第14回東北地区大学サッカー選手権大会兼第37回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント東北地区予選」の決勝が行われました。

仙台大学は富士大学と対戦しましたが、30分間の延長戦でも決着がつかず、PK戦にもつれ込む苦しい試合となりました。前半、相手の勢いのある攻撃により、ピンチを迎える場面もあり

なかじょうわたる
ましたが、DF中條渡(体育学科3年-東北高校出)らの体を張ったディフェンスで得点を許しませんでした。お互い決定機を決めきれず、一進一退の攻防が続き、前半を0-0で折り返す互角の試合展開となりました。

後半15分、試合が動きました。仙台大学は中盤で相手のボールを奪い、MF嶺岸光(体育学科4年-聖和学園高校出)がドリブルでペナルティーエリア左前に持ち込み、右サイドでパス

にしむらこうじ
を受けたFW西村光司(体育学科4年-ベガルタ仙台ユース出)が中央に切り込んで先制ゴールを決めました。しかし、後半30分、相手にPKを決められ、1-1の同点に追いつかれました。

その後は双方譲らず、1-1のまま延長戦に突入しました。延長後半8分、MF嶺岸が左サイドを崩してペナルティーエリア内に入ったところを相手DFに倒されPKを獲得。これをDF

すがいたくや
菅井拓也主将(体育学科4年-聖和学園高校出)が落ち着いて決めて2-1と逆転しました。しかし富士大学も最後まで粘りを見せ、残り1分となった延長後半14分、コーナーキックからDFが頭で合わせ、土壇場で2-2の同点としました。そしてつれ込んだPK戦では、仙台大学が4人連続でゴールを決め、PK戦を4-2で制し、同東北地区予選で4年連続29度目の優勝を果たしました。

試合終了後、吉井監督は「厳しい試合になったが、選手たちは強い気持ちを見せ、本当によくやってくれた。チーム全体で力がついてきた」と手応えを口にし、瀬川ヘッドコーチ(ベガルタ仙台からの派遣)は「最後まで勝つ気持ちを切らさずに、ピッチとベンチが一丸となって戦うことができた。全国大会(総理大臣杯)では、3年前に3位に入ったが、昨年と一昨年はいずれも1回戦でPK負けを喫し、悔しい思いをしている。全国大会でも攻撃的なポゼッションサッカーで上位進出をねらいたい」と優勝の喜びを噛み締め、全国大会での活躍を誓いました。

なお、仙台大学男子サッカー部は、8月8日(木)～大阪府で開催される「総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」に出場します。

引き続き、仙台大学男子サッカー部への温かい応援を宜しくお願い致します。

第66回東北学生陸上競技対校選手権大会 —男子棒高跳びで柴田恭平が大会タイ記録で初優勝



自己ベストを更新し、5mの記録で初優勝を飾った柴田の跳躍

5月17日（金）、「第66回東北学生陸上競技対校選手権大会」が宮城スタジアム（宮城県利府町）で行われ、男子棒高跳びで柴田恭平（運動栄養学科3年—山形・楯岡高校出）が5mの大会タイ記録で初優勝を果たしました。

柴田は中学の時に棒高跳びを始め、楯岡高校時代にインターハイに出場しましたが、予選落ち。全国の強さを改めて実感。その悔しさをバネに、仙台大学入学後も努力を続けてきました。

大会タイ記録で初優勝を飾った柴田は「初優勝は正直嬉しい。大学入学後は、5mを越すことを目標に頑張ってきた。これで満足せずに、日本学生陸上競技対校選手権大会（日本インカレ）でも上位進出できるよう頑張りたい」と笑顔で話し、次の大会を見据えていました。

なお、男子棒高跳びは、三宅怜（体育学科1年—岩手・黒沢尻工業高校出）と菅原諒平（体育学科4年—盛岡南高校出）が4m40cmで3位に入りました。



第66回東北学生陸上競技対校選手権大会 —男子三段跳びで今野勝貴が3連覇達成

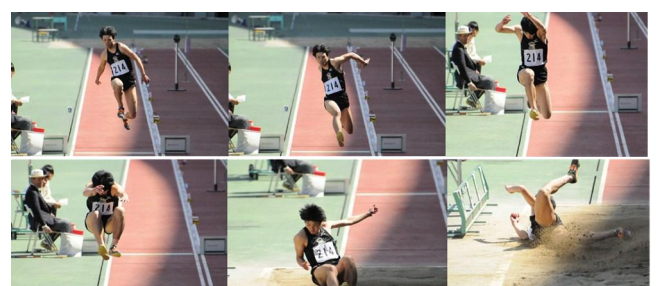


東北学生陸上競技対校選手権3大会連続優勝を果たした今野の跳躍

5月17日（金）、「第66回東北学生陸上競技対校選手権大会」が宮城スタジアム（宮城県利府町）で行われ、男子三段跳びで今野勝貴（体育学科3年—山形中央高校出）が14m88cmで見事3連覇を達成しました。

今野は山形中央高校時代に、三段跳びで2年連続インターハイと国体に出場しましたが、予選敗退。仙台大学入学後は、全国でも通用する選手になることを目標に頑張ってきました。

3連覇を達成した今野は「左脚の怪我を押しての出場となった。3連覇は達成できたが、記録は不満。この大会で右脚も怪我してしまった」と不安を漏らし、「昨年の日本学生陸上競技対校選手権大会（日本インカレ）では、自己ベストを更新（15m54cm）し、11位となった。去年は、僅差で入賞を逃した。早く両脚の怪我を治し、日本インカレで入賞できるよう練習に励みたい」と今後の決意を力強く話しました。



バスケットボール「全日本クラブ選手権」優勝にOB森繁一コーチが貢献



最後列左から2番目が森コーチ（写真提供=SWOOPS）

3月11日（月）、大阪市中央体育館で行われたバスケットボールの「第39回全日本クラブ選手権」で、OB森繁一もりしげかずコーチ（H8年体育学科卒一岐阜農林高校出）率いる東海地区第2代表のSWOOPSが初優勝を果たしました。

昨年まで森コーチは、SWOOPSのチーム最年長選手（当時38歳）として全日本総合バスケットボール選手権大会に出場するなど活躍。今年からコーチとして、チームの指導にあたっています。

森コーチは「チームが立ち上がって8年目で優勝を掴み取った。優勝した瞬間は感無量だった。当然2連覇を目指すのが、11月に行われる全日本社会人バスケットボール選手権でも全国優勝を狙う」「大学時代は人との出会いに恵まれ、貴重な経験ができた4年間だった。人生を生き抜く上で大切なことは、大学時代のバスケットボールを通して学んだ。世の中は厳しいが、負けずに頑張っていきたい」と力強く話しました。

森コーチの大学時代に、バスケットボール部の監督であった児玉教授は「自分の置かれている状況や立場をわきまえて、その中で高い目標を掲げ、仙台大学の卒業生としての誇りを忘れずに頑張っている森君の姿勢に感動する」と教え子の成長に目を細めて話しました。

仙台大学 広報室



Monthly Report

女子サッカー部、MF加賀孝子がユニバーシアード日本代表に選出される



左から黒澤尚監督、加賀選手、本多純子コーチ=仙台大学サッカー・ラグビー場

かがこうこ

本学女子サッカー部のMF加賀孝子（スポーツ情報マスメディア学科2年一ジェフユナイテッド市原・千葉レディース出一宮城・聖和学園高校出）が、7月5日（金）にロシア・カザンで開幕する「第27回ユニバーシアード競技大会」の女子サッカー日本代表に選出されました。

加賀がサッカーを始めたのは5歳から。聖和学園高校3年時に主将を務め、3年連続で全国高校選手権に出場。高校2年時には同選手権3位の成績を残しました。その後、なでしこリーグのジェフユナイテッド市原・千葉レディースで3年間プレー。もう一度プロの舞台に立つこと、教員免許を取得することを目標に仙台大学への進学を決意しました。

ユニバーシアード日本女子代表に選ばれた加賀は、「国際大会は初めての経験。自分の持ち味である足元の技術を生かし、ゴールを狙ってチームの勝利に貢献したい」と意気込みを語り、「目標は優勝」ときっぱりと語りました。

ユニバーシアード日本女子代表チームのGKコーチとして帯同する本学女子サッカー部の黒澤尚監督は、「チームとして優勝を目指す。加賀はボール奪取能力が高い選手。得点に絡むプレーを期待したい」とエールを送りました。

なお、ユニバーシアード日本女子代表チームは、7月5日（金）グループリーグ第1戦エストニア、7月7日（日）同2戦イングランド、7月9日（火）同3戦ブラジルという対戦スケジュールが組まれています。

< 目 次 >

女子サッカー部、MF加賀孝子がユニバーシアード日本代表に選出される	1
東京おもちゃショー2013本学から「認知動作型トレーニングマシン」で出展	2
地域連携事業報告「みんなで行うレクリエーションの楽しさについて」	3
チリ・ブラジル報告	4
2013新体操競技部ベラルーシ短期研修報告	4
学生の競技結果	6

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
 Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

震災復興記念プールが完成



①

5月31日（金）、東日本大震災で使用が不可能になっていた室内温水プールが完成し、鹿島建設株式会社から仙台大学に引き渡され、「震災復興記念プール」と命名されました。

震災復興記念プールは、25m×8コースで、ダイビング用プール槽（深さ3m）を備えています。さらに、同記念プールの屋根に太陽光発電システムを設置して作られた電力を同プール設備内において利用すると共に、発電量等を示す電光表示板を設け、学生及び教職員への啓発を行います。太陽光発電の導入により、太陽エネルギーの利用拡大による二酸化炭素（CO2）削減に貢献していきます。



②



③



④

①震災復興記念プールの外観
②③内観（25m×8コース）
④ダイビング用プール槽

東京おもちゃショー2013へ本学から「認知動作型トレーニングマシン」で出展



上下：東京おもちゃショーでの本学の様子

国内外148社より約3万5千点のおもちゃを一同に集めた展示会となっています。一般公開日の来場者は15日が67千人で16日が73千人と2日間で14万人との盛況ぶりでした。その中で子供文化の発展に賛同する企業や団体を集めた「キッズライフゾーン」に昨年に引き続き本学は出展しました。

今年の展示内容は昨年同様、パーテーション掲示として本学PRパネル（「大学紹介」1枚、「災害ボランティア」3枚、「東北こども博」11枚、「認知動作型トレーニングマシンシステム」4枚の計19枚（その他「東北こども博」報告書を設置））を掲示し、併せて今年は、「運動会で一等賞をとるためのマシン体験 ～誰でも足は速くなる～」のキャッチフレーズで「認知動作型トレーニングマシン」と「ランニングマシン（トレッドミル）」（早川公康准教授担当）を展示しました。

参加スタッフとして、早川先生と学生スタッフ3名、保守点検業者2名、千葉コンサルタントと学生支援室の西塚室長の合計8名で対応しました。

当日は小学生中心に老若男女が各マシンにチャレンジし、1人当たり2分～3分の利用でその数、1日当たり300人で合計600人程度と、行列が途絶えることなく大盛況でした。

「東北こども博」共催の社団法人日本玩具協会が主催する「東京おもちゃショー2013」が、6月13日～16日（一般公開は15日と16日）まで東京都江東区有明の東京ビッグサイトにおいて開催されました。

<報告：学生支援室 室長 西塚重良>

地域連携事業報告

平成25年度 第1回仙台大学連携協力事業・講習会

「みんなで行うレクリエーションの楽しさについて」



6月14日（金）の午前10:00～11:30第1体育館にて、本学が連携協定を結んでいる大崎市からの要請を受け表題の講習会を仲野・岡田が実施いたしました。平日ということもあり、1名を除き全員が女性の方でしたが、みなさんそれぞれ地域において震災復興に関わっている方々のようでした。

先方からバスで本学を訪れてくださったこと、また現在教育委員会に勤務していらっしゃる本学卒業生が来られたこともあり、人数は少数でしたが、講習会自体は大いに気合いを入れて実施いたしました。なお、担当した仲野は、大崎市スポーツ振興計画策定に当たり1年間実行委員会のアドバイザーを務めました。岡田先生は、現在大崎市のスポーツ推進委員を務めておいでです。

当日の講習会の内容は、参加された方々が地元に戻られリーダーとしてレクリエーションの支援を実施されることを想定し、楽しさ・面白さの演出並びに人と人との交流のフローとその演出方法について、ゲームメニューの資料も用意したうえで仲野が実演を通して理解を深めてもらうというものでした。また、身近なものを使って楽しめるレクゲームについても紹介いたしました。最後の5分間で楽しさの本質である「フローの概念」や「グループダイナミクス」について、野外教育の専門家である岡田先生に作成していただいた資料を基に簡単なお話をさせていただきました。

みなさん、終始笑顔で楽しく参加されていたのが印象的でした。我々の講習会の後は、学食で食事をされ、その後大学の施設見学をされ大崎に戻られたと聞きました。大崎市の震災復興に少しでも役立ってくれることを切に願います。

＜報告：体育学科長 仲野隆士＞

チリ・ブラジル報告



6月18日にチリサッカー協会を訪問し、チリの指導者養成学校(Instituto Nacional de Futbol)の校長(Rector Instituto Nacional del Futbol)であるNORMAN BULL氏、指導者養成担当責任者(Director Carrera de Entrenador de Futbol)であるLuis Rodriguez氏(=写真上の右)、12歳以下の指導者養成責任者Ivan Endre氏と会談した。

チリサッカーにおける指導者養成について、資格付与の制度に関する情報や、指導者養成講座で行われている教育内容・編成までかなり詳細に説明をして頂き、会談は4時間以上に及んだ。

現在ブラジルW杯南米予選で4位に位置し(2013年6月27日時点)、南米の中ではブラジル・アルゼンチンの2強に次いで、ウルグアイ等とともに常に強豪国であり続けるチリの育成に関する情報を惜しげもなく話して頂き、また、指導者養成講座で使用している資料やデータを頂戴した。

また、チリサッカー協会内で、旧知の仲である現チリ女子代表監督(元Universidad de Catoricaユース監督兼ダイレクター)のRadonich氏とも会談した。

その後FIFAが2014年ブラジルW杯開催に向けて行っているエコ対策の調査をブラジルにて行い、6月20日にはW杯決勝が行われる予定のマラカナンスタジアム(Rio de Janeiro)(=写真下)を、6月22日にはコンフェデ杯準決勝が行われる予定のミネイロンスタジアム(Belo Horizonte)を視察した。

また、ミネイロンスタジアムではコンフェデ杯グループリーグ予選の日本対メキシコを視察した。

<報告：男子サッカー部監督 吉井秀邦>



2013 新体操競技部ベラルーシ短期研修報告



世界有数の新体操王国であるベラルーシは、著名なメダリストを多数輩出しており、また育成システムも先進的である。一方で同国は、独裁体制など政治的後進性が度々指摘されており、国家主義的色彩の濃いディナモ(総合型スポーツクラブ)を中核とするスポーツ体制には根強い批判もある。本研修を通じては、こうしたベラルーシの先進性と後進性の両面の一端を垣間見ることができた。

他方で本学新体操部員が現地のアスリートと交流を深めながら自らの技術を研鑽できた点は、非常に有意義だったといえよう。また、観劇や見学などを通じて部員が得た刺激や感動もまた、彼女らの創造性や演技力に積極的な影響を与えるものと確信している。研修を通じて得た成果をいかにして本学新体操部の更なる発展に結びつけるか、今後の検討課題としたい。

日程：2013年6月16日(日)ー6月23日(日) (6泊8日)

人員：新体操部部員：11名・教員：4名(朴澤泰治学長・小田圭吾講師・山梨雅枝講師・河野未来新助手)

現地にてエレナ新体操部コーチ、丹羽涼子助教と合流

<主たる研修内容>

新体操部と現地新体操プレイヤーとの合同練習

(於：ベラルーシ国立スポーツ大学・マニージュスポーツクラブ・ディナモスポーツクラブ)

ベラルーシ国立バレエ団およびサーカス団による公演観劇

ミンスク副市長への表敬訪問仙台

ベラルーシ交流記念公園の見学

<報告：新体操競技部 副部長 山梨雅枝>

OG千田理愛さん(H18年健康福祉学科卒—明成高校出)からの便り



私は仙台大学を卒業してから愛知県の教員として高校生に福祉を教えています。大学生のときに海外でボランティアをしたいという夢を持っていましたが、なかなか実現することができませんでした。今回、青年海外協力隊の現職教員特別参加制度を利用し、

2012年6月から私は青年海外協力隊のボランティアとしてタイの東北部にある

ナコーンラチャシーマー県にある女性保護・職業訓練センター（施設名バーンナーリーサワッド＝写真上）で活動しています。

この施設では人身取引被害に遭った女性（未成年の売春、児童労働、暴力、貧困、家族との死別など）が保護され、共同生活を送り、あわせて職業訓練を受け社会復帰を目指しており、現在は、タイ人、ラオス人のおよそ80人が保護されています。

私はその施設の中で、入所者の少女たちが少しでも楽しく生活できるように、レクリエーションやスポーツ、手工芸、日本文化の紹介などさまざまなアクティビティーを行っています。簡単に言うとなんでも屋のような感じです。タイへ来たころは言葉（タイ語）もあまり通じず、伝えたいことが伝えられなかったり、いろいろ悩みましたが、現在、タイへ来て1年が過ぎ、多くの人に助けて頂きながらタイの良さも味わえるようになりました。例えば、この施設へ来る少女たちは自分の意思ではなく売春をさせられたり、工場で働かせられたりとさまざまな境遇を経て保護されました。しかし、施設ではとびっきりの笑顔で、さらにタイ人らしい人懐っこさでいつも明るく笑い声が絶えません。タイの人は本当に笑顔ですごしていることが多く、私が困っていると「チューアイドゥーアイ（私も手伝うよ）」と言ってさっと手を貸してくれます。また、何かハプニングや困ったことがあっても「マイペンライ（大丈夫だよ）」と言って助けてくれます。その優しさに助けてもらいながら活動できることに感謝しています。

ボランティア活動を通してタイの文化を知り、驚くこともあります。さらに施設における少女たちの生活が向上するよう残りおよそ8ヶ月の任期を楽しみながら施設の職員と協力し、頑張っていきたいと思います。

仙台大学硬式野球部—2季連続新人戦優勝



3番・松本がセンターオーバーへの一打を放って、サヨナラ勝ちとした



サヨナラ勝ちの瞬間、抱き合っって喜ぶ仙台大ライン



9回1死一二塁から2番手で登板し、4回1/3を無失点に抑えた影浦投手

6月2日（日）、東北福祉大学野球場で仙台六大学野球春季新人戦準決勝と決勝がダブルヘッダーで行なわれ、準決勝で仙台大学が4-3（タイブレーク11回）で東北福祉大学にサヨナラ勝ち。決勝は東北学院大学と対戦し、息詰まる投手戦となりました。

仙台大学の先発投手は、あらかきゆうや荒木雄哉（体育学科1年—長崎・清峰高校出）。荒木は、130km前半のストレートと変化球を織り交ぜ、コーナーを丁寧に突いて、東北学院大学打線を打たせて取り、9回1/3を無失点4安打7奪三振の見事な投球を見せました。0-0で迎えた9回1死二塁の場面

かげうらまさとで、2番手・影浦雅人（体育学科2年—北海道・旭川実業高校出）と交代。影浦は、このピンチをサードファールフライと三振に抑え、試合は0-0のまま延長戦に突入。

延長13回表、影浦が2死二三塁のピンチを招いたところで、くまばらけんと3番手・熊原健人（体育学科2年—宮城・柴田高校出）が登板。この最大のピンチを熊原が3球三振に仕留め、精神的な強さを見せました。

0-0で迎えた延長14回裏仙台大学の攻撃は、ないとうりょうた先頭の1番・内藤諒太（体育学科2年—栃木・作新学院高校出）が中安打で出塁。続く2番・いむらともき居村知生（健康福祉学科2年—福島・小高工業高校出）がしっかり送りバントを決め1死二塁。3

まつもともたろう番・松本桃太郎（体育学科1年—北海道・北海高校出）が、外に逃げていく難しいチェンジアップをセンターオーバーへ放ち、仙台大学は東北学院大学に1-0でサヨナラ勝ち。仙台大学は、2試合連続のサヨナラ勝ちで、2季連続新人戦優勝を飾りました。

決勝でサヨナラ打を放った松本は「ここで決めるという強い気持ちで打席に入った。投手陣が踏ん張っていたので、サヨナラ打を打って嬉しい」と話し、最大のピンチを3球三振に仕留めた熊原は「緊張しなかった。3球三振の場面はすべてストレート。キャッチャーのサイン通り投げた。スタンドとベンチが一丸となった結果、優勝を掴み取ることができた」と話しました。

引き続き、仙台大学硬式野球部の活躍にご期待ください。

第22回河北レガッタ—男子エイト・女子クオドルプルでアベック優勝



一般・大学男子エイトを制した仙台大学漕艇部(男子)



一般・大学女子かじ付きクオドルプルで優勝を飾った仙台大学漕艇部(女子)

6月7日(金)～9日(日)にかけて、宮城県長沼ボート場(国際A級公認コース)で「第22回河北レガッタ」が行われました。

仙台大学漕艇部は、一般・大学男子エイトで2年連続優勝(タイム:6分17秒37)。一般・大学女子クオドルプルで2年ぶりの優勝(タイム:7分37秒88)。仙台大学漕艇部は見事アベック優勝を果たしました。

男子エイト決勝は、序盤から東北大学Aにリードを許す展開。残り250m付近の最後の苦しい区間で逆転に成功しました。

男子エイトで2年連続優勝を飾った漕艇部

とのさきかいしゅう
(男子)の外崎海舟主将(U23世界ボート選手権大会男子シングルスカル日本代表/体育学科4年—青森・むつ工業高校出)は「連覇できて一安心。もっと8人の息を合わせることが課題。課題を常に意識して練習していきたい。全日本大学ボート選手権大会(インカレ)で優勝を目指す」。女子クオドルプルで圧倒的な強さを見せ

まえだゆみ
た漕艇部(女子)の前田佑美主将(体育学科4年—静岡・新居高校出)は「優勝は正直嬉しい。序盤から果敢に攻めの姿勢を見せることができた。インカレでも優勝をねらう」とそれぞれ力強く今後の抱負を語りました。

今大会には、柴田町ボート協会の皆様も応援に駆け付け、大きな声援を送って下さいました。どうも有難うございました。

これからも、インカレ優勝を目指し練習に励む仙台大学漕艇部に、皆様からの熱い応援を宜しくお願い致します。

仙台大学陸上競技部の佐々木琢磨が「第22回夏季ソフィアデフリンピック」日本代表に選出



デフリンピックに向け、練習に取り組む佐々木
=仙台大学陸上競技場

ささきたくま

本学陸上競技部の佐々木琢磨(健康福祉学科2年—盛岡聴覚支援学校出)が、2013年7月26日(金)～8月4日(日)にかけてブルガリアで開催される

「第22回夏季ソフィアデフリンピック」陸上競技男子200mと4×100mの日本代表に選出されました。

デフリンピックは、ICSD(国際ろう者スポーツ委員会)が主催し、4年に一度行われる聴覚障害者による国際的なスポーツ大会です。佐々木は、両側内耳性難聴による聴覚障害2級のろう者。

高校3年時に全国ろうあ者体育大会で100m・200m・4×100mで三冠を達成した佐々木は、「大学に入学してから左ハムストリングの肉離れを3回起こしている。不安はあるが、デフリンピックの200mでは後半勝負したい。

4×100mでは、チームワークを発揮してメダルを獲りたい」と意気込みを語りました。



陸上日本選手権女子ハンマー投げ—OG佐藤若菜選手が3年連続3位



左から朴澤学長、OG佐藤選手、藤井部長

6月9日（日）、「味の素スタジアム」（東京都調布市）で陸上の日本選手権が開催され、女子ハンマー投げさとうわかなでOG佐藤若菜選手（宮城教員クラブ／H22年体育学科卒—福島・相馬東高校出）が最終6投目で自己ベスト

を73cm更新する59m10cmを記録し、3年連続で3位に入りました。

6月12日（水）佐藤選手は、恩師である本学陸上競技部の藤井邦夫部長と共に同選手権3位の報告に学長室を訪れました。

佐藤選手は「昨年10月に行われた国体で3年ぶりに自己ベスト（58m37cm）を更新し、2位に入ったことが自信につながった。今回は試合前の調整がうまくできた。自分に負けないように投げることを強く意識して投げた結果、3位に入ることができた」と試合を振り返り、「母校の仙台大学で練習をさせて頂き、勤務先（宮城県立船岡支援学校）ではいつも皆様が身体の心配を下さり、温かく応援してくれている。自分を支えて下さっている沢山の人たちへの感謝の気持ちを忘れず、仕事と競技の両立を怠らず、次の試合では目標の60m台を投げたい」と力強く今後の抱負を語りました。

陸上競技部の加藤由希子が「2013IPC陸上競技世界選手権大会」に出場



IPC陸上競技世界選手権大会に向け、練習に励む加藤
＝仙台大学陸上競技場

かとうゆきこ
本学陸上競技部の加藤由希子（健康福祉学科2年—宮城・気仙沼女子高校出）が、平成25年7月16日（火）～28日（日）まで、フランス・リヨンで開催される「2013年IPC陸上競技世界選手権大会」女子やり投げの日本代表選手として出場することが決まりました。

IPC陸上競技世界選手権大会は、国際パラリンピック委員会により創設された障害を持つ選手による陸上競技大会。身体障害を持つ選手による競技種目と知的障害を持つ選手による競技種目があります。加藤は、生まれつき左腕がなく、左腕が義手のアスリートとして女子やり投げに出場します。

障害者女子やり投げの日本記録（32m83cm）を持ち、初の国際大会を前に加藤は、「平成28年に開催されるブラジルパラリンピックリオ大会出場を目指し、日々のトレーニングに励んでいる。しっかりと腕を振り切り、自己ベストの更新とメダルを狙いたい」と大会に向けての抱負を力強く語りました。

女子柔道部、全日本学生柔道優勝大会 —準優勝校「山梨学院大学」に1—3の逆転負け



次鋒の鈴木が試合終了間際に「技あり」を奪って優勢勝ち
=日本武道館

6月22日（土）、団体戦(5人制)で争う「全日本学生柔道優勝大会（女子22回）」が日本武道館（東京都千代田区）で開催され、本学女子柔道部は優勝候補の一角、山梨学院大学と対戦しました。

仙台大学は、先鋒の伊藤美麗（現代武道学科3年—静岡・藤枝順心高校出）が相手の全日本学生柔道体重別選手権優勝選手に食らいつき、「引き分け」に持ち込む粘りを見せました。次鋒の鈴木真佑（体育学科3年—京都文教高校出）は、試合終了間際に大内刈りで「技あり」を決め、見事「優勢勝ち」。仙台大学が先制します。しかし、中堅の瀬戸美里主将（体育学科4年—宮城・東北高校出）が、相手の世界ジュニア柔道選手権2位の選手に「一本負け」喫し、1—1のタイ。続く、副将の松本友紀子（体育学科4年—東大阪大敬愛高校出）も相手の世界ジュニア柔道選手権優勝選手に一本負け。1—2と逆転され、大将の工藤真弓（体育学科4年—青森・五所川原農林高校出）も一本を取られ、1—3で初戦敗退となりました。

対戦相手の山梨学院大学は、同大会で準優勝。強豪校相手に本学女子柔道部は、必死に食らいついていました。今後、さらにチームの強化を目指し、努力する本学女子柔道部への温かいご声援を宜しくお願い致します。


 仙台大学 広報室

Monthly Report

OB石原守剛さんが中国・瀋陽師範大学大学院を修了



栄誉証書と卒業証書を手に笑顔の石原さん＝瀋陽師範大学

中国の国費留学生として、平成22年9月～平成25年6月まで瀋陽師範大学いしはらもりたけ大学院体育科学学院体育教育訓練学専攻で学んでいたOB石原守剛さん（H22年体育学科卒－沖縄県立普天間高校出）が無事に修士課程を修了し、7月10日（水）、朴澤学長に同大学院の修了報告を行ないました。

中国の国費留学ではこれまで東北師範大学大学院、上海体育学院大学院を修了した本学の卒業生はいましたが、瀋陽師範大学大学院の修了者は初めてとなります。

石原さんは「瀋陽師範大学大学院には、19カ国の留学生が在籍していた。この留学を通して、多様な価値観に触れることができた。主体的に行動することの大切さや言葉が通じない相手とのコミュニケーションの方法を学ぶことができ、自分の成長を実感している」と話し、「苦勞して学んだ中国語を生かし、郷土貢献のため沖縄観光コンベンションビューローへ就職できるように頑張りたい」と力強く決意のほどを語りました。

仙台大学では現在、スポーツ科学を中心とした分野で11カ国20大学と国際交流を行ない、学生に豊かな学びの場を提供しています。

目次	
OB石原守剛さんが中国・瀋陽師範大学大学院を修了	1
現代武道学科 海外武道実習	2
ノアフン国民大学教員・学生が被災地でのボランティア活動を見学	4
平成25年度海浜実習報告	5
校長職就任祝賀会、宮城県・仙台市新規採用教員激励会を開催	6
学生の競技結果	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等ございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

若井副学長が上越教育大学の名誉教授に就任



名誉教授の称号の証書を読み上げられる若井副学長



前列右から3人目が若井副学長

平成25年7月5日（金）、上越教育大学にて、若井彌一副学長へ名誉教授を授与する式典が執り行われました。若井副学長は上越教育大学第六代学長として平成21年4月から平成25年3月末まで同大学の発展のために尽力されました。

この間、若井副学長は、教育委員会等との連携強化や教育の改善・充実など中期目標・中期計画を着実に実施するとともに、文科省審議会答申を踏まえ大学改革に向けた取組を推進しました。また、上越教育大学の課題である大学院の定員充足を3年連続で達成しました。また、東日本大震災や新型インフルエンザの対応など、緊急時においても教員養成大学として適切に対応しました。

若井副学長は授与に際し「このような式典を実施いただき、誠にありがとうございます。これからも上越教育大学の発展を祈念し、外側から支援・協力していきたいと思えます。」と述べました。

式典後は上越市内の別会場において、上越教育大学名誉教授との情報交換会が賑やかに開催され、名誉教授となった若井副学長は、在職当時の教員や事務職員と懐かしく談笑されました。

<情報・写真提供：上越教育大学>

現代武道学科 海外武道実習



7月2日(火)～6日(土)の日程で「海外武道実習」が実施されました。この実習は、現代武道学科のみに開講されている科目で、海外における武道教育に関する学習体験の場として、本学と提携している韓国等の大学を中心に実施され、日本の武道および海外の武道を通じて警護・警備について学習することを目的としています。今回は学生16名および引率教職員が4名の計20名が龍仁大学（韓国）において2度目の実習を行いました。龍仁大学は、武道、体育科学、芸術、産業情報、自然科学、保健福祉の6つの学部が設置されており、武道学部の下に柔道、柔道競技指導、格技指導、東洋武芸、テコンドー、テコンドー競技指導、警護の7つの学科をもっている総合的な大学です。

派遣学生は主に警護学科の科目を受講しました。（受講科目：テロリズム、消防安全教育、警護発達史、剣道親善競技、情報保安論、犯罪予防論、警護方法論、射撃実習）

また、滞在4日目には、ソウル特別市地方警察庁ならびにソウル歴史博物館等を視察見学しました。実習中は授業や生活のサポートとして龍仁大学の学生に支援して頂き、短い期間ではありましたが言葉の壁を越え非常に良好な関係が築かれた実習となりました。

<報告：現代武道学科事務担当 中鉢芳尚>

<学生インタビュー>



くらしわかずま
倉澤和磨さん（現代武道学科
2年一福島・小高工業高校出）

私が実習で一番印象に残っているのは、剣道親善競技です。実際に龍仁大学の学生と剣を交えてみると、攻めは常に積極的でどんどん間合をつめてきて、思わぬタイミングで打ってきます。その点は日本の剣道とは全く異なり、ある意味とても新鮮でした。稽古では言葉は通じなくても大声を出しながら剣を交えることでコミュニケーションを取ることができ、合同稽古が終了した後は、とてもすがすがしい気持ちになりました。これを機に外国の剣道についてもっと知りたいという気持ちが高まりました。

第7回 NPO法人日本スポーツ栄養研究会 総会・学術集会(7月5日～7月7日)報告



岩田講師の発表の様子
テーマ：栄養士養成課程の学生が行うスポーツ選手の栄養サポート活動に関する研究（第一報）～活動に対する意識～



早川准教授の発表の様子
テーマ：クレアチン摂取がやり投げ選手のパフォーマンスに及ぼす影響について

連日30℃を超える猛暑の中、神奈川県立保健福祉大学において第7回NPO法人日本スポーツ栄養研究会総会・学術総会が開催されました。今大会は『世界で戦うためのスポーツ栄養活動』をテーマとして行われました。国立スポーツ科学センターを始め、国立健康・栄養研究所による成果や実績が報告され、他大学からも多くの研究発表がされました。本大学からは早川公康准教授、岩田純講師、服部恵未子新助手が口頭発表を行いました。

3日間を通して「ロンドンオリンピックでの栄養サポート活動」や指導者の立場から考える「スポーツ栄養と給食」、「サプリメントの現状とドーピング」など多方面から報告・発表がされました。その他、各企業の展示ブースが設けられ、参加人数も過去最多になるなど、活気あふれる大会となりました。

本学においても運動栄養学科で運動栄養サポート研究会が設置され、現在では13の部活に対して栄養サポート活動を実施しています。日本でもいち早くスポーツ栄養を取り入れ、実践力を養うためのカリキュラムが組み込まれています。設立10年目を迎え、より一層の発展のために必要となる内容が今大会で数多く報告されていました。

岩田純講師により運動栄養サポート研究会の活動に対する意識について報告され、今後活かすべき課題としてマネジメントが挙げられると感じました。スポーツ選手に対するマネジメント方法が確立しつつあり、集団の中で目標の異なる選手にどのように栄養サポートを行うかが重要になります。運動栄養サポート研究会が設立されてから今日まで、個別ではなく集団に対する指導が主となっていました。設立10年の節目を迎え、今後は選手一人ひとりに合わせたサポート活動を行うことが新たな課題となると感じました。

今大会において幅広くアスリートに対する栄養サポート活動や指導方法を学び、最先端の情報・知識を深めることが出来ました。学生も参加可能な大会ですが、存在を知らないがために参加しない学生も多くいるのが現状です。今回学んだことをより深めながらスポーツ栄養に携わることを目標としている学生に伝えられるよう尽力しなければならないと感じます。

また、私たちが参加することでこのような大会の存在を伝え、学生が取り組みやすい環境づくりを行う必要があると感じました。

今大会をきっかけに、運動栄養学科の教職員だけではなく、部活動の顧問の先生方、本学の専門分野に精通する方々の力も借りながら学科、ひいては大学の発展に貢献できるよう努めたいと考えます。

今回開催されたNPO法人日本スポーツ栄養研究会は来年度から学会として新たなスタートを切ります。学会の発展に負けぬよう、この大きな決意を表明し、第7回NPO法人日本スポーツ栄養研究会・総会学術会の報告といたします。

<報告：運動栄養学科新助手 千葉慎太郎・西川里美>

ノアフン国民大学教員・学生が被災地でのボランティア活動を見学



本学と国際交流協定を締結しているデンマーク・ノアフン国民大学教員のサンヌ・ミケルセン氏とマリア・ラーセン氏、学生のモートン・ニールセン氏が7月12日（金）に、被災地である亘理町の公共ゾーン仮設住宅集会所でおこなわれている災害ボランティア活動を見学しました。

今回は実際に参加者の中に入り一緒に運動を体験され、「被災された方々がこのように運動できる場所があるのは素晴らしい」とお話をされました。亘理町の参加者も日本語で書かれたデンマークのパンフレットを見ながら、デンマークについて大変興味深くお話を聞いていました。また、日本での運動指導に興味を持たれており、今回のボランティア活動はとても参考となったようで、今後福祉の先進国とも言われるデンマークのノアフン国民大学との交流がさらに深まることが期待されます。

<報告：スポーツ健康科学研究実践機構>

留学生親睦野球観戦



7月4日（木）プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスVS千葉ロッテマリーンズの試合を観戦してきました。前日の試合が雨で中止となり、当日の天気も危ぶまれましたが、曇り空独特の夕焼けのもとで試合は進んでいきました。途中、楽天の球団アドバイザーを務める本学のマーティン・キーナート副学長も同席して下さり、一緒に場を盛り上げ

て下さいました。

この日の試合は首位攻防戦の大事な一戦ともあり、お互いのサポーターも熱い声援を送っていました。そんな一戦を人生で初めて野球を観るといふ留学生もいて、新鮮な眼差しで大いに試合を楽しんでいました。結果は、楽天がホームランを2本放ちロッテに8-4と快勝。近くのお客さんと勝利を分かち合いました。この日の結果を経て楽天は、球団創設以来初の6月以降の首位獲得となりました。私たちが歴史的勝利に立ち会えたのも、観戦チケットを提供して下さった鹿島建設様のお陰です。この場をお借りして御礼申し上げます。

<報告：学生支援室 茗荷谷なつみ>

学生支援室前期反省会・デフリンピック壮行会



学生支援室前期反省会が7月18日(木)に行われました。今年の前期反省会は、例年とは一味違い、本学陸上部のささきたくま 佐々木琢磨君（健康福祉学科2年―盛岡聴覚支援学校出）のデフリンピック出場への壮行会も兼ねて行われました。デフリンピック（英語：Deaflympics）とは、4年に1度、世界規模で行われる聴覚障害者のための総合スポーツ競技大会のことです。

壮行会では、佐々木君からの意気込みを手話で話してもらい、ノートテイカーによって応援のメッセージが書かれた色紙を佐々木君へ渡しました。緊張していると話しながらも、終始笑顔だった佐々木君がとても印象的な壮行会でした。

前期反省会では、おいしい食事と成人にはアルコール類、未成年にはソフトドリンクが振る舞われ、学生とともに語り合い、楽しい宴となりました。最後には、お決まりとなったビンゴ大会が行われ、教職員・学生、一丸となって楽しむことができ、学生との親睦もともに深めることができたと感じています。

<報告：学生支援室 佐藤由佳>

マリンスポーツ中心の実習で見た仙台大学魂 —平成25年度海浜実習報告—



実習開始



大遠泳前の編隊作り①



大遠泳前の編隊作り②



大遠泳



大遠泳後の感動



カヌー教室



燃えたD級のレクリエーション



参加女子学生の柳下朝実(中央)

先生方の指導の下、きびきび動く学生の姿に感動すら覚えました。

宮城先生はじめ多くのサポートスタッフに心から御礼申し上げます。

<7月14日(日)見学：副学長 阿部芳吉>

今年度の海浜実習が、7月13日から2泊3日の日程で、受講生80名、補助学生を含めた指導スタッフ37名で、例年どおり山形県鶴岡市由良浜海水浴場で行われた。開学以来の実習ではあるが、由良浜では今年で33回目の開催となった。私(丸山)も久しぶりに前日の準備から全日程に参加したが、由良での30周年を最後に、それまでの大遠泳を中心とした実習から、遠泳も行われるが、マリンスポーツ(カヌー、フィッシング、スキndaイビング)をふんだんに取り入れた内容となり、規模も縮小されたものになっていた。

最終日午前中まで、時折雨の降るあいにくの天候の中、A、B、C級は小遠泳、カヌー、フィッシング、スキndaイビング、救助法と、予定された内容を消化し、D級はカヌー以外は、永田先生の指導の下、最後の遠泳に向けひたすら泳ぎ込む練習が続いた。

そして最終日午後、由良の空も遠泳を歓迎してくれたかのように晴れ間を覗かせ、例年どおりA、B、C級がD級をサポートする形の隊列を組み、(大)遠泳が行われた。白山港から沖に出て本部前に上陸する約1時間の予定の遠泳であったが、結果は所要時間71分、遠泳中も含め一人も船に上がることのない完璧な遠泳であった。私も由良も含め長いこと実習に参加してきたが、かつてより時間は短いとは言え、このような完璧な遠泳は初めてであった。

やぎしたあさみ
実習生の一人、柳下朝実(体育学科1年一福島・南会津高校出、女子バレーボール部)は、初日の午後の小遠泳で脱落后も、志願しそのままC級に留まり、最後の遠泳では遅れることなく泳ぎ切った。「最初は怖かったが、徐々に自信がつき、遠泳後の達成感は何とも言えない。またカヌーが楽しかった。」と感動と充実した実習を振り返っていた。彼女も含め参加学生は、また一回り大きくなり、一人前の体育大学生となったことと思う。これも宮城先生をはじめ指導に当たった教職員、特に補助学生のサポートがあったからこそ達成できたものである。感謝して報告としたい。

<報告：本部長 丸山富雄>

学科一日体験会を実施



運動栄養学科一日体験会の様子

毎年、仙台大学では、本学の「中身」をもっと知ってもらい、納得のいく大学選びをしてもらうために「学科一日体験会」を実施しています。

今年度は、7月13日（土）に体育学科&スポーツ情報マスメディア学科及び運動栄養学科、7月14日（日）に健康福祉学科、7月20日（土）に現代武道学科の「学科一日体験会」を実施し、323名という多数の生徒や保護者の方々がご来場下さいました。各学科の特色ある授業を受講され、仙台大学についてより理解を深めて頂けたなら幸いです。

お越し下さいました皆様、誠に有難うございました。



<学生インタビュー>

あべはるな
阿部遥奈さん（運動栄養学科
1年一宮城・東北高校出）

私も高校3年生の時に、運動栄養学科の一日体験会に参加しました。いくつか栄養系の大学のオープンキャンパスにも参加しましたが、運動栄養学科の先輩による「運動栄養サポート研究会」の活動内容を聞いて、とても興味を持ち、堂々と活動について発表をしていた先輩たちの姿に憧れ、受験を決意しました。

今回立場が変わり、一日体験会の補助学生を担当しました。当時を思い出しながら、参加生徒に対し、親切で丁寧な対応と運動栄養学科の良さが伝わるよう心がけました。参加生徒から栄養に関する専門的なことを聞かれましたが、応えることができませんでした。もっと勉強して、次に補助学生になった時には、しっかりと質問に応えられるようにしたいと思いました。

仙台大学同窓生の第14回校長職就任祝賀会、第3回宮城県・仙台市新規採用教員激励会を開催



左から津久井・菊地・青山の各校長

7月27日（土）、KKRホテル仙台で「仙台大学同窓生の第14回校長職就任祝賀会、第3回宮城県・仙台市新規採用教員激励会」が行われ、朴澤学長・阿部・若井両副学長はじめ同窓生や本学関係者約70名が出席しました。

今回校長職に就任されたのは、鶴ヶ丘小学校のきくち のりゆき 菊地 範行 校長（第10回生）・横倉小学校のあおやまひろゆき 青山博之校長（第11回生）・将監西小学校のつくいたかゆき 津久井隆之校長（第12回生）の3名。また、宮城ながおゆたか 県・仙台市に新規採用された教諭は、長尾 豊 教諭（第25回生）ら11名。

校長職に就任された方々からは、大学時代のエピソードや校長として新たな気持ちで学校経営に取り組んでいくとの決意が述べられ、また、新規採用された教諭の方々からは、喜びの言葉や、仙台大学出身者としての自覚・誇りを持って仕事に臨みたいなどの抱負が語られました。

阿部副学長や大内教授、吉田事務局長も登壇され、校長職就任者及び新規採用教員に対し、激励の言葉を述べて会場を盛り上げました。



挨拶する新規採用の長尾教諭(中央)

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の短期交換留学生在が 柴田町を表敬訪問



前列左：阿部教育長・右：滝口町長、後列右端：古谷氏
＝柴田町役場特別会議室

7月29日（月）、米国・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の短期交換留学生7名（スポーツマネジメント専攻の大学院生）及び同大マネージングディレクターの古谷仁氏が、柴田町の滝口茂町長と阿部次男教育長を表敬訪問しました。

表敬訪問では、留学生6名が英語で(古谷氏が通訳)、1名が日本語で自己紹介を行ないました。続いて、滝口町長が「柴田町によろこそ。留学期間は二週間と短いですが、日本の伝統文化に触れ、日本に親しみを持ってほしい」と歓迎の挨拶を述べました。次に、阿部教育長が日本における英語教育の現状や課題について触れました。

本学で、米国からの大学の短期交換留学生を受け入れるのは、初めて。今回の留学のねらいは、「米国スポーツとの比較を通じて日本のスポーツにおける歴史と文化を探る」というものです。日米のスポーツの違いを学ぶこと、日本語の習得、文化体験や被災地ボランティア体験学習が計画されています。

なお、留学生7名は、8月9日（金）まで本学で学び、8月11日（日）にカリフォルニアに帰国する予定です。

女子柔道部—第16回全日本女子ジュニア柔道体重別選手権大会 東北地区予選5階級制覇



5階級制覇した仙台大学女子柔道部の選手たちと南條和恵監督(前列左端)＝福島体育館



48kg級を制した佐伯(上)

7月7日(日)、福島体育館で「第16回全日本女子ジュニア柔道体重別選手権大会 東北地区予選」が行われ、8階級中5階級で仙台大学女子柔道部が制しました。

同大会は、2013年中に15歳～20歳になる者(中学生を除く)が対象の大会です。

仙台大学女子柔道部の5階級優勝選手は、
48kg級—佐伯真さえきまこと(体育学科2年—神奈川・桐蔭学園高校出)、
52kg級—鈴木真佑すずきまゆ(体育学科3年—京都文教高校出)、
57kg級—工藤千佳くどうちか(現代武道学科2年—青森・五所川原農林高校出)、
63kg級—志賀真実しがまなみ(現代武道学科3年—福島・湯本高校出)、
78kg級—大内さおりおおうち(現代武道学科2年—北海道・恵庭南高校出)。

今後5選手は、9月7日(土)～9月8日(日)に埼玉県立武道館(埼玉県上尾市)で開催される「平成25年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会」に出場予定。強豪選手に挑む仙台大学女子柔道部に、熱い声援をよろしくお願い致します。

男子サッカー部—天皇杯サッカー宮城県予選5回戦へ



7月7日(日)、白石川サッカー公園グラウンドで「天皇杯全日本サッカー選手権 宮城県予選」の4回戦(本学男子サッカー部は、4回戦からのシードで登場)が行われ、仙台大学男子サッカー部は社会人チーム「仙台サスケFC」と対戦しました。

仙台大学は、前半にDF児玉昇こだましよう(体育学科2年—柏レイソルユース出)がミドルシュートを決めて先制。その直後、左からのクロスにFW西村光司にしむらこうじ(体育学科4年—ベガルタ仙台ユース出)がうまく合わせて、2-0。

さらに、右コーナーキックをDF中條渡なかじょうわたる(体育学科3年—宮城・東北高校出)が豪快に頭で合わせて、3-0。後半開始早々に1点を返されますが、追加点を与えずに3-1で勝利(前半:3-0、後半0-1)を収め、見事5回戦進出を決めました。

【9面に関連記事】

上下…前半、DF中條がヘディングシュートを決め、3-0とする
白石川サッカー公園グラウンド



陸上競技部の佐々木琢磨(デフリンピック陸上競技日本代表)が 宮城県知事を表敬訪問



左から本学陸上競技部の門野監督、ろうあ協会の浅野副会長、佐々木選手、村井知事、バレーボール日本代表の柳川選手、ろうあ協会の小泉会長

2013年7月26日(金)～8月4日(日)にかけてブルガリアで開催される聴覚障害者の国際的なスポーツ大会「第22回夏季ソフィアデフリンピック」陸上競技男子200mと4×100mに、本学陸上競技部の佐々木琢磨(健康福祉学科2年一盛岡聴覚支援学校出)が日本代表として出場します。

7月9日(火)、本学陸上競技部の門野監督と佐々木選手は、ろうあ協会の小泉会長、浅野副会長、同デフリンピックバレーボール女子日本代表の柳川選手(仙台市泉区在住)と共に宮城県庁を訪れ、村井嘉浩知事に同大会への出場の報告を行いました。

村井知事からの「県民に勇気と元気を与えてほしい。金メダルを目指して頑張ってもらいたい」との激励に対し、佐々木選手は「金メダルを目指し、全力を尽くしたい」と手話で決意を語りました。



村井知事から激励を受ける佐々木

男子サッカー部一天皇杯サッカー宮城県予選 準決勝進出



ハットトリックの活躍を見せたFW西村



後半、MF熊谷が強烈なミドルシュートを決めて、3-1とする

7月15日(祝・月)、仙台大学サッカー・ラグビー場で「天皇杯全日本サッカー選手権 宮城県予選」の準々決勝が行われ、仙台大学男子サッカー部は東北大学と対戦しました。

仙台大学は、前半開始早々、右からのクロスをしむらこうじFW西村光司(体育学科4年一ベガルタ仙台ユース出)が流し込み先制点を挙げましたが、その直後、相手のセットプレーから同点に追いつかれ、1-1。相手に守りを固められ、なかなか得点を奪えませんでした。CKから児玉昇(体育学科2年一柏レイソルユース出)が頭で合わせて、2-1と勝ち越しに成功し、2-1で前半を折り返しました。

後半に入ると徐々に仙台大学がペースをつかみ始め、MF熊谷達也(体育学科3年一柏レイソルユース出)が強烈なミドルシュートを決め、3-1。FW西村が冷静にPKを決め、4-1。1点を返され、4-2となりますが、FW西村がこの日ハットトリックとなる3点目を決め、仙台大学が5-2で東北大学に勝利しました。

準決勝は、8月4日(日)10時～「仙台大学サッカー・ラグビー場」で塩釜NTFCヴィーゼとコバルトレー女川の勝者と対戦します。

8大会ぶり2回目の天皇杯出場を目指す仙台大学男子サッカー部に、温かいご声援をよろしくお願い致します。

仙台大学 広報室



Monthly Report

大和町健康づくり事業連携協力に関する 協定調印式



協定書を手にする朴澤学長(前列左)と浅野町長=大和町役場

仙台大学は8月7日(木)、大和町役場で「大和町健康づくり事業連携協力」に関する協定書を締結しました。調印式には、本学から朴澤泰治学長・阿部芳吉副学長・仲野隆士体育学科長・藤井久雄運動栄養学科長ら6名が、大和町から浅野元町長・遠藤幸則副町長・上野忠弘教育長らの6名が同席し、朴澤学長と浅野町長が協定書を取り交わしました。

事業内容は、①大和町民の健康増進に関すること、②生涯学習に関すること、③その他双方が必要と認める事業。今後双方で事業内容を掘り下げながら、話し合いを進めていきます。

調印式で浅野町長は「少子高齢化が進展していく中で、健康に対する意識啓発を進め、元気な高齢者と子ども達の肥満解消を目指していきたい。そのためにも、仙台大学のもつ人材や専門知識・技術をお借りしたい」と述べられ、朴澤学長は「町民の健康づくりは、大切な政策の一つであると考えられる。本学は身体活動をベースに様々な分野への人材の育成という理念で教育活動を行っている。学生の実践教育の場としても是非取り組ませて頂きたい」と話しました。

なお、本学における「地域連携協力」に関する協定書の締結は、宮城県・仙台市・柴田町等に続いて10件目となります。

< 目 次 >

大和町健康づくり事業連携協力に関する協定調印式	1
アメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校より初来訪	2
「韓国伝統武道」及び「中国武術」集中講義	3
平成25年学校法人朴沢学園事務職員研修会	4
本多弘子仙台大学名誉教授の「叙勲受章祝賀会」	5
学生の競技結果	6

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま
したら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

アメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校より初来訪



本学と国際交流関係にあるアメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校（以下、CSULB）の学生7名と引率職員1名の計8名が7月28日～8月10日の日程で本学を訪れ、短期留学プログラムが実施されました。

期間中は、太田四郎教授の10回に亘る日本語教室や、茶道などの日本文化体験、ベガルタ仙台や楽天イーグルスのプロスポーツを通じた日米の比較など、今回のプログラムを中心にサポートされたマーティ・キーナート副学長をはじめ、多くの先生方にご尽力いただき内容の濃い講義や実習プログラムが実施されました。

また、8月1日～4日にはCSULBのMiller保健福祉学部長とButler保健福祉部CEOも本学を訪問され、今回のプログラムの内容や本学のホスピタリティーに大変感激されていました。

参加した学生からも「本当に素晴らしいプログラムで、貴重な経験になった。」との声が聞かれ、大変充実した留学を体験できたようでした。

一行は8月10日の早朝に船岡を出発し、東京都内を見学された後帰国の途に就きました。

CSULBとは2009年に協定を締結以来毎年本学の学生が同校を訪問していますが、今年2月の訪問の際にかねてより企画していたCSULBからの本学への短期留学を説明し、実現に至ったものです。今後、両校の交流が更に深まることが期待されます。

<報告：事業戦略室 石森靖明>

公益財団法人 大和証券福祉財団から「仙台大学東日本大震災災害ボランティア派遣組織健康づくり運動サポートグループ」に活動助成費50万円が授与



8月1日(木)仙台市内の大和証券仙台支店において東日本大震災の被災地でボランティアを行う団体に対しての活動助成費贈呈式が開催され、本学を代表し大山さく子学生支援センター長に贈呈書と目録が手渡されました。

この助成は、震災ボランティア助成として東日本大震災発生年に新設され3年目の事業で、今年度は全国152件の応募の中から審査を経て37団体に対して助成金が授与されました。全国のなかで被災県である宮城県内の支援団体の採択が最も多く、本学を含め15団体が採択を受けました。県内の大学としては仙台大学のほかに東北大学、東北福祉大学、東北工業大学の研究室や学生支援グループ等が採択を受けた他にNPO法人をはじめ規模も活動内容も様々な

支援団体に対し助成金が授与されました。

贈呈式に先立ち、大和証券福祉財団本部の石河事務局長から「これからの日本を担う多くの学生の活動に助成していきたい。若い世代にも復興活動に関わってほしい。という願いが込められています。活動の足となる交通費にも使っていただける助成金です。それぞれの団体の活動に少しでも役立てていただければありがたい」との挨拶がありました。

贈呈式終了後には、授与された団体の活動紹介がなされ、活動を通じて被災地の方々の笑顔や立ち直っていく姿が活動の原動力となっていることや、活動を継続していく困難や苦悩を抱えながら被災された方々と寄り添い、懸命に活動している話を伺うことが出来ました。「東日本大震災からの復興」という共通項の同志として、互いの活動について理解し励まし合う有意義な時間となりました。

本学ではこの助成金を仮設住宅で継続実施している、廃用症候群予防を目的とした運動指導やコミュニティ再構築のための茶話会の材料費や交通費に充て、より有意義な活動となるよう役立てていく予定です。

(H25年度 第3回災害時ボランティア活動助成一覧：
<http://www.daiwa-grp.jp/dsf/results/20a.html>)

韓国伝統武道 集中講義



8月8日(木)～11日(日)の4日間に渡り韓国伝統武道(テコンドー)の集中講義が行われました。この授業では、4日間で、プムセ(型)の太極(テグ)第1章～第4章までをマスターすることが目標です。

今回お招きした講師は本学と国際交流協定を締結している国立韓国体育大学の張権教授で二度目の来学です。張先生は、韓国のテコンドー界で、知らない人はいないと言われている先生で、テコンドー普及のため世界各国を訪問し、テコンドーを初めて学ぶ方から、一流選手の指導まで幅広い指導歴をお持ちです。講義中は、厳しく時にはユーモアを交えながら教えて頂きましたが、学生達のあまりの上達の早さにお褒めの言葉を頂く程でした。また、今年度より全員テコンドー衣を着用しての実技指導となり、より一層引き締まった空気の中での授業となりましたが、最終試験が終了した後は、一転して和やかな雰囲気となり、張先生も学生達との写真撮影に気さくに応じて下さいました。そして、全力出し切りすがすがしい表情の学生を前に「来る度に仙台大学が好きになっていく」というメッセージを残され4日間にわたる集中講義が終了いたしました。

<報告：現代武道学科事務担当 中鉢芳尚>

中国武術Ⅰ・中国武術Ⅱ 集中講義



8月20日(火)～23日(金)までの間、中国武術Ⅰならびに中国武術Ⅱの集中講義が行われました。中国武術Ⅰでは4日間で太極拳の24式をマスターすること、中国武術Ⅱでは長拳の基本動作と三路長拳を修得することが最大の目標です。

今回お招きした講師は、本学と国際交流協定を締結している瀋陽師範大学の李鉄講師(中国武術Ⅰ担当=写真上)と王強講師(中国武術Ⅱ担当=写真下)のお二人です。李先生と王先生は武術専攻の教員で、太極拳等の各種大会で、優秀な成績を修めこの分野の第一人者と言われています。

まず、集中講義初日では、中国武術Ⅰ(2年生)と中国武術Ⅱ(3年生)の履修者を一同に集め、合同でオリエンテーションを実施いたしました。そこでは、貴重な画像・映像をご提示頂き、太極拳・長拳の基礎的動作の理解促進に加え、代表的な技について解説頂きました。その後、場所を剣道場に移し、両先生のデモンストレーションが披露され、実技指導に移りました。実技指導では、剣道場を半分に分け、それぞれ行われましたが、太極拳の方は静のイメージであるのに対し、長拳の方は、激しい動きが加わり、全く対照的な授業が展開されました。また、3年生については、昨年に中国武術Ⅰの授業を受講した者がほとんどで、さすがに切れのいい動きを見せていました。

<報告：現代武道学科事務担当 中鉢芳尚>

平成25年学校法人朴沢学園「事務職員研修会」



緑水亭の若女将・高橋知子氏

8月8日(木)～9日(金)の1泊2日、秋保温泉・緑水亭(仙台市太白区)で平成25年学校法人朴沢学園「事務職員研修会」が開催され、法人事務局12名・明成高校13名・仙台大学71名の計96名の理事及び事務職員が参加しました。

朴澤理事長より、研修会の冒頭に、公益財団法人日本高等教育評価機構が実施する「大学機関別認証評価」を仙台大学が本年度受審するにあたり、万全の体制を整えてほしい旨が述べられました。

次に、緑水亭の若女将である高橋知子氏からの講演会(「ありがとう」のおもてなしの心)では、震災時の旅館の様子や接客業の難しさ、復興に向けての取り組み等を力強くお話し頂きました。講演内容について活発な質疑応答が行われ、非常に有意義な講演会となり、研修初日を終わりました。

翌日には、仙台大学の若井彌一副学長から「仙台大学の一層の発展を目指して～振り返りと今後の取り組み～」と題する講話があり、「大学のすべての構成員が自覚してそれぞれの本務遂行に努めてほしい」と話されました。

今回の二日間の研修は、自分磨き、視野を広げ新たな気持ちで仕事に取り組むことに繋がったのではないのでしょうか。

心が変われば態度が変わる
 態度が変われば行動が変わる
 行動が変われば習慣が変わる
 習慣が変われば人格が変わる
 人格が変われば運命が変わる
 運命が変われば人生が変わる

仙台大学大学院2年の安部浩太朗さんが中国・上海体育大学大学院を修了—ダブルディグリーの取得を申請



朴澤学長と安部浩太朗さん(右)=学長室

平成21年9月～中国の国費留学生として上海体育大学大学院運動科学学院運動人体学科で学んでいた仙台大学大学院2年の安部浩太朗さん(平成21年体育学科卒—静岡・藤枝明誠高校出)が同大学院の修士課程を修了し、8月22日(木)、朴澤学長に同大学院の修了報告後、本学大学院でダブルディグリー取得(仙台大学大学院と上海体育大学大学院の両方の学位を取得)のための申請を行いました。

本学では過去に、中国・東北師範大学大学院1名、上海体育大学大学院1名がダブルディグリーを取得しており、単位取得に関する手続きが終われば、本学で3人目のダブルディグリー取得者が誕生します。

上海体育大学大学院から教育学修士を授与された安部さんは「『百聞は一見にしかず。』という故事があるように、留学を通して本当に貴重な経験をさせて頂き、様々なものの見方や考え方を身に付けることができた」と話し、「上海市にある日本のベンチャー企業(スポーツクラブ)への就職が決まった。後輩たちにも積極的に留学して、自分の可能性をどんどん広げて行ってほしい」とエールを送りました。

なお、平成25年9月より、菊地貴志さん(仙台大学大学院1年—平成24年体育学科卒—宮城・利府高校出)がダブルディグリー取得を目指し、中国の国費留学生として上海体育大学大学院に留学する予定です。

本多弘子仙台大学名誉教授の「叙勲受章祝賀会」



挨拶の言葉を述べられる本多先生



本多先生と仙台大学旧・現教職員

8月31日（土）にホテル白萩（仙台市青葉区）で、本多弘子名誉教授の「叙勲受章祝賀会」（宮城県レクリエーション協会主催）が開催されました。

本多先生は、長年に亘りスポーツ・レクリエーション振興功労に尽力されたご功績により、平成25年春の叙勲で「旭日双光章」の栄誉を受けました。

祝賀会には、宮城県レクリエーション協会の関係者及びスペシャルオリンピックスの関係者の他、本学からは、朴澤学長はじめ若井副学長、松井・佐藤佑・阿部武彦の各名誉教授、仙台大学レクリエーション研究部・本多ゼミの卒業生ら約150名が参加しました。

本多先生は、ご挨拶の際に「これまでの私の活動経験を考えると、この受章は、いつもご指導ご鞭撻ご支援を賜った多くの仲間の皆様とともに頂いた“章”であるということは明らかであり、改めて心から感謝申し上げたい」と言葉を噛み締めながら話されました。

祝賀会では、発起人の一人である仲野隆士体育学科長が「あの素晴らしい愛をもう一度」・「つばさをください」を歌いながらギター演奏すると、参加者の方々も一緒に歌い始めるなど、盛会となりました。

最後に、仙台大学レクリエーション研究部の礎を築いた紋谷洋三氏（岩切中学校教頭－S61年体育学科卒）が万歳三唱を行い、参加者全員による「人間アーチ」を作って、本多先生をお見送りしました。

本多先生のご健勝と今後益々のご活躍を心よりご祈念申し上げます。

イタリアスポーツ教育協会 (AISE) で柔道研修として合宿に参加 ～親日柔道家バリオーリ氏の遺志を継ぎ今年も被災地の柔道支援のために～



やくしじんももこ

7月17日～8月1日の期間、本学柔道部の薬師神桃子さん（現代武道学科3年一岩手・宮古高校出身）が3度目となるイタリア柔道合宿に参加しました。

この研修は、イタリアスポーツ教育協会（AISE）の創設者チェザーレ・バリオーリ氏が東日本大震災で被災したこれからを担う若い世代の柔道家をイタリアへ招待したいと女子柔道オリンピック金メダリストの谷本歩実さんを通じ打診があったことにあります。

被災地唯一の体育大学であること、そしてかねてから谷本さんと交流があった本学柔道部の南條和恵女子監督に声がかかったご縁で参加させていただくことになり、震災の年から毎年この時期に招かれ今年で3年目となります。高齢であったバリオーリ氏は、昨年の研修直前に亡くなりました。イタリアの経済状況も不安定な状況下で支援を続けてくださることへの困難もあったようですが、氏の遺志を受け継ぐ形で奥様のイヴァーナさんやお弟子さんたちが中心となり、今年も引き続き招待することを決断して下さったそうです。

合宿に参加しているのは、イタリア各地にあるAISEの道場へ通う、薬師神さんと同世代の10代から20代の男女約20名で、大学で数学を教えている先生や美術大学の学生など専攻も様々。柔道の父、嘉納治五郎の目指した「自他共栄」の精神をAISEの教育の理念としていることから、同じ期間中モロッコの孤児や病気を経験した子ども達も合宿に招き、柔道を通じ心身の成長を手助けする活動もあわせて行っていたそうです。

7月21日～23日の3日間には、女子柔道63kg級オリンピック2連覇の谷本歩実さんと、妹で2010年講道館杯63kg級優勝の谷本育実さん（いずれも所属コマツ）による柔道講習会が開かれました。お二人からの指導を聞き逃すまい、見逃すまいと必死に稽古に取り組む姿勢に薬師神さんもとても感銘を受け、彼らの学ぶ姿勢から柔道への深い愛情を感じることができたそうです。夕食後に開かれたミーティングでは「日本とイタリアの柔道について」話し合う場が持たれ、イタリア人から谷本さんらに沢山の質問が投げかけられたそうです。その中で「試合中は何を考えていますか？」との問いに谷本さんは「無心であること」。「積み重ねた練習で体は自然と動くので、相手に集中しています」と話され、亡きバリオーリ氏も生前、「無心である

こと」の重要性を、門下生へ教え続けていたことから普遍的な教えであることとして門下生それぞれが再認識させられたとのことでした。AISEでは心身の鍛錬を行うための生涯スポーツとして柔道が位置づけられているため、薬師神さんへ「どうして、大学卒業すると多くの日本人が柔道をやめてしまうの？」と同世代の学生から率直な質問があったそうで、勝つことを目指しある程度まで行くと、一線を離れてしまうこともある日本の柔道において、勝つための柔道だけではない本来の意味についても、改めてしっかり勉強しなければと、薬師神さん自身が考えさせられる場面であったようです。

谷本さん姉妹が帰った後には、薬師神さんの柔道指導の場が設けられ、イタリア語と身振り手振りのジェスチャーを交えた指導を行い、薬師神さんからも沢山のことを学び取ろうとトレーニング一つも手を抜かず取り組む姿勢に新鮮な喜びを感じたそうです。

また研修期間中には、産経新聞の全国版「今日のひと」として掲載され、イタリア柔道研修のことも紹介されました。日本全国の方々にイタリアからの柔道を通じた被災地支援について知っていただけただけのこと、また掲載日が研修中であったことから、研修に携わってくださった現地の日本人をはじめ、イタリアのAISEの関係者へリアルタイムで紹介することが出来、とても喜んでくださったことが何より嬉しかったと薬師神さんは話してくれました。

震災では薬師神さんの両親が経営していた飲食店の店舗が津波で流失しました。家族全員が無事であったものの、住み慣れた土地を離れ現在家族は愛媛県に移住しています。

両親もこれまでの支援にとっても感謝しており、薬師神さん自身が今後イタリアでの就職を考えていることについても、理解を示してくれているそうです。

これまでの3回の柔道研修を通じ、沢山の方々との交流をしてきたことを活かし、今後は語学の習得に努め、イタリアで柔道指導することを目標に、しっかり大学生活を送りたい。そして部活動においても確かな結果を残し、AISEの皆さんに恩返しをしたい。と笑顔で話してくれました。



ビッラサルタ合宿所の柔道場には嘉納治五郎の肖像画が



谷本さんからの指導を、絵で記録する美大生

男子サッカー部、天皇杯サッカー宮城県予選 代表決定戦に2年連続進出



前半、DF菅井主将がループシュートを決め、2-0とする

8月4日（日）、仙台大学サッカー・ラグビー場で「天皇杯全日本サッカー選手権 宮城県予選」の準決勝が行われ、仙台大学男子サッカー部は東北社会人リーグ1部の強豪コバルトレ女川と対戦しました。

前半の立ち上がりは、相手に主導権を握られましたが、前線からのプレスで支配率を高め、徐々に仙台大学のペースを取り戻しました。前半15分過ぎ、右サイドからのクロスみねざしひかるをMF嶺岸光(体育学科4年-宮城・聖和学園高校出)が胸トラップで相手DFをかわし、左足でシュート。

これが決まって、欲しかった先制点を挙げました。前半20分過ぎには、MF熊谷達也くまがいたつや(体育学科3年-柏レイソルユース出)が相手DFの裏へ絶妙なループパスを送り、これに反応したDFすがいたくや菅井拓也主将(体育学科4年-宮城・聖和学園高校出)が相手GKと1対1となりますが、冷静にループシュートを決め、2-0。前半は、仙台大学が攻守にわたって試合をコントロールし、2-0で折り返しました。後半に入っても試合は仙台大学のペース。後半10分過ぎ、左サイドをドリブルで突破したMF嶺岸が右足のシュートをファーサイドに決め、3-0。しかし、後半30分過ぎに、立て続けに失点し、1点差に追い上げられました。厳しい展開となりましたが、後半すがいしんや35分過ぎ、後半途中出場のDF菅井慎也(体育学科4年-宮城・聖和学園高校出)が右サイドからのクロスを頭で流し込み、仙台大学がコバルトレ女川に4-2で勝利し、見事同予選代表決定戦に2年連続の進出を決めました。

男子サッカー部—総理大臣杯優勝校の「流通経済大学」に惜敗



前半30分、MF嶺岸(14)が右足でゴールに流し込み、同点ゴールを奪った

8月11日（日）、猛暑の中、キンチョウスタジアム(大阪市)で「第37回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」の2回戦が行われ、仙台大学男子サッカー部は関東の強豪「流通経済大学」と対戦しました。

前半立ち上がりは、厳しい暑さと緊張からなかなか良い形が作れなかった仙台大学。逆に相手は、前線からプレッシャーをかけて仙台大学ゴールに近い位置でボールを奪い、積極的にシュートを打ってきました。前半21分に先制点を奪われましたが、仙台大学は前半30分、DFとりやまよしゆき鳥山祥之(体育学科3年-柏レイソルユース出)からのクロスすがいたくやをDF菅井拓也主将(体育学科4年-宮城・聖和学園高校

みねざしひかる出)が落とし、それをMF嶺岸光(体育学科4年-宮城・聖和学園高校出)が流し込んで1-1の同点に追いつきました。その後は、中條渡なかじょうわたる(体育学科3年-宮城・東北高校出)・乾智貴いぬいともき(体育学科3年-群馬・桐生第一高校出)らDF陣の体を張ったディフェンスやGK上田築うえだきずく(体育学科1年-北海道・帯広北高校出)のファインセーブでピンチを凌ぎました。しかし、前半終了間際の43分に1点を奪われ、1-2で前半を折り返しました。

後半、菅井慎也すがいしんや(体育学科4年-宮城・聖和学園高校出)と西谷優希にしやゆうき(体育学科2年-茨城・鹿島学園高校出)を投入し、ボールが動かせるようになり、仙台大学に流れが傾きました。DF鳥山からのクロスにしむらこうじをFW西村光司(体育学科4年-ベガルタ仙台ユース出)が触れば1点という場面やDF鳥山が右サイドをドリブルで突破し、そのままシュートを放ち、クロスバーを叩くという良い形を作りました。しかし、1点が遠く、仙台大学らしい攻撃的なサッカーを展開しましたが、チャンスを決めきれず、1-2の惜敗という結果になりました。

陸上競技部の加藤由希子が「2013IPC陸上競技世界選手権大会」で銅メダル獲得



銅メダルを手に笑顔を見せる加藤

7月16日（火）～28日（日）にフランス・リヨンで開催された「2013年IPC陸上競技世界選手権大会」女子やり投げの日本代表として出場した本学陸上競技部のかとうゆきこ（健康福祉学科2年一宮城・気仙沼女子高校出）が銅メダルを獲得しました。

左手が義手のアスリート、障害者女子やり投げの日本記録(32m83cm)を持つ加藤は「今大会には、日本選手団35名が参加し、10個のメダルを獲得するという好成績を収めた。初めての国際大会で3位(銅メダル)という成績を得ることができ、正直嬉しい」と充実した表情で話し、「次は、9月7日～8日に山口県で開催されるジャパンパラリンピックに出場する予定。応援して下さい方々への感謝の気持ちを忘れず、精一杯頑張りたい」と今後の抱負を語りました。

陸上競技部の佐々木琢磨が「第22回夏季デフリンピック競技大会ソフィア2013」に参加



200mのスタートをする佐々木(左端)

ささきたくま

本学陸上競技部の佐々木琢磨（健康福祉学科2年一岩手聴覚支援学校出）が、8月1日にブルガリア・ソフィアで行われた「第22回夏季デフリンピック競技大会ソフィア2013」陸上競技男子200mに出場しましたが、惜しくも2次予選敗退という結果となりました。

今回初めて国際大会に出場しました。大会前に4回も左ハムストリングの肉離れを起こしたため、十分な練習もできないままの参加となりました。結果は、目標としていた200m走入賞は果たせなかったものの、なんとか異国の地で走り切れたことに満足しています。

また、当初、4×100mリレーへのエントリーを予定していましたが、脚の状態が十分でないため出場できませんでした。メダルが狙えると期待を受けていたため、今回の結果は納得いくものではありません。

しかしながら、様々な経験ができました。今までよりも、さらに速く、デフワールドでナンバーワンになりたいという気持ちが強くなりました。これから、全国ろうあ大会、インカレなど様々な大会が続きます。怪我のないよう、悔いのないよう、努力をしていきたいと考えておりますので、今後とも、関係者の皆様のご支援ご協力を宜しくお願いいたします。

健康福祉学科2年 佐々木琢磨

男子サッカー部、8大会ぶりの天皇杯出場に一步及ばず

8月25日（日）、宮城県サッカー場Aで「第17回宮城県サッカー選手権決勝 天皇杯サッカー宮城県代表決定戦」が行われ、本学男子サッカー部は「JFL・ソニー仙台FC」と対戦。惜しくも0-1で敗れ、8大会ぶりの天皇杯出場に一步及びませんでした。

仙台大学男子サッカー部を応援して下さい皆様、本当に有難うございました。

引き続き、温かいご声援を宜しくお願い致します。

第40回全日本大学ボート選手権大会—女子舵手つきクオドルプル7位入賞



女子舵手つきクオドルプルで力漕する仙台大学漕艇部
＝戸田ボートコース

8月22日（木）～25日（日）にかけて戸田ボートコース（埼玉県）で行われた「第40回全日本大学ボート選手権大会」の女子舵手つきクオドルプルに、仙台大学漕艇部（女子）が出場しました。仙台大学は準決勝に進出しましたが、惜しくも明治大学に敗れ、後に行われた順位決定戦では7位入賞という悔しい結果となりました。

今大会には、運動栄養サポート研究会漕艇部サポートグループの学生5名も帯同し、大会期間中の選手のコンディショニング、疲労軽減・回復のためにサンドウィッチやフルーツの補食、オリジナルドリンクの提供を行い、選手たちを「栄養」の面から支えました。

仙台大学漕艇部は男女共、10月10日（木）～13日（日）にかけて行われる「全日本ボート選手権大会」に出場します。チーム一丸となって練習に励む仙台大学漕艇部への熱い応援を宜しくお願い致します。

仙台大学 広報室

Monthly Report

学校法人朴沢学園川平キャンパスグラウンド(仮称)完成式典『柿落とし』を開催



写真提供＝スポーツ情報マスメディア学科映像アカデミー

9月1日(日)、懸念された雨も吹き飛ばす晴天の中、仙台大学と明成高校共用である人工芝サッカー場・400m陸上トラック・多用途クレイグラウンド等からなる「学校法人朴沢学園川平キャンパスグラウンド(仮称)」の完成式典『柿落とし』が同グラウンドで開催されました。

完成式典には、学校関係者の他、ご来賓、地域住民の皆様など計約700名が参加し、盛大に執り行われました。

完成式典で朴澤理事長・学長(写真中央)は「スポーツ活動に向けての高校用途、大学用途、さらに7年間教育という観点からの高大連携、そして地域開放という多種多様な用途に対し、科学的かつ統合的な活用を図れるように施設を配置した。本施設を各面で活用頂きたい」。また、明成高校の佐々木校長(写真右から4番目)は「震災を乗り越え、地域と共に新たな学校づくりを構築するという強い意志をもって、未来に向けた学校づくりのシンボルとなり得るようなグラウンドにしたい」とそれぞれ挨拶がありました。その後、ご来賓を代表し、仙台市の稲葉信義副市長(写真左から4番目)からご祝辞を頂きました。

また、同式典では、同グラウンド建設にご尽力頂いた方々への感謝状贈呈やテープカットも行われました。【2面に続く】

< 目 次 >

学校法人朴沢学園川平キャンパスグラウンド(仮称)完成式典『柿落とし』を開催	1
ハワイ州立大学AT研修を終えて	2
古川黎明高校の生徒14名が来訪	3
仙台大学プレゼンツ VEGALTA DANCIN' FESTA 2013	4
2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定	5
学生の競技結果	6

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
 広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
 にも旬な話題を提供していきたいと考えて
 おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
 広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

完成式典終了後には、オープニングイベントとして、ベガルタ仙台レディースと明成高校女子サッカー部との記念試合が行われ、大いに会場を沸かせました。その他、仙台大学陸上競技部によるクリニックや仙台大学アスレティックトレーナー部及び運動栄養サポート研究会による実演会も同時に行われ地域の方々との交流を深めるなど、大変有意義なオープニングイベントとなりました。



写真提供＝スポーツ情報マスメディア学科映像アカデミー

ハワイ州立大学 (UH) アスレティックトレーニング研修アドバンスコースを終えて



国際交流担当ジュディ・エンジング氏によるオリエンテーション



UHのATルームで長年指導していらっしゃるエリック・オカザキ氏



フットボール公式試合に向けて早朝から練習に励むUHの学生たち



ATルームで遠隔授業講師の金岡友樹氏の話に耳を傾ける学生たち



大学院の授業を聴講



ATワークショップを終えて

平成25年8月25日から9月1日にかけて、ハワイ州立大学アスレティックトレーニング研修アドバンスコースが実施された。この研修（ビギナー・アドバンス合わせて17回目）には2～4年生の体育学科11名の学生が参加した。このアドバンスコースの主な目的は、アスレティックトレーニングにおける最先端の情報や技術を見学・体験することにある。また、現地の人々と触れ合いながら、その文化と習慣を体感できることもこの研修の良さと言える。

アドバンスコースにおいて魅力的なプログラム内容としては、献体解剖見学とアメリカンフットボール試合観戦が挙げられる。献体解剖見学は、学生たちにとってもちろん初めての経験であり、人の身体がどのような構造で成り立っているのかなどを実際の献体に見て触れながら学習できたことで、人体に対する興味がさらに深まったようであった。

アメリカンフットボールにおいては、学生たちは早朝練習の準備を手伝わせてもらうなど、アスレティックトレーナーとしての仕事を体感させていただいた。また、試合観戦は、ほとんどの学生たちにとって初めての経験であったため、ルールも詳しく理解できていない状況ではあったが、その試合の盛り上がりや雰囲気にとっても興奮し楽しんでいるようであった。

参加学生たちは、この研修を通して多くのことを学習し、日本では味わうことのできない刺激を体感できたのではないかと思う。この経験を活かしながら、学生たちの今後の人生がより豊かになることを願う。

<報告：助教 高橋陽介>

仙台大学と台湾・台東大学との「柔道合同練習会」を初開催



仙台大学柔道部と台東大学柔道部との記念撮影＝仙台大学柔道場

9月9日（月）～9月13日（金）までの5日間、仙台大学柔道場で仙台大学と台湾・台東大学との「柔道合同練習会」が実施されました。

本学と台東大学は、平成15年3月に国際交流協定を締結し、双方の学生が短期交換留学プログラムにより交流を図ってきましたが、柔道の合同練習会は初めて開催されました。

台東大学から男子4名・女子6名の計10名が参加し、本学柔道部と共に稽古に励み、同練習会最終日には、交流試合を通して互いに切磋琢磨しながら、国際交流を深めました。

台東大学柔道部の楊憲慈監督(写真3列目右端)は「仙台大学女子柔道部の南條和恵監督からは、寝技の基本的な動きを指導してもらえた。帰国した後も稽古を続け、もっと強くなって来年も仙台大学での合同練習を計画したい」と意欲的に話しました。

文部科学省「スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)」研究開発指定校 —宮城県古川黎明高校の生徒14名が来訪



左右：自動三次元動作分析(バイオメカニクス実験棟)＝宮西教授



左右：アスレティックトレーナールーム＝白幡新助手

9月12日（木）、文部科学省「スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)」研究開発指定校の宮城県古川黎明高校の生徒14名及び同校の昆野伸俊教諭と山口智輝教諭が、本学との連携を深めスポーツ科学の専門的な視野を広げる目的で、本学の研究施設（自動三次元動作分析装置<バイオメカニクス実験棟>・アスレティックトレーニングルーム・バイオテック室・人間環境計測制御室など）の見学に訪れました。

スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)とは「将来の国際的な科学技術系人材を育成することを目指し、理数系教育に重点を置いた研究開発を行う」研究指定校です。現在、全国で201校が文部科学省から研究指定校の指定を受けています。

本学を訪れた生徒たちの課題研究のテーマは、①「最強の投球術」・②「最強のバッティング」・③「50m走をいかに速く走るか」。これらのテーマについて、3つのグループに分かれて、取り組んでいます。

生徒たちを引率した山口教諭（理科）は「はじめて仙台大学に来ましたが、体力測定、三次元動作解析、動作フォームのチェック・分析、あらゆる気温・湿度を再現できる人工気候室など、最新機器を利用した測定ができる研究施設の充実に驚きの連続です」と話し、施設見学後に生徒たちは「もっと体験したかった」「三次元動作分析装置を用いて、自分のバットスイングを見ることができて良かった」「怪我をした時のテーピングの巻き方を教わられて良かった」など生き生きとした様子で話していました。

「2013年世界柔道選手権国別団体戦」日本女子代表チームが金メダル獲得— OG田中美衣選手が貢献



左から南條和恵監督・朴澤学長・田中選手・阿部副学長＝学長室

9月1日（日）、ブラジル・リオデジャネイロで「2013年世界柔道選手権大会国別団体戦（女子）」が行われ、日本女子代表チームが見事金メダルを獲得しました。OG たなかみき 田中美衣選手（了徳寺学園職／平成22年体育学科卒一京都成安高校出）も日本女子代表チームの主将として出場し、チームの優勝に貢献しました。

9月20日（金）田中選手は、本学女子柔道部の南條和恵監督と共に、同大会団体優勝の報告に学長室を訪れました。朴澤学長と阿部副学長から田中選手に対し、労いと称賛の言葉が贈られました。

田中選手は「団体戦では優勝がチームとしての目標だったので、達成できて本当に嬉しい」と素直に喜び、「個人戦（63kg級）では準々決勝で敗退。これから世界で戦っていくためには、得意の寝技だけではなく、立ち技も重視していきたい。自分の柔道スタイルを変え、新しい技を習得したい」と話し、更なる闘志を燃やしていました。

南條和恵監督は「田中には長く現役を続けてほしい。そのためには、もっと練習して強くなるという決意と覚悟が必要になる。心身共に大変厳しいことだが、勝ち続け、今後も日本代表に選ばれ続けてほしい」と話し、教え子の成長に期待を寄せました。

仙台大学プレゼンツ VEGALTA DANCIN' FESTA 2013



9月28日（土）のベガルタ仙台のホームゲーム前に「仙台大学プレゼンツ VEGALTA DANCIN' FESTA 2013」というイベントが行われました。

このイベントは、本学とベガルタ仙台の提携事業の一環として、柴田助教・笹生講師担当の「スポーツマネジメント演習」受講者（体育学科スポーツマネジメントコース2年生）19名が企画・運営を行いました。

この演習では6つの班がそれぞれ企画を提案し、コンペの結果ダンス企画が採用されました。そこから予算案の作成、大道具の手配、当日の役割分担などをすべて学生たちが決め、さらにダンス大会に参加してもらおう各大学（仙台大学ブレイキン、宮城教育大学、仙台白百合女子大学、宮城学院女子大学）に対する細かい連絡・調整も学生たちが行いました。

企画当日はまさに秋晴れ。各サークルの応援者や、たまたま通りかかったサポーターたちがステージを囲み、一時は100人ほどが迫力のあるヒップホップダンスに見入りました。また、本学新体操競技部の河野未来監督も審査員として参加してくれました。

審査の結果、優勝したのは、宮城教育大学。本学のブレイキンは惜しくも優勝を逃しましたが、宮城教育大学はブレイキンに憧れて参加を決めてくれたチームでした。

当日になって様々なハプニングが発生し、この企画を通じて学生たちはスポーツマネジメントの難しさと面白さを体感できたと思います。この中から、将来のベガルタ仙台のマネジメントを行うような人材が生まれることを期待しています。

<報告：講師 笹生心太>

“ザ・シティ・オブ・トーキョー！”

—2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定—

1. 決定の瞬間

“The International Olympic Committee has the honor of announcing that the Games of the 32nd Olympiad in 2020 are awarded to the city of ...”

ジャック・ロゲIOC会長が開催都市の書かれたカードを封筒から取り出しながら、最後の一言を読み上げた。「トーキョー！」。



「ザ・シティ・オブ・トーキョー！」の瞬間（東京商工会議所ビルにて／阿部篤志撮影）

連携大学をはじめとする関係者等で埋め尽くされた東京商工会議所ビルの特設会場では、みな一斉に立ち上がり、歓喜に沸き返りました。私は2016年招致の時、IOC総会が開催された現地コペンハーゲンで落選を目的に、今回の招致成功にはなおさら大きな喜びがこ

み上げましたが、それを内に押さえ込みながら、「さあいよいよこれから。この光景をしっかりと目に焼き付けておこう」という気持ちでその瞬間を過ごしました。

2. 仙台大学の取り組み

「Monthly Report」Vol.85（2013 MAY）で報告した通り、仙台大学は2013年5月、東京都及びTOKYO2020招致委員会との招致活動に関わる連携協定を締結し、事業戦略室を中心に様々な取り組みを進めてきました。

連携協定締結後における主な招致支援活動

時 期	内 容
5月23日	東京都・招致委員会との連携協定締結
6月10日～	招致PRポスターの学内掲出、横断幕・のぼり旗の設置による啓発
6月18日	柴田町スポーツ振興室との連携・調整による、町スポーツ関係者・指導者への広報用バッジの配布・啓発
6月16日～23日	本学新体操部が交流締結しているベラルーシ共和国国立体育・スポーツ学院訪問時における朴澤学長からの招致計画紹介及び意見交換
7月3日	利府高校の一日総合大学での講義「TOKYO2020から考える、これからのスポーツ」の実施
7月6日	柴田町スポーツ振興議員連盟研修会及び平成25年度仙台大学同窓会総会における招致PR
7月13日～20日	学科一日体験会での招致PR

時 期	内 容
8月3日	約1,100名が来場したオープンキャンパスにおける招致PR及びTOKYO2020招致支援学生アンバサダーによる「TOKYO2020×仙台大学」活動展の実施
8月6日～8日	学生アンバサダーによる仙台七夕まつりでの招致ブース運営支援
8月7日	米国カリフォルニア州立大学ロングビーチ校からの短期交換留学生と本学学生との日米合同TOKYO2020招致フォーラムの実施
8月31日	本多弘子氏（本学元教授）叙勲を祝う会における招致PR

本学には、TOKYO2016の招致活動を通して、学生たちが筑波大学や専修大学、流通経済大学等の学生と連絡を取りあいながら、勉強会などを重ねてきた経緯があります。彼らは卒業後の今も、互いに連絡を取り合いながら、新たなチャレンジを続けています。そこから私たちは、招致の成否に関わらず、招致過程を好機と捉え、学生が「スポーツの価値」に改めて向き合い、そこから得られた気づきや理解をいかに自ら体現していくことができるかが重要であることを学びました。

今回は連携協定の枠組みの中で、さらに幅広く招致に関わる活動が展開されたことで、そのような「無形のレガシー」が多く遺されたのではないかと感じています。本学では独自の取り組みとして、4名の「TOKYO2020 招致支援学生アンバサダー」を任命しました。彼らが中心となり、米国大学院生との招致フォーラムを企画・実施したり、招致委員会スタッフと一緒に招致ブースを運営しながら市民の声に耳を傾けるなど、学生自らの主体的な実践を通じて学びを得られるように設えました。この取り組みは、国内86の連携大学にニュースレターで配信されました。



【6面に続く】

3. 7年後に向けて

1964年東京オリンピック開催に向けたソフト・ハード両面の準備と成果が、その後の50年間の日本のスポーツの在り方を決めてきました。日本体育協会の指導者養成制度もTOKYO1964のレガシーの一つです。

そして今、グローバル化したスポーツは、様々な歴史上の課題に直面しています。勝利至上主義によるドーピングや不正、賭博、若者のスポーツ離れ、アスリートのキャリア問題、指導者の暴力問題など、いずれも私たちにとって無関係ではありません。むしろ、スポーツを専門領域とする大学として、7年後に向けて取り組んでいかなければならないことが多くあると思います。

特に、トップスポーツと地域スポーツがともに成熟していくためにも、そのつながりや好循環をいかに創出するかということが課題であり、地域から世界をみる視点においては、本学が果たす役割が大きいのではないかと考えています。

2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催される7年後に向けて、歴史的にも重要になるであろう、世界から私たちに与えられたこの時間を有意義に過ごしながら、それぞれの立ち位置から新たな半世紀の礎を少しでも築ければ良いと思います。

<報告：講師 阿部篤志>

2020年オリンピック・パラリンピック開催地決定にあたっての学長コメント



決定後、ビル1階に掲示された「開催決定ポスター」
＝写真提供：阿部篤志講師

2020年オリンピック・パラリンピックの開催都市が東京に決まったことを受けて、仙台大学の朴澤泰治学長より以下のコメントがありました。

「招致委員会と協定を締結して応援してきた大学として、大変嬉しく思います。成功に向けて体育系大学の機能を発揮して、今後も貢献していきたいと考えております。」

仙台大学は、東京都スポーツ振興局招致推進部及び東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会と、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動における連携協定を締結し、招致活動に協力して参りました。

本学は、今後も2020年東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて、連携を続けて参ります。

元気！笑顔！未来！2013東北こども博—10月12日(土)・13日(日)に開催決定



2013東北こども博のポスター

仙台大学・一般社団法人日本玩具協会、柴田町等で構成される東北こども博実行委員会は、来たる10月12日(土)・13日(日)の二日間、仙台大学キャンパスにおいて「2013東北こども博」を開催致します。

このイベントは、大震災からの一日も早い復興を祈り、被災地の子どもたちがおもちゃで思いっきり遊び、スポーツで存分に体を動かすことで、その健やかな成長と笑顔の広がりを願う大型イベントとして、2011年10月に初めて開催し、今年で第3回目となります。

入場は無料ですので、皆さまお誘い合わせの上、ぜひご来場下さい。

体操競技部、第67回全日本学生体操競技選手権大会 —男子1部団体総合で2年連続3位



銅メダルを手にガッツポーズを見せる仙台大学男子体操競技部団体メンバー
＝仙台大学体操場

8月31日（土）、北九州市立総合体育館（福岡県）で「第67回全日本体操競技選手権大会」の男子1部団体総合むらかみゆうとが行われ、村上雄人（体育学科3年—東京・明星高校おぼらたかゆき出）・小原孝之（体育学科3年—京都・洛南高校出）が活躍した仙台大学男子体操競技部が合計428.700点で2年連続3位に入りました。

鈴木良太監督（写真右端）は「順天堂大学・日本体育大学の上位2校に勝つために、一人一人の意識を強くする必要があると考えている。普段の練習の中で、上を目指すという意識やミスをしないという意識を高めていきたい」と今後の抱負を話し、日本体操協会U-21強化指定選手の小原孝之主将（写真前列右端）は「2年連続で3位に甘んじている。上位2校とは技術的・精神的にも実力差を感じている。来年こそ悲願の団体総合優勝を目指して、チーム一丸となって頑張りたい」と気を引き締めながら話しました。

なお、同選手権大会の女子2部団体総合では、仙台大学女子体操競技部が合計237.500点で見事優勝を果たしました。

11年ぶりの全国大会出場 女子ソフトボール部インカレ初戦敗退



9月7日（土）、大阪府寝屋川第2野球場において「文部科学大臣杯第48回全日本大学女子ソフトボール選手権大会」が開催され、本学女子ソフトボール部が11年ぶりとなる全国大会に駒を進めました。結果は13対0、5回コールドで日本福祉大学に惨敗しました。しかしながら11年ぶりの全国大会出場とあって埼玉からも先輩が駆けつけ、保護者の方々も会場で大きな声援を送ってくださいました。来年は着実に力をつけ全国場で活躍することが期待されます。あたたかいご声援ありがとうございました。



女子ソフトボール部主将
いいつかともこ
飯塚朋子さん（体育学科4年—
福島・磐城農業高校出）

富士大学や東北福祉大学を破って全国大会への切符を手にしたかったのが本音ですが、第3代表として11年ぶりにインカレに出場でき、大学生活を締めくくるのは、4年間目標にしていたことなのでとても嬉しいです。

現在、チームは少ない人数ながらも、明るく楽しく、プライベートでも学年の垣根を越え仲が良いので、さらに部員数が増えてほしいと思っています。来年は隣県である岩手県が全国大会の会場となるため、また全国に進めるよう後輩たちに想いを託したいと思っています。

サッカー日本女子選抜ミャンマー遠征に本学女子サッカー部から加賀孝子と須永愛美が選出



ミャンマー遠征に向け、練習に励む須永(左)と加賀
=仙台大学サッカー・ラグビー場

か が こ う こ
仙台大学女子サッカー部のMF加賀孝子(スポーツ情報
マスメディア学科2年—ジェフユナイテッド市原・千葉レ
す な が ま な み
ディース出一宮城・聖和学園高校出)とDF須永愛美(体育
学科1年—JFAアカデミー福島出)が、9月12日(木)~9月
22日(日)に行われるサッカー日本女子選抜ミャンマー遠征
のメンバーに選出されました。

ユニバーシアード日本代表のMF加賀は「7月のユニバーシアード大会は5位に終わった。チームの勝利に貢献できるよう頑張りたい。優勝して日本に戻りたい」。国際大会に初選出されたDF須永は「国際試合を経験することは、自分自身を大きく成長させる貴重な機会であると考えている。失敗を恐れず、積極的なプレーで、自分から仕掛けていきたい」とそれぞれ抱負を力強く語りました。

加賀と須永への温かいご声援を宜しくお願い致します。



第14回東北大学バスケットボールリーグ一部1次リーグ



中村がタフショットを決め、リードを広げる
=東北学院大学泉キャンパス体育館

9月7日(土)、東北学院大学泉キャンパス体育館で「第14回東北大学バスケットボールリーグ兼全日本大学バスケットボール選手権大会東北予選会」が行われ、仙台大学バスケットボール部は男女ともに、東北学院大学と対戦しました。

男子は点の取り合いとなりましたが、仙台大学はたざわてつべいはたざわてつべいで試合が進み、畑澤哲平(体育学科3年—秋田・能代工業高校)がセカンドリバウンドを多くとり、東北学院大学にセカンドシュートを与えず、前半を39-34と5点リードで折り返しました。

しょうじゅうやしょうじゅうや
後半、庄司優也(体育学科3年—山形・羽黒高校)・中村優斗(現代武道学科1年—宮城・明成高校出)が着実に得点を重ね18点差までリードを広げましたが、東北学院大学からオールコートディフェンスにプレッシャーをかけられ、次々に3Pシュートを決められました。遂に1点差までに追いつかれ、仙台大学がフリースローを1本落とし、東北学院大学がシュートを決め、75-75の同点で延長戦へ突入しました。

延長でも東北学院大学に3Pを連続で決められ、仙台大学も粘りを見せましたが、最後は82-83の僅か1点差で試合終了。

女子も激しい攻防戦の末、延長戦に突入する見応えあるゲームとなりました。仙台大学が東北学院大学に65-58で勝利し、シーソーゲームを制しました。

仙台六大学野球秋季リーグ戦第三節一勝ち点を2に伸ばす



リーグ戦初登板を果たした田代敏史投手(9月14日・宮城教育大学1回戦)
=東北福祉大学野球場

仙台六大学野球秋季リーグ第3節の9月14日(土)・15日(日)、東北福祉大学野球場で「仙台大学—宮城教育大学」の1・2回戦が行われ、仙台大学が連勝し、勝ち点を2に伸ばしました。

1回戦は、3番柳田恭平やなぎだきょうへい(体育学科4年—北海道・鶴川高校出)が4打数4安打2打点、代打たかはしこうすけ高橋孝輔(体育学科3年—秋田・金足農業高校出)が二死満塁から3点二塁打を放つ活躍で、12—1の六回コールドで宮城教育大学のぐちりょうたを下しました。投げては、先発・野口亮太(体育学科3年—群馬・前橋商業高校出)がリーグ通算17勝目を挙げ、リリーフたしろとしふみ田代敏史(体育学科4年—栃木・作新学院高校出)がリーグ戦初登板を果たしました。

2回戦は、先発投手の荒木雄哉あらかきゆうや(体育学科1年—長崎・清峰高校出)が要所を締め、宮城教育大学打線が無得点に抑え、2—0(六回降雨コールド)で下しました。

硬式野球部—開幕6連勝で「勝ち点3」／仙台六大学野球秋季リーグ戦



力投する金澤光基投手(9月22日・東北大学2回戦)
=東北福祉大学野球場



松本が2試合連続本塁打を放つ(9月22日・東北大学2回戦)
=東北福祉大学野球場

9月21日(土)・22日(日)、東北福祉大学野球場で仙台六大学野球秋季リーグ第四節2回戦「仙台大学—東北大学」が行われ、仙台大学は10—3(七回コールド)で東北大学に快勝しました。

これで仙台大学は、開幕から無傷の6連勝で勝ち点を「3」に伸ばし、東北福祉大学と東北学院大学に勝ち点3で並んで勝率で上回り首位に立ちました。

東北大学2回戦では、3番・松本桃太郎まつもともたろう(体育学科1年—北海道・北海高校出)が2試合連続本塁打うすいしん、5番指名打者・薄井新(体育学科2年—栃木・矢板中央高校出)が4打点の活躍。投げては、先発左腕・金澤光基かなざわみつぎ(体育学科4年—北海道・札幌創成高校出)が序盤に3点を失いますが、3回以降は無失点に抑える粘り強い投球を見せました。金澤は、打線の援護にも助けられ、今季2勝目を挙げました。

仙台六大学野球秋季リーグ戦(試合会場：東北福祉大学野球場)で仙台大学は、9月28日(土)・29日(日)に東北福祉大学、10月5日(土)・6日(日)に東北学院大学と対戦する予定です。

引き続き、仙台大学硬式野球部への熱い応援をよろしくお願い致します。

男子ハンドボール部—1部残留決定



佐々木祐助が強烈なシュートを放つ(9月14日・福島大学戦)
＝フラップ大郷 2 1



1部残留を決め、喜ぶ男子ハンドボール部の選手ら
＝東根市民体育館

9月16日(月・祝)、東根市民体育館(山形県東根市)で東北学生ハンドボール秋季リーグ戦「仙台大学—東北大学」が行われ、同試合は、勝った方が1部リーグ残留の一番となりました。仙台大学は後半、相手の猛追を許しましたが、大接戦の末、18-17(前半12-7、後半6-10)の1点差で勝利。

むらきりょうた

苦しみながらも、村木亮太主将(体育学科4年—福島・尚志高校出)・佐々木祐助(体育学科4年—宮城・聖和学園高校出)を中心に4年生が奮闘。

ささきゆうすけ

GK武田直哉(現代武道学科3年—山形・東根工業高校出)が好セーブを連発しました。

試合終了後、村木主将は「1部リーグ残留が目標だった。最後まで集中力を切らさなかったことが勝因。チームの成長を感じた」と試合を振り返り、「チームの主将として苦労が多かった分、1部リーグ残留を決めた時は、格別の喜びと達成感が込み上げてきた」と充実した表情で話しました。

なお、女子ハンドボール部も福島大学との入れ替え戦に勝利し、Aリーグ残留を決めました。

みやうちはるか
宮内悠(運動栄養学科4年—茨城・麻生高校出)がベスト7に輝きました。

女子バスケットボール部、「宮城県総合バスケットボール選手権」を制す



高橋が落ち着いてシュートを決める(東北学院大学戦)
＝仙台市青葉体育館

9月23日(月・祝)、仙台市青葉体育館で「宮城県総合バスケットボール選手権(女子)」の準決勝と決勝が行われました。準決勝で仙台大学は、67-59で東北学院大学に勝利。決勝は、仙台大学が聖和学園高校を追い上げて、最終クォーター残り17

たかはしなお

秒で高橋奈央(体育学科3年—岩手・一関学院高校出)がシュートを決め、息詰まる接戦を73-72で制しました。仙台大学は、見事な逆転勝利を収め、3年ぶりに「優勝」を飾りました。

はなだはるか

準決勝・決勝では、中でも高橋奈央・花田遥歌(体育学科3年—青森・柴田女子高校出)・伊藤瑞穂(体育学科3年—秋田・明桜高校出)らの活躍が光りました。

仙台大学女子バスケットボール部は、11月8日(金)～10日(日)に山形市で開催される「東北総合バスケットボール選手権」に宮城県代表として出場します。

引き続き、仙台大学女子バスケットボール部への温かいご声援を宜しくお願い致します。

仙台大学 広報室



Monthly Report

2013東北こども博—過去最多の来場者で賑わう



オープニングセレモニーでテープカットする関係者=仙台大学第五体育館

10月12日(土)・13日(日)の二日間、仙台大学を会場にして、大震災からの一日も早い復興を願い「2013東北こども博」(主催:東北こども博実行委員会、後援:文部科学省/宮城県/仙台市教育委員会など)が開催されました。

「東北こども博」は、被災地の子どもたちがおもちゃで思いっきり遊び、スポーツで存分に体を動かすことで、その健やかな成長と笑顔の広がりを願うイベント。今年で三回目の開催となり、約600名の学生ボランティアが二日間に渡り東北こども博を支え、盛り上げました。

12日(土)のオープニングセレモニーでは、東北こども博実行委員長の朴澤学長(仙台大学)・同副会長の滝口町長(柴田町)・同副会長の富山会長(日本玩具協会)が挨拶。その後、着ぐるみのキャラクターたちも加わりテープカットが行われました。また、昨年に引き続き、震災を乗り越えた亘理町立荒浜小学校の児童による郷土芸能の「荒浜ぶちあわせ太鼓」が披露され、太鼓の迫力ある勇壮な響きで幕が上がりました。

【2面に続く】

< 目 次 >

2013東北こども博 —過去最多の来場者で賑わう	1
2013世界体操—OB亀山耕平選手 が「あん馬」で金メダル獲得	2
女川町健康まつり参画—仙台大学 「健康改善度・新体力測定」	4
仙台大学と角田市の連携協力に関 する覚書締結式	4
仙台大学大学祭— 「国際交流講演会」を開催	6
学生の競技結果	7

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま
したら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

今回は、キャラクターによるステージショー、最新のおもちゃやゲームが体験できる「トイホビー」、みんなが笑顔になれる楽しいスポーツ体験や親子でプラズマカーなどに挑戦できる「スポーツ」、屋台などが並ぶ「お祭り」の3つのエリアに加え、ペットボトル工作やロープワーク教室に参加できる「アウトドア」、世界に二台しかないスポーツハイブリッドカーに乗っての記念撮影・音楽やダンス・ロケット博士の講演会など盛り沢山の「地域連携企画」の2つのエリアが加わり、5つのエリアで構成された多彩なイベントで各会場が賑わっていました。

「2013東北こども博」には、過去最多である18,180名（昨年15,900名、一昨年13,800名）の皆さまがご来場下さいました。誠に有難うございました。



2013世界体操競技選手権種目別決勝 —OB亀山耕平選手が「あん馬」で金メダル獲得



亀山耕平選手の仙台大学時代の「あん馬」の演技
=仙台大学体操場

10月5日（土）、ベルギー・アントワープで「2013世界体操競技 かめやまこうへい

選手権」種目別決勝の「あん馬」が行われ、OB亀山耕平選手（徳洲会／平成22年体育学科卒一埼玉栄高校出）が15.833点で見事金メダルを獲得しました。

皆様からのご声援、誠に有難うございました。

なお、亀山選手の功績が称えられ、仙台市から「賛辞の楯（たて）」が贈られることになりました。11月5日（火）に仙台市役所で贈呈式が行われる予定です。11月7日（木）に母校への感謝を込め、亀山選手は朴澤学長を表敬訪問致します。詳しくは、別途送信される学内メールなどをご参照ください。

平成25年度 東北多文化アカデミー主催・日本語学校入学式



前列左から2番目・朴澤学長、3番目・押谷代表理事

10月1日（火）、留学生のために日本語教育事業を行なっている「東北多文化アカデミー」（仙台市青葉区）で、来年度、本学大学院入学を予定している中国人留学生7名（吉林体育学院・瀋陽師範大学・上海体育学院）の入学式が行なわれました。

留学生たちは、半年間、同アカデミーで本学大学院入学前に十分な日本語教育を受け、修士号の取得を目指します。

留学生たちは、新生活への期待に満ちた輝いた目で、本学の朴澤学長や東北多文化アカデミーの押谷祐子代表理事の言葉を聞いていました。

自己紹介で留学生たちは、片言ながら、覚えてたての日本語を先生方に披露。これからお世話になる先生方から優しくご指南頂き、終始和やかな雰囲気ですべてを終えました。

留学生たちの今後の日本語上達に、大いに期待したいと思います。

<報告：学生支援室 石栗はるか>

仙台大学紀要「ベスト論文賞」



左から2番目が本学客員教授 佐藤和賀子氏＝学長室

ベスト論文賞は、研究活動の活発化と「仙台大学紀要」の質の向上を図るべく、平成21年度に新設された。選考対象となる論文は前年度の紀要掲載の総説または原著で、学外の選考委員5名の選考等を経て決定される。今回は24年度第44巻1・2号および23年度第43巻1号の計6編の中から、本学客員教授 さとうわかこ 佐藤和賀子氏の「朴澤三代治と裁縫教授用掛図」が選ばれた。

表彰は平成25年10月7日（月）、学長室で執り行い、受賞者には表彰状と記念品が贈られた。

選考理由要旨は「ユニークな研究テーマを取り上げた人文科学（歴史領域）の論考として、その資料の蒐集、先行研究の検討、対象人物の業績に関し、十分に評価できる。」ということであった。

<報告：紀要編集委員長>

【著者の声・佐藤和賀子氏】

仙台大学の母体である朴沢学園の創始者朴澤三代治氏は近代裁縫教育の先駆者です。ベスト論文賞をいただいた拙稿「朴澤三代治と裁縫教授用掛図」は、朴澤氏が教室での一斉授業のために教具として作成した裁縫掛図に注目したものです。明治期に作成された掛図や雛形等の裁縫教材は朴澤家の皆様はじめ学園関係者によって戦火の中も守られ現在に伝えられている貴重な教育資料です。その評価は既に仙台市の文化財として価値が認められていますが、わが国の裁縫教育史のみならず近代女子教育史のなかでも評価されるべき資料と思います。今回の受賞を励みに、今後とも朴沢学園裁縫資料の調査研究を継続したいと思っていますので宜しくお願いいたします。

平成25年度 全国地域安全運動宮城県大会「自主防犯ボランティア活動推進功労団体」として表彰



10月9日（水）宮城広瀬文化センターにおいて平成25年度全国地域安全運動宮城県大会が開催され、自主防犯ボランティア活動推進功労団体として本学が表彰されることとなり本学を代表し飯塚公良夫教授に表彰状が授与されました。

今回の表彰は、宮城県内各地域で本学が平成23年7月から開始し現在に至るまで継続的に実施している仮設住宅における健康支援ボランティア活動が認められたもので、特に今回は遠田地区（主に

美里町）において、仮設住宅が開設した当初から運動指導とともに美里町中埠駐在所の警察官等による防犯講話を月1回の実施し、地域の安全活動に尽力した功労に対しての表彰となりました。

表彰ではこのほか防犯作文最優秀賞受賞の小学生による作文朗読や、ポスターコンクール入賞者への表彰状授与があり、その後第二部として、阿部芳吉副学長による「地域で守る子どもたち」と題した記念講演が行われました。阿部副学長からは、子どもたちを守るためには①子ども自ら防犯意識を高めること、②関係機関（学校・地域・警察）の連携が不可欠であることなどが話され、犯罪を未然に防ぐために、地域の見守り活動など地道な活動が防犯に欠かせない要素であることなどが話されました。



表彰を受けた功労団体の方々と共に



宮城広瀬高校吹奏楽部によるマーチングバンド披露

女川町健康まつり参画—仙台大学「健康改善度・新体力測定」



10月14日（月・祝）、女川町総合体育館で、女川町・女川町教育委員会主催の「女川町健康まつり」が開催されました。当まつりへは、仙台大学も参画し、総合体育館の一部をお借りして、体組成測定（骨密度測定、脂肪量・骨格筋量測定）・新体力テスト測定を行い、80名弱の方々が測定に参加されました。



長座体前屈



握力



反復横跳び



6分間歩行



10m障害歩行



立ち幅跳び

東日本大震災以降、女川町の仮設住宅へは週1回、健康づくり運動サポーターが茶話会・健康運動指導で訪れてはおりますが、今般、仙台大学として、文科省の補助金を得て当測定機材搭載のマイクロバスを購入したことから、茶話会・運動指導に加え、新たに体力・健康状態を遠隔地へ出向いて測定できるようになったものです。これにより、被災地の方々の体力低下等を定量的に把握できるとともに、改善指導もより確実に行っていけるようになるものと期待しております。

今回の測定実施に関しましては、仙台大学の教職員10名に加え、学生ボランティア22名も参加し、大学の使命である社会貢献に教職員・学生一体となって実践できたことも有意義なものであったと思います。

<報告：スポーツ健康科学研究実践機構>

仙台大学と角田市の連携協力に関する覚書締結式



協定書を手に握手を交わす朴澤学長(右)と大友市長=角田市役所

仙台大学は10月15日（火）、角田市役所で角田市と連携協力に関する覚書締結式を行ないました。締結式には、本学から朴澤学長・阿部副学長・藤井運動栄養学科長・阿部肇准教授・吉井講師（角田市スポーツ審議会委員）・渡邊一郎事業戦略室長の6名が、角田市からは大友市長・小野副市長・菊地教育長ら6名が出席し、朴澤学長と大友市長が相互に協定書を取り交わしました。

仙台大学と角田市が連携協力して行なう事業内容は、（1）角田市民の健康づくりに関すること、

（2）児童・生徒の健康増進・体力向上及び学校生活の支援に関すること、（3）教員養成や現職教員の研修に関すること、（4）生涯学習及び生涯スポーツ事業への協力に関すること、（5）大学及び学校における教育研究面での協力に関すること、（6）その他双方が必要と認める事業。

締結式で大友市長は「角田市は、人と地域が輝く田園交流都市を掲げ、新たな街づくりに取り組んでいる。少子高齢社会が進展する中で、いかに健康で長生きできるかが大きな課題。地域住民の肥満率低減やスポーツを通して青少年が生きる力を身につけさせたい。仙台大学の力をお借りして、課題解決を図りたい」と話され、朴澤学長は「角田市と仙台大学は、これまでも様々な形で連携協力をさせて頂いていた。正式に覚書を締結することによって、さらに体系化して進めていきたい。仙台大学の専門分野である健康・スポーツの場面で、地域住民の心身ともに健全な生活習慣の確立支援に携わっていききたい」と述べました。

なお、本学における「地域連携協力」に関する覚書の締結は、宮城県・仙台市・柴田町等に続いて12件目となります。

みやぎまるごとフェスティバル2013



10月19日（土）・20日（日）、宮城県庁ならびに勾当台公園、市民広場を会場に、食道楽にはうれしい実りの秋の楽しみと宮城県のいいね！を新発見、再発見できる祭典「みやぎまるごとフェスティバル」が開催されました。本学運動栄養学科からも学科生14名と服部新助手、佐藤幸子新助手、堀江新助手、千葉新助手、西川新助手の計19名が参加しました。

昨年度は『キッズ食育パーク』というコーナーを設け、こどもと子育て世代向けの内容を実施していましたが、参加7年目となる今年度は『みんなの食育コーナー』と幅広い世代を対象に実施いたしました。実施内容は、①「親子でCooking□栄養満点カップケーキ」という親子での簡単な調理体験（1日100食限定）と②「普段食べているお菓子やジュースについて知ろう」というジュースに含まれる砂糖の量やポテトチップスのエネルギー量などに関するクイズを通して知識を深めるものとなりました。

食への興味・関心を高めることや日本人が不足しがちな栄養素を補える簡単なおやつ作りを家庭でも実践できるようになることを目的とした今回の活動は、雨の中でも列ができるほどの大盛況であり、食育の発信に大きく役立ったようでした。

<報告：新助手 西川里美>

【運動栄養学科参加学生】

No	氏名	学年	出身高校
1	及川美雪	4年	宮城・東北高校
2	数又美穂	4年	宮城・白石女子高校
3	金子紗侑莉	3年	宮城・聖和学園高校
4	川田聡子	3年	宮城・蔵王高校
5	小辻美希	3年	北海道・函館白百合学園高校
6	金野摩耶	3年	宮城・聖ウルスラ学院英智高校
7	沢田ひかり	3年	宮城・利府高校
8	阿部佑哉	2年	宮城・古川黎明高校
9	大波千浩	2年	福島商業高校
10	尾崎洋美	2年	北海道・札幌東陵高校
11	小野 匠	2年	山形・米沢東高校
12	菊地 遥	2年	宮城・聖和学園高校
13	伊東里奈	1年	宮城学院高校
14	菅原麻莉	1年	宮城・石巻好文館高校



「健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催



朴澤学長から認定証を授与される穴沢さん
＝仙台大学管理研究棟2階大会議室

10月22日（火）、本学管理研究棟2階大会議室で、本学学生の「健康づくり運動サポーター認定証授与式」が開催されました。今回は、健康づくり運動サポーターとして、初級10名・中級3名の計13名が認定されました。

「健康づくり運動サポーター」は本学独自の認定資格で、同サポーター養成プログラム（実践）を修了することによって認定されます。

朴澤学長より、認定者一人ひとりに、認定証が手渡されました。認定者を代表して、中級資格を

取得した穴沢直美さん（健康福祉学科4年一福島・会津高校出）からは、「健康づくり運動サポーター事業の実践の場では、人前で指導する難しさを感じましたが、経験していくうちに対象者に合わせた指導ができるようになり、実践力を身に付けることができたと思います。もっと多くの学生が同事業に携われるようなカリキュラムを組んで頂ければ、より活発な活動になっていくと感じます」と感想が述べられました。

<報告：新助手 齋藤まり>

仙台大学大学祭—「国際交流講演会」を開催



学生たちを前に呼び、自らのビジネスの成功経験談について再現
を交え紹介するStephen E. Buchan氏（左から3番目）
＝仙台大学講義棟B203教室

10月26日（土）、仙台大学大学祭において、ここ数年恒例となっている「国際交流講演会」が開催され、一般の方・教職員や学生を含め、立ち見が出る程多い約200名の参加者が熱心に耳を傾けました。

講演者は、平成21年4月に国際交流協定を締結した米国・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校のStephen E. Buchan氏（専門は経営学）。

『アメリカにおけるスポーツ、リーダーシップ、パーソナルスキルの発展』と題し、ご講演頂きました。同時通訳は、本学の柴田恵里香助教（写真右端）が務めました。

E. Buchan氏は、講演の冒頭に「物事を成就するためには、何かを与えられるのを待つのではなく、自らが進んで求める姿勢が大切である」と述べられ、「日米における文化の違いは何か」・「仙台大学の理念は何か」という問いを参加者に投げかけながら話を進められました。

また、同氏は、自らのビジネスの成功経験談を紹介。ビジネスで成功するためには、顧客ニーズを的確に把握することが重要であり、これは、スポーツビジネス分野でも同様であると述べられました。さらに、ネットワーク（人脈）作りが得意でなければならないことを強調されました。

最後に、（人として）成功するためには、誠実さ・リーダーシップ・コミュニケーション能力・実行力などの特性が重要であると述べられ、講演を締めくくられました。

JR仙台駅2階のクリックビジョンがリニューアル



10月1日（火）から、本学をPRするJR仙台駅2階（3階の新幹線乗り場）に上がる中央エレベーター右手サイドのクリックビジョン（15秒看板）のデザインがリニューアルしました。

次回リニューアルは、平成26年4月1日を予定しております。大学及び学科紹介に使用されたい画像・写真やクリックビジョンに関するアイデア等がございましたら、広報室までお寄せ下さい。

仙台大学スポーツ健康科学研究実践機構—新たに2名奉職

【臨時職員】

伊藤 寿展さん



9月18日よりスポーツ健康科学研究実践機構で健康づくり運動サポーター事業等を担当させて頂いております。地域の方々の健康維持やいきがい、自己実現の取り組みを支援し、共に成長していきたいと思っております。

加藤 琢磨さん



10月15日よりスポーツ健康科学研究実践機構にてタレント発掘、企業支援を担当させていただきます。これまでの経験を活かしながら一生懸命取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

硬式野球部—秋季リーグ戦「三位」が確定／仙台六大学野球



馬場(3)が左越えソロ本塁打を放ち、同点とする
(10月5日・東北学院大学1回戦)＝東北福祉大学野球場

9月28日(土)・29日(日)・30日(月)、仙台六大学野球秋季リーグ第六節「仙台大学—東北福祉大学」が行われ、仙台大学は1回戦、2-7と点差を付けられましたが、2回戦は金澤光基投手(体育学科4年—北海道・札幌創成高校出)が東北福祉大学打線を5安打9奪三振に抑え、2-1(タイブレイク10回)で競り勝ちました。金澤投手のストレートの最速は、146km/hを記録。

勝ち点を期待された3回戦、0-4で迎えた9回表、6番・五十嵐歩(体育学科3年—福島・帝京安積高校出)が右越え3点本塁打を放ち反撃を見せましたが、惜しくも3-4で競り負け、1勝2敗で東北福祉大学から勝ち点を奪えませんでした。

10月5日(土)・6日(日)、リーグ優勝に望みをかけた仙台六大学野球秋季リーグ第六節「仙台大学—東北学院大学」が行われました。仙台大学は1回戦、2-3で迎えた8回裏、7番・馬場康治郎(体育学科4年—宮城・利府高校出)がリーグ通算5本目となる左越えソロ本塁打を放ち同点に追いつきましたが、タイブレイク10回表に6点を奪われ、3-9。その裏、仙台大学は4点を返しましたが、惜しくも7-9で敗れました。2回戦は、2-4で惜敗。全日程を終え、勝ち点3で「三位」が確定しました。

本リーグ戦では、最後まで粘りを見せた仙台大学硬式野球部。これからも、皆様からの熱いご声援をよろしくお願い致します。

全日本大学駅伝—東北学連選抜に西澤賢治と片桐亜子が選出



西澤(左)と片桐＝仙台大学陸上競技場

「第25回出雲全日本大学選抜駅伝」<10月14日(月・祝)>の東北学連選抜に西澤賢治(健康福祉学科3年—青森中央高校出)が、「第31回杜の都全日本大学女子駅伝」<10月27日(日)>の東北学連選抜に片桐亜子(体育学科4年—宮城・聖和学園高校出)がそれぞれ選出されました。

補欠登録ですが初選出の西澤は、「全国から有力選手が集まる大会。吸収できることは何でも吸収し、自分の成長につなげたい。チャンスがあれば走りたい」。4年連続学連選抜に選出され、今年アンカーを務める片桐は、「最後の杜の都女子駅伝。悔いのないように走りたい。今までお世話になってきた方々への感謝の気持ちを忘れずに挑みたい」と意気込みを語りました。【9面に関連記事】

東北地区大学ラグビーリーグ1部リーグ



後半、2トライを挙げた渡部
＝東北学院大学泉キャンパスラグビー場

10月6日(日)、東北学院大学泉キャンパスラグビー場で、東北地区大学ラグビーリーグ1部リーグ「仙台大学—東北学院大学」が行われました。

前半、仙台大学には全体的に硬さが見られ、0-24と無得点に終わりましたが、後半に入ると、意地を見せ、渡部一誠(健康福祉学科3年—山形中央高校出)が2トライを決めました。しかし、反撃もここまでとなり、後半相手に2トライを奪われ、12-36でノーサイドの笛が鳴りました。

硬式野球部—松本桃太郎が3冠王とMVPに輝く



最優秀選手賞のトロフィーを手に3冠ポーズの松本桃太郎
=仙台大学野球場

平成25年度仙台六大学野球秋季リーグ戦の全日程は、10月14日（月・祝）で終了し、表彰選手が発表されました。本学からは、松本桃太郎三塁手まつもと ももたろう（体育学科1年—北海道・北海高校出）が、打率.477、17打点、3本塁打で3冠王とMVP（最優秀選手賞）に輝き、さらに三塁手のベストナインにも選ばれました。（本学硬式野球部は三位）

リーグ史上初めて1年生選手で3冠王を獲得した松本は「1年の秋季リーグで3冠王とMVP、ベストナインが獲れて本当に嬉しい。タイトルを受賞できたのは、監督・コーチ・チームメイト全員のお陰です。感謝の気持ちでいっぱい」と笑顔で話し、「（来季の）春季リーグ戦ではリーグ優勝に向け、先輩たちの悔しさと勝ちたいという強い気持ちを胸に、日々の練習を積み重ねていきたい」と力強く語りました。

本学硬式野球部の森本監督は「3冠王は日々の努力の賜物。これから様々な困難や壁にぶつかるかも知れないが、それを乗り越えられる強さを身に付け、さらに選手として成長し、チームに貢献してほしい」と話し、教え子のさらなる活躍に期待を寄せていました。

そして、本学からはもう一名、柳田恭平外野手やなぎだきょうへい（体育学科4年—北海道・鶴川高校出）が初のベストナインを受賞しました。柳田は、強肩強打で勝負強い選手。対東北福祉大学2回戦では、勝利を呼び込む同点本塁打を放つなどの活躍を見せました。

引き続き、仙台大学硬式野球部への熱い応援をよろしくお願い致します。

陸上競技部—佐々木琢磨が「第47回全国ろうあ者体育大会inとやま」の100mで優勝



賞状とメダルを手にする佐々木=学長室

9月14日（土）、富山県五福公園陸上競技場（富山市）で「第47回全国ろうあ者体育大会inとやま」が行なわれ、本学陸上競技部の佐々木琢磨ささきたくま（健康福祉学科2年—盛岡視聴覚支援学校出）が100mで自己ベストを更新する11秒10で優勝を飾りました。また、200mでは、2位に入る健闘を見せました。

佐々木は、両側内耳性難聴による聴覚障害2級のろうあ者。

10月23日（水）佐々木は、本学陸上競技部の藤井部長（写真左端）・柴山コーチ（同右端）と共に、同大会優勝の報告に学長室を訪れました。

今年7月にブルガリアで開催された第22回夏季ソフィアデフリンピック日本代表の佐々木は「自己ベストを更新でき、優勝できて嬉しい。来季に向けて自分の目標（日本インカレ出場）と真剣に向き合い、トレーニングに励みたい」と筆談し、柴山コーチは「佐々木は真面目で意欲のある選手。課題は後半の加速力。この冬にしっかりと走り込んで、一回り成長した姿を見せてほしい」とエールを送りました。



筆談でやりとりする朴澤学長と佐々木

杜の都駅伝—東北学連選抜・片桐亜子主将(仙台大4年)がアンカーの大役を果たす



両手を挙げゴールする片桐主将=仙台市役所前市民広場

10月27日(日)、宮城県仙台市で「杜の都第31回全日本大学女子駅伝」が開催され、出場した26チームが、仙台市陸上競技場から仙台市役所前市民広場までの6区間38.0キロを力走しました。

本学陸上競技部からは、東北学連選抜(オープン参加)の主将に選出された片桐亜子かたぎりあこ(体育学科4年—宮城・聖和学園高校出)がアンカーを務め、第6区(5.2km)を19分16秒のタイムで走り切り、大役を無事に果たしました。東北学連選抜は2時間17分34秒(オープン参加のため公式記録では順位つかず)で、22位という結果でした。

4年連続で東北学連選抜に選出された片桐主将は、レース後、「今朝起きてから調子が良かった。最後まで楽しく気持ちよく走ることができた」と振り返り、「東北学連選抜には、来年こそ襷(たすき)をつないで上位進出を目指して頑張ってもらいたい。仙台大学には、2～3年後に単独チームで杜も都駅伝に出場できる実力をつけてほしい。後輩たちの走っている姿が見たい」と今後の活躍にエールを送りました。

仙台大学 広報室

Monthly Report

2013世界体操競技選手権「あん馬」金メダリスト OB亀山耕平選手が来校



金メダルの亀山耕平選手を囲む大学関係者＝仙台大学

11月7日（木）、10月にベルギー・アントワープで開催された「2013世界体操競技選手権」種目別の「あん馬」で、日本人選手としては10年ぶり2回目の金メダルを獲得したOB亀山耕平選手（徳洲会体操クラブ／平成22年体育学科卒一埼玉栄高校出）が来校しました。本学からの世界選手権での個人種目の金メダリスト輩出は初めての快挙。（団体種目では、2013世界柔道団体戦＜女子＞でOG田中美衣選手（了徳寺学園職／平成22年体育学科卒一京都成安高校出）が金メダルを獲得）

仙台大学の正門玄関前では、亀山選手の功績を称え教職員及びび学生ら約300名が盛大な歓声と拍手で歓迎。本学体操競技部の橘あすかさん（運動栄養学科3年一新潟・長岡大手高校出）から花束を贈呈しました。その後、亀山選手は、朴澤学長へ表敬訪問を行ないました。表敬訪問には、キナー ト・阿部芳吉・若井の3副学長、体操競技部の高成田部長・山口副部長・鈴木良太監督、鈴木省三教授（仙台大学同窓会会長）も同席。

亀山選手は「たくさんの応援を頂き、有難うございました。大学時代の練習があったからこそ、金メダル獲得につながったと思います。今後も精進を重ね、3年後のリオデジャネイロオリンピック出場を目指します」と力強く挨拶し、朴澤学長は「今回の快挙は本人の努力の賜物であり、後輩・仙台大学関係者にとって大きな励みになることはもちろん、東日本大震災の被災地に対しても喜びと希望を与えた。体育系大学で学んだ経験をもとに、その機能を活用した代表選手として、後に続く学生の模範となしてほしい。リオデジャネイロ五輪出場とメダル獲得に向けてなお一層の精進を期待する」と労いと激励の言葉を述べました。

< 目 次 >

2013世界体操競技選手権「あん馬」 金メダリストOB亀山耕平選手が来校	1
スポーツシンポジウム2013を開催	2
ベトナム・ホーチミン市体育大学と 国際交流会議を開催	3
吉本興業と日本レクリエーション協 会、仙台大学がニュースポーツ「ス ポーツテンカ」を共同開発	3
仙台大学と青海省体育科学研究所 との日中共同研究	4
学生の競技結果	6

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま
したら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

恩師らとの歓談後、亀山選手から大学に対しサイン入り色紙を朴澤学長に、後輩の体操競技部員へはメッセージ入りサイン色紙を鈴木良太監督に手渡し、終始和やかな雰囲気での表敬訪問となりました。

その後、亀山選手は、自分が練習を重ねた体操競技場で待ち受けた体操競技部部員たちと交流を図り、笑顔で「あん馬」のコツをアドバイスしていました。

リオデジャネイロ五輪で、あん馬と団体の2種目の金メダルを目指すOB亀山耕平選手へ温かいご声援をよろしくお願い致します。



後輩たちに「あん馬」のコツを指導する亀山選手
=仙台大学体操場

スポーツシンポジウム2013を開催



基調講演する為末大氏
=せんだいメディアテーク

平成25年11月11日（月）、せんだいメディアテークにおいて仙台大学、仙台市、河北新報社の主催で、今年で9回目となるスポーツシンポジウムを開催し、約250名の方々にご来場いただきました。

第一部の基調講演には、世界陸上400mハードル銅メダリストでシドニー・アテネ・北京とオリンピック連続出場の為末大氏による「スポーツの可能性」と題した講演が行われ、これまでの競技生活において為末氏が得たものなどが紹介されました。

その一つに自分を客観的に見つめること（control my self）を挙げ、常にあらゆる場面を想定した「考えるトレーニング」を行ってきたことなどが話されました。また、片足義足のパラリンピアン「左足を失ったのか。右足が残ったのか。私は後者を希望と呼ぶ。」という言葉が紹介され、為末氏の競技を通じた人生観とともに、全ての人に希望を与えるスポーツの持つ可能性について考えさせられる講演となりました。

第二部では「子どもの体力低下について考える」をテーマに公益財団法人日本体育協会スポーツ科学研究室長代理の森丘保典氏、仙台市立富沢小学校長の郡山孝幸氏、仙台大学講師山梨雅枝氏によるパネルディスカッションが行われ、パネリストそれぞれの立場から現在取り組んでいる活動の紹介がなされ、スポーツ基本法でも取り上げられている体力向上の取り組みへ向けた今後の課題や、子供たちの健やかな発達を促すための方策など、活発な議論が交わされました。



「子どもの体力低下について考える」をテーマに
=せんだいメディアテーク

ベトナム・ホーチミン市体育大学と国際交流会議を開催



調印式で固く握手を交わす朴澤学長（右）とニュエン副学長
＝仙台大学

11月18日（月）、国際交流協定校の一つであるベトナムのホーチミン市体育大学（Hochiminh City University of Sport）からニュエン ヒェップ（Nguyen Hiep）副学長とファン ホォアン タン（Pham Hoang Tung）国際交流所所長が来学され、本学管理研究棟大会議室で、ホーチミン市体育大学と仙台大学における「国際交流会議」が開催されました。同会議には、本学から朴澤学長、阿部・若井両副学長、鎌田国際交流センター長ら10名が出席。主に、学部学生及び大学院生・教員間の交流について話し合いが行われました。

同会議終了後には、朴澤学長とニュエン副学長が「大学院に係る国際交流に関する協定書」に調印しました。

今後、仙台大学とホーチミン市体育大学における学部学生・教員間交流の活性化に向けた協定書の策定も予定しており、共同研究等のなお一層の進展が期待されています。

※ホーチミン市体育大学は1977年開学。ベトナムの南部に位置する。学部生5,200名、大学院修士課程200名・博士課程に20名が在籍。体育教育・体育管理・体育医学・トレーニングの4学科を有する体育専門大学である。



ファン所長、前列左から2番目

吉本興業と日本レクリエーション協会、仙台大学がニュースポーツ「スポーツテンカ」を共同開発



写真提供：日本レクリエーション協会



吉本興業ワッキー(右)の体験教室 ボールには大学のロゴ

仙台大学は、吉本興業の子育て応援プロジェクト「パパパーク!」、公益財団法人日本レクリエーション協会の2団体と共に、「スポーツテンカ」という名のニュースポーツを共同開発しました。それは、仙台大学在学中レクリエーション部主将であった私が、卒業後の現在もレクリエーション指導者養成・課程認定校関連等で一緒に仕事をさせていただいている仙台大学レクリエーション部・部長の仲野先生に話をもちかけたのが発端でした。

「スポーツテンカ」は、昔あそびである「テンカボール」をヒントに開発されました。ルールは2人で対戦し、先に5ポイントを得たら勝利となります。相手が投げたボールをキャッチする際の「技」により得点がもらえたり、相手に近づいて攻撃することができるので得点でき

るチャンスが高くなったりします。ルール自体は簡単で、ボールを使った全身運動ができ、子どもから大人まで一緒に楽しみながら思考力、判断力、チャレンジ力などを養うことができるスポーツです。

実施する際のボールについても、3団体で共同開発しました。実施対象に合わせてボールの大きさを変更できたり、3Dブロック模様により、ボールをしっかりと取りやすく、つきゆびしにくいという特徴のあるボールができあがりました。ボールには、仙台大学のロゴも刻まれています。

東京で6月に開催した体験会では、ワッキーと共に小学3年生～6年生の児童約50名が、スポーツテンカに挑戦。今後はオリンピック種目を目指し?全国の小学校を対象に普及活動、指導員の養成、実施に伴う心身への効果測定の共同研究などを行っていく予定です。スポーツテンカのルールの詳細は、

<http://sportstenka.com/> を参照ください。

スポーツテンカについての事業詳細は、仲野研究室へお問い合わせください。

＜寄稿：日本レクリエーション協会・
公認指導者養成機関チーム
OB小山亮二（平成13年健康福祉学科卒）＞

仙台大学と青海省体育科学研究所との日中共同研究



ラットの給餌の準備を行なう杜氏(前)と蘇氏



ラットの給餌の様子

青海省は標高2200mに位置し、中国における高地研究の拠点である青海省体育科学研究所があります。本学は酸素濃度を任意に設定して、人工的に低酸素環境にすることが可能な低酸素実験室を有しており、青海省体育科学研究所と連携した日中共同研究において、高地(低酸素環境)を一般人の健康に生かす為の研究を行っています。

本年度はその青海省体育科学研究所から留学生として、そせいせい とか蘇青青・杜霞両氏が本学大学院に入学しました。両氏は日中共同研究を目的として、本学の藤井久雄教授指導の下、低酸素室においてラットを飼育し、低酸素環境が生体に及ぼす影響について、特に青海省の位置する標高2200mだけではなく、それより高い標高3500mの複数の高度を設定した異なる濃度で研究しています。具体的には、蘇青青氏はラットの筋肉に着目し、異なる濃度の低酸素環境下で骨格筋線維タイプがどのように変化するかを明らかにします。杜霞氏はラットの血液性状に着目して、異なる濃度の低酸素環境下で、赤血球、ヘモグロビン等の酸素運搬に関わる成分がどのように変化するかを明らかにします。

現在は毎日午前中にラットの給餌、清掃、体重測定を行い、記録したデータを照らし合わせながら、正確な実験データを得られる様に努力するとともに、ラットの解剖、骨格筋、血液成分の分析、測定データの整理に奮闘中です。

今後は、日本での大学院生活の集大成として、修士論文を作成します。日中共同研究の成功、仙台大学と青海省体育科学研究所の友好の懸け橋として大いに期待されています。

<動物低酸素実験室内の設備>



ラット用トレッドミル(全体)



ラット用トレッドミル(真上)



動物低酸素制御システム



動物環境制御低酸素システム, Gas分析システム



ラットゲージ



動物低酸素実験室の制御室

平成25年「秋の叙勲」を佐伯洋昌元仙台大学教授が受章



写真提供：教職支援室・石川健先生

佐伯先生(前列中央)のご叙勲を喜ぶ教職支援室の皆さん
=仙台大学教職支援室

2013年秋の叙勲受章者が11月3日付けで発表され、佐伯洋昌元仙台大学教授が「瑞宝双光章」を受章しました。佐伯元仙台大学教授は、教育現場や行政に37年間携わられ、宮城県内の小学校・中学校の校長を歴任。宮城県中学校長会会長も務められました。退職後には、本学の教授として10年間、教員を目指す学生たちに指導されました。

<佐伯洋昌元仙台大学教授が朴澤学長へ出された手紙>

謹 啓

菊花の候 皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます
さて私こと

平成25年秋の叙勲に際し はからずも瑞宝双光章受章の榮に 浴
しましたところ 早速ご懇篤なるご祝意を頂戴いたしまして 誠
に有難く厚く御礼申し上げます

去る11月11日 国立劇場で勲記・勲章の伝達を受け 引き続き
皇居にて家内共々拝謁の榮を賜わることができました

これも偏に 長年に亘って皆様より頂きましたご指導ご厚情の
賜と深く感謝申し上げます

今後は一層精進し いささかなりともご芳情に報いたいと思
いますので ご指導を賜りますようお願い申し上げます

末筆ながら ご尊家様のご多幸とご健勝を祈念し御礼のご挨拶
とさせていただきます

あかとうごさうじ

敬 白

佐伯洋昌

平成25年11月吉日

女子サッカー部、皇后杯へ—2年ぶり2度目の本戦出場を決める



皇后杯への本戦出場を決めた仙台大学女子サッカー部
=仙台大学サッカー・ラグビー場

10月12日（土）～13日（日）の2日間、宮城県サッカー場で「第35回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会東北地域大会」が開催されました。

女子サッカーの日本一を決める皇后杯（全日本女子サッカー選手権大会）出場の東北第一代表は、常盤木学

園高校、第二代表はJFAアカデミー福島に決定しており、最後の東北第三代表をかけた一戦、仙台大学女子サッカー部は、3-2で聖和学園高校を破り、見事第三代表として、2年ぶり2度目の本戦出場への切符を手に入れました。

10月31日（木）に皇后杯の組合せ抽選が行なわれ、本学女子サッカー部は11月23日（土・祝）に早稲田大学との対戦（試合会場：テクノポート福井スタジアム（福井県坂井市）、試合開始予定時間：11時）が決まりました。

本学女子サッカー部の黒澤監督は、「早稲田大学は大学女子サッカー界の強豪校。相手にとって不足はない」と話し、「自陣に引いて守るのではなく、勇気を持ってボールを動かし、自分たちから攻撃を仕掛けていく。勝つための準備をしっかりとやりたい」と闘志を燃やしました。

男子サッカー部、東北地区大学サッカーリーグ全勝優勝—13年連続30回目の全国大会出場へ



西村が豪快にミドルシュートを決める
=宮城県サッカー場

11月2日（土）、宮城県サッカー場（利府町）で「第38回東北地区大学サッカーリーグ第9節（最終節）」が行なわれ、仙台大学男子サッカー部は、富士大学と対戦しました。

にしむらこうじ

仙台大学は、後半、FW西村光司（体育学科4年—ベガルタ仙台ユース出）が豪快にミドルシュートを決め、1-0（前半0-0、後半1-0）で富士大学を破り、貫録の全勝（9勝0敗）優勝を果たしました。これで、本学男子サッカー部は、13年連続30回目の全国大会（第62回全日本大学サッカー選手権大会）出場への切符を手に入れました。

富士大学戦では、男子サッカー部員全員が応援に駆け付け、大声援を送り、まさに、チーム一丸となって掴み取った「優勝」となりました。

本学男子サッカー部に吉井監督が就任してから、東北地区大学サッカーリーグで4年間負けなし。吉井監督は試合終了後、「手堅い試合運びで危なげなく勝つことができた。応援の力も大きかった。チームの一体感が感じられた」と話し、「全国大会では初戦を突破し、勢いに乗りたい。上位進出を目指す」と語りました。

全国大会は、12月14日（土）～味の素スタジアム西競技場（東京都調布市）等で開催される予定です。引き続き、仙台大学男子サッカー部への熱い応援を宜しくお願いします。

女子バスケットボール部、東北男女総合バスケットボール選手権 —5位決定戦でLEGENDS IWATE下す



後藤が難しいコースから3点シュートを決める
＝山形北高校体育館

11月9日(土)・10日(日)の2日間、山形県体育館や山形北高校体育館等で「東北男女総合バスケットボール選手権」が行なわれました。

初戦の対戦相手である青森中央学院大学(青森県第二代表)を94-70で下し、宮城県第一代表の本学女子バスケットボール部は、準々決勝に進出。準々決勝の対戦相手は、富士大学(岩手県第一代表)で、仙台大学は終盤追い上げを見せますが、67-79で敗れ、5位決定戦にまわりました。

5位決定戦初戦の対戦相手は、湯沢翔北高校(秋田県第一代表)で、仙台大学は終始リードし、69-56で勝利を収めました。5位決定戦決勝の対戦相手は、LEGENDS IWATE(岩手県第二代表)。仙台大学は序盤こそ相手に押される展開となりましたが、第2クォーターで逆転。

せやちひろ
瀬谷千尋(体育学科4年一福島・郡山東高校出)・
ごとうまりあ
後藤万里亜(体育学科4年一岩手・一関学院高校出)ら、今大会が大学生活最後の大会となる4年生の活躍で、81-64で勝利。5位で東北総合選手権を終えました。

同選手権終了後、本学女子バスケットボール部の菅野恵子コーチは、「富士大学戦では、相手の得点に直接つながるミスが多かった。基礎基本の見直しを図り、組織力及び競技力を強化していきたい」と今後の抱負を話しました。

女子サッカー部、皇后杯初戦敗退—関東の大学王者・早稲田大学に屈する



スピード感あふれるドリブルで攻め上がるMF越河(左)
＝テクノポート福井スタジアム

11月23日(土・祝)、テクノポート福井スタジアム(福井県坂井市)で「皇后杯第35回全日本女子サッカー選手権大会」1回戦が行なわれ、仙台大学女子サッカー部は、関東の大学王者・早稲田大学と対戦しました。

仙台大学は、序盤から早稲田大学のスピードとパワーに翻弄され、苦しい立ち上がりとなりました。前半10分にセットプレーから先制点を奪われ、0-1。その後も早稲田大学の攻撃が続きましたが、

えんどうほなみ

GK遠藤穂奈美(体育学科4年一宮城・東北高校出)が体を張って決定的なピンチを何度も凌ぎ、0-1で前半を折り返しました。

後半に入っても展開は変わらず、早稲田大学ペースで試合が進みました。後半開始2分に2点目・後半34分にオウンゴールで1点を追加され、0-3。仙台大

学は後半、ユニバーシアード日本代表のMF加賀孝子(スポーツ情報マスメディア学科2年一ジェフユナイ

かがこうこ
テッド千葉レディース出)が起点となり、MF越河なつみ(運動栄養学科1年一宮城・明成高校出)が鋭いドリブル突破から右クロスを上げるなどの形を作りました。しかし、得点を奪えず、最後まで粘り強くボールを追いかけた仙台大学イレブンでしたが、結果0-3で完敗を喫しました。

12月25日(水)～全日本大学女子サッカー選手権が兵庫県三木総合防災公園で行なわれ、仙台大学女子サッカー部(東北1位)は、1回戦で姫路獨協大学(関西3位)と対戦することが決まりました。1回戦に勝利すれば、シード校の早稲田大学(関東1位)との再戦になります。

リベンジに燃える、仙台大学女子サッカー部への熱い応援を宜しくお願い致します。

男子卓球部、「第19回はねっこアリーナ卓球大会」団体優勝 —中国からの留学生、劉俊希の活躍光る



練習に励む劉=仙台大学第一体育館



団体優勝を果たし、喜ぶ仙台大学男子卓球部の選手たち
=はねっこアリーナ大河原町総合体育館

10月13日（日）、はねっこアリーナ大河原町総合体育館で「第19回はねっこアリーナ卓球大会」が行なわれました。硬式男子の部では、本学男子卓球部が見事団体優勝を飾りました。

団体優勝の立役者となった中国からの留学生劉^{りゅうじゅん}俊希（大学院1年—瀋陽師範大学出）は、8歳から卓球をはじめた、元中国のプロ卓球選手。劉は予選から決勝までの7戦を全て勝利し、団体優勝に大きく貢献をしました。

劉は現在、本学卓球部に所属し、日々練習を重ねています。チームメイトである本学卓球部の根本拓斗^{ねもとたくと}（体育学科2年—茨城・下妻第一高校出）は、「劉さんの活躍なしに今回の団体優勝はなかったと思います。劉さんのお陰で、チームが一つにまとまっている手応えを感じました。劉さんの技術力やプロ意識は良い影響を与えてくれています」と話し、劉は「仙台大学卓球部の永田先生と馬先生の温かいご支援に感謝しています。今回の優勝は、部員たちが毎日コツコツと練習をしている努力の結果。みんなやる気はあるので、あとは経験を積むことが大切。東北学生卓球リーグの1部に昇格できるよう応援していきたいです」と謙虚に語りました。

競技力向上においても、国際交流の成果が表れています。

第59回宮城県ウェイトリフティング競技選手権大会、壹岐優が77kg級制す —松下康弘は94kg級2連覇を達成



練習に取り組む壹岐(前)と松下=仙台大学第三体育館

11月17日（日）に宮城県柴田高校で行なわれた「第59回宮城県ウェイトリフティング競技選手権大会」

^{いきまさる}で、本学ウェイトリフティング部コーチの壹岐優（大学院1年—金沢学院大卒—宮城・柴田高校出）がスナッチ93kg・ジャーク120kg・トータル213kgで、成年男子77kg級を制しました。

また、本学ウェイトリフティング部副主将の^{まつしたやすあき}松下康亮（現代武道学科3年—宮城・柴田高校出）がスナッチ95kg・ジャーク120kg・トータル215kgで、成年男子94kg級2連覇を達成しました。

壹岐は「自己ベストを更新できなかったことは残念だが、スナッチとジャーク合わせて6本全て成功できたことには満足している。大学院とウェイトリフティングとの両立の難しさを痛感している。練習時間を確保し、体力トレーニングと技術練習を効率よく組み入れていきたい」。松下は「高校時代に痛めていた、両ひざ半月板損傷による痛みが出てきて、思うように練習ができていない。この冬は、基礎体力を鍛えて、自己ベスト更新ができるように頑張りたい」とそれぞれ今後の抱負を力強く語りました。

なお、壹岐は来年2月に行なわれる全日本ウェイトリフティング連盟・米国遠征研修合宿（2月10日～3月4日）に、コーチとして帯同する予定です。

男子バレーボール部、「第66回全日本大学選手権大会」活躍誓う



練習でスパイクを放つ西村主将＝仙台大学第二体育館

バレーボールの第66回全日本大学選手権大会が12月3日（火）から始まります。大田区総合体育館（東京都）を主会場に123大学が出場。

本学男子バレーボール部は、予選リーグで大阪体育大学・平成国際大学と対戦。

今年の東日本インカレ（6月）では、チーム史上初となるベスト8に入り、チームの大きな自信となりました。

仙台大学男子バレーボール部は、セッターやまぐちたくや山口拓也（体育学科4年―青森・弘前工業高校出）を軸に、西村優輝にしむらゆうき主将（体育学科4年―青森・弘前工業高校出）と山岸良やまざしりょう（体育学科4年―青森・弘前工業高校出）のコンビプレイを駆使した攻撃が持ち味。さらに2年生エースの笹原丈寛ささはらたけひろ（体育学科2年―日大山形高校出）が、豪快なスパイクを放ち、得点を挙げていきます。

西村主将は「今年の仙台大学は、元気のあるチーム。初戦に勝って勢いに乗りたい。4年間の集大成となるような結果を残したい」と闘志を燃やし、大学生活最後の全日本大学選手権（インカレ）での活躍を誓いました。

仙台大学男子バレーボール部への熱い応援を宜しくお願い致します。

仙台大学 広報室



Monthly Report

第18回新体操演技発表会を開催—盛況裏に終了



仙台大学男女新体操競技部による最終演技＝仙台大学第五体育館

12月8日（日）、本学第五体育館で仙台大学男女新体操競技部主催の「第18回新体操演技発表会」が開催されました。

出演は、仙台大学男女新体操競技部・仙台大学新体操開放講座ジュニア新体操教室・仙台大学ブレイキン同好会に加え、大貫友梨亜選手(東京女子体育大学OG/2010第63回全日本選手権大会 個人総合優勝)・中津裕美選手(東京女子体育大学OG/2011第31回世界新体操選手権大会(フランス) 日本代表)・庄司七瀬選手(山形市役所/2005～2007インターハイ 個人総合3連覇)・三澤樹知選手(山形市役所/2010第62回全日本学生新体操選手権 個人総合優勝)にも賛助出演して頂き、発表会を盛り上げて頂きました。各選手たちはそれぞれの持ち味を十分に発揮し、見応えある演技で会場内を埋めた450名余を魅了しました。

最終演技が終わると、会場からは惜しめない拍手が送られ、第18回新体操演技発表会は盛況裏に終了しました。

その後、平成25年度「ジュニア新体操教室」の閉講式を終え、107名(男子9名を含む)の子どもたちが元気に帰途につきました。

仙台大学新体操開放講座ジュニア新体操教室を受講している女の子(3歳)は、「はじまる前の練習からお母さんと離れていたのが緊張したけれど、楽しかった」とはにかみながら話してくれ、お母さんは「大学生の皆さんが続けて演技を行っていて素晴らしいと思いました。大変な中、子どもたちの面倒も見てくださり、有難うございました」と感想を述べました。

※第18回新体操演技発表会の他の関連写真は2面に掲載。

< 目 次 >

第18回新体操演技発表会を開催—盛況裏に終了	1
平成25年度施設実習指導者研修会	2
健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション交流事業	3
平成25年度海外留学研修報告会	4
通信制教育『小学校教諭二種免許状』取得希望者説明会を開催	7
学生の競技結果等	8

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp



仙台大学開放講座ジュニア新体操教室(女子)①



仙台大学開放講座ジュニア新体操教室(女子)②



仙台大学開放講座ジュニア新体操教室(男子)



仙台大学女子新体操競技部①



仙台大学女子新体操競技部②



仙台大学男子新体操競技部



仙台大学ブレイキン同好会



庄司七瀬選手(左)・三澤樹知選手



大貫友梨亜選手(右)・中津裕美選手

平成25年度 施設実習指導者研修会



シンポジウムの様子=仙台大学講義棟B300教室

平成25年12月7日(土)の午前10時～午後4時まで、宮城県介養協「平成25年度第12回施設実習指導者研修会」が、仙台大学B300番教室で開催されました。

今回は仙台大学が研修担当主管校として研修運営を行いました。研修会には施設介護実習の担当指導者が41名、宮城県内の介護福祉士養成校教員39名、在学生18名、合計96名の参加があり、午前中に基調講演を龍谷大学短期大学部准教授の川崎昭博先生が、「介護福祉教育における施設の実習指導について」と題してご講演をされました。

講演の内容は、先生が2009年～2011年にかけて取り組んだ研究(平成21年～平成23年度科学研究費補助金

(基盤C))での調査報告を基に、介護福祉教育の実習で教育効果をあげるため、モデル実習として実践を行い、具体的連携の在り方や方法等を示すとともに、その際に生じる課題や問題点を明らかにしたものです。この基調講演を受け、施設実習指導者3名(白東苑:岡本雄輔氏、サニーホーム:伊藤亜衣氏、杏友園:吉川しのぶ氏)と先生との間で、具体的な介護実習の指導内容についてのシンポジウムが行われました。シンポジストの岡本雄輔さんは、健康福祉学科介護福祉士養成課程の7回生であり、現在特別養護老人ホーム第二白東苑の施設管理者としてご活躍中です。岡本さんはシンポジウムの中で、「介護実習における学生指導は学生自身に問題があるわけではなく、施設側の実習指導体制の問題であり、そこに焦点を当てて今後取り組む必要がある。」と施設指導者に熱く語られました。午後は指導者が6グループに分かれ、同テーマでグループワークが行われました。研修会の最後では研修担当校代表として朴澤学長にご挨拶を頂きました。今回の研修は、はじめて具体的な介護実習の指導内容に踏み込んだ研修会であり、今後も引き続き、より具体的な研修が期待される内容となりました。

<報告:健康福祉学科 准教授 庄子幸恵>

平成25年度 文部科学省委託事業 健全者と障害者のスポーツ・レクリエーション交流事業



シャッフルボードの様子＝仙台大学第一体育館



スカットボールの様子

12月8日(日)、仙台大学第一体育館で仙台大学と柴田町社会福祉協議会との共催、宮城県レクリエーション協会主催の「平成25年度文部科学省委託事業 健全者と障害者のスポーツ・レクリエーション交流事業」が開催されました。

同事業は、交流イベントに参加した人が、スポーツ・レクリエーションを創る（企画を考え、試して、楽しむ）ことを楽しみ、仲間との交流が生まれ「交流イベント」の参加を重ねるたびに、仲間が増えたり、役割を持ってイベントに参加したりするなど、参加者が主人公の「交流イベント」になることを目的としています。（「交流イベント」は3回開催）

当日は、仙台大学の仲野隆士体育学科長（宮城県レクリエーション協会副会長）と仙台大学の学生ボランティアにもご協力頂き、障がいのある人とない人がスポーツ・レクリエーション活動を共に楽しみ、交流することで仲間づくりへとつなげていくために、ニュースポーツ10種目（カローリング、ペタンク、バグゴ、シャッフルボード、ユニカール、ネットパストラリー、スカットボール、ディスクゲッター、ラダーゲッター、リングキャッチ）をバイキング形式で実施しました。参加者たちは、一緒にニュースポーツを体験され、特に楽しかった種目は何度も体験し、あっという間に時間が過ぎていきました。

次回は、平成26年1月31日(金)に柴田町社会福祉協議会で開催致します。

＜寄稿：柴田町社会福祉協議会
OB稲荷智康（平成12年体育学科卒）
OB八島裕晃（平成18年健康福祉学科卒）＞

南條先生「全日本柔道女子監督就任祝賀会」



左から南條和恵監督(仙台大学女子柔道部)、OG五味奈津実選手、OG田中美衣選手、南條充寿全日本女子柔道監督(仙台大学柔道部総監督)＝サンシャイン青葉

12月14日(土)、サンシャイン青葉(柴田町船岡)で、柴田町柔道協会主催の「南條先生全日本柔道女子監督就任祝賀会」が開催され、宮城県内の柔道関係者

や本学関係者等約50名が集まり、本学南條充寿准教授の全日本女子柔道監督就任をお祝いしました。

祝賀会冒頭、南條先生に対し「仙台大学柔道部を強くした。仙台大学柔道塾は、地域に新しい文化と活力を与えてくれた。和恵監督の素晴らしい支えがある」（柴田町柔道協会 西條敏剛会長）「宮城県の誇りである。身体に留意され、これからも頑張ってもらいたい」（宮城県柔道連盟 佐藤幸二会長）「激務の仕事をごなしながら、学生の指導もしている。リオ・東京五輪に向けて頑張ってもらいたい」（仙台大学 朴澤泰治学長）「日本の女子柔道界に新しい風を吹き込んでほしい。活躍を期待しています」（柴田町 滝口茂町長）と主催者と来賓の方々から激励の言葉を頂きました。続いて、南條全日本柔道女子監督から関係各位へ感謝の言葉が述べられ、終始和やかな雰囲気の中で祝賀会が行なわれました。

なお、OG田中美衣選手(了徳寺学園職/平成22年体育学科卒)とOG五味奈津実選手(JR東日本/平成25年体育学科卒)もお祝いに駆けつけました。

平成25年度 海外留学研修報告会—4つの海外留学について学生が報告



挨拶する阿部芳吉副学長＝仙台大学第五体育館2階大会議室

12月11日（水）本学第5体育館2階大会議室において、学生たちによる「平成25年度海外留学研修報告会」が開催され、阿部芳吉副学長はじめ教職員・学生が多数参加しました。

【報告③】カヤニ応用科学大学協定校短期交換留学プログラム

日程：平成25年8月28日～9月28日

参加学生：岩佐めぐみさん(体育学科3年)

岩佐さんは初めに、1か月間の留学の成果として、自己紹介と研修概要を英語で報告しました。岩佐さんは、「あらゆる国の方とコミュニケーションをとれるようになりたい」という強い思いから、今回の研修に参加したと話しました。出発する前は、初めての海外や自分の英語力の乏しさに不安でいっぱいだったようですが、カヤニに着いてからはホストファミリーの方や現地の大学生・留学生の優しさに感動し、自分の気持ちを伝えるために積極的に授業に参加することができた



たと報告しました。という強い思いから、今回の研修に参加したと話しました。出発する前は、初めての海外や自分の英語力の乏しさに不安でいっぱいだったようですが、カヤニに着いてからはホストファミリーの方や現地の大学生・留学生の優しさに感動し、自分の気持ちを伝えるために積極的に授業に参加することができた

【報告④】ハワイ大学アスレティックトレーナー研修アドバンスコース

日程：平成25年8月25日～9月1日

参加学生：

山崎可奈子さん(体育学科4年)・佐藤瑞季さん(体育学科2年)・三上千晶さん(体育学科2年)・田中里沙さん(体育学科2年)・鈴木多恵子さん(体育学科2年)・青木梨恵さん(体育学科2年)・森山翔太さん(体育学科3年)・遠皓樹藤さん(体育学科3年)・石橋広育さん(体育学科3年)・野澤翔平さん(体育学科2年)・外崎智海さん(体育学科2年)

今回アドバンスコースの研修に参加した11名の学生は、ハワイ大学の施設見学・授業参加、献体解剖や現地で活動しているトレーナーの方との交流等、非常に実践的な研修を受けました。献体解剖では、現地の大学院生の方が、実際に骨や筋肉を解剖する様子を見学でき、とても勉強になったそうです。また現地の授業は、学生は事前に授業内容をデータでダウンロードし、予習済みの状態から展開されるので、積極的に質問が飛び交っており、自分たちも見習って、今後のトレーナー活動に繋げていきたいと報告しました。



<報告：新体操競技部監督 新助手 河野未来>

【報告①】柔道イタリア研修

日程：平成25年7月17日～8月1日

参加学生：薬師神桃子さん(現代武道学科3年)

今回で3回目のイタリア研修を経験した薬師神さんは、被災地で柔道に取り組んでいる優秀な選手として、日本を代表して研修に参加しました。合宿では、現地の柔道愛好家の方や海外からの練習生、そして谷本歩実さん(アテネオリンピック・北京オリンピック柔道女子63kg級金メダリスト)・育実さん(元柔道選手)姉妹など多くの方との交流があり、とても有意義な研修だったと報告しました。薬師神さんは「必ず来年も研修に行き、また自分の成長した姿を見て頂きたい」と話しました。



【報告②】新体操競技部ベラルーシ研修

日程：平成25年6月16日～6月23日

参加学生：相馬京香さん(体育学科3年)・稲垣文李さん(体育学科3年)・鈴木のぞみさん(体育学科3年)・桑原玲美さん(体育学科2年)・古積亜矢子さん(体育学科2年)・杉木優衣さん(体育学科1年)・佐々木美優さん(運動栄養学科1年)

新体操競技部の7名の学生は、本学新体操競技部のエレナコーチの地元であり、新体操先進国であるベラルーシ共和国・ミンスク市での5日間の研修を報告しました。滞在期間中のほとんどの時間は、大学やジュニアクラブで練習に取り組み、とても大きな刺激を受けたそうです。練習後に、日本の文化について話したり、折り紙で鶴を教えてあげたり、ミンスクの大学生は非常に日本に興味を持っていたようでした。また、市内研修では、バレエやサーカス、美術館を巡り、美しいものに触れる機会が多くあり、とても感動した様子でした。



OB色川冬馬さんがイラン野球連盟代表監督(U-18/15/12)に就任

12月13日(金)、米国独立リーグなどで活躍したOB

いろかわとうま

色川冬馬さん(平成25年スポーツ情報マスメディア学科卒一宮城・聖和学園高校出)が恩師の阿部篤志講師と共に、2014年4月～イラン野球連盟代表監督(U-18/15/12)に就任予定報告として学長室を訪れました。

色川さんは「イラン野球の普及・発展のために貢献したい」などと抱負を語りました。

イラン野球の普及・発展のために貢献したい

学長室を訪れた色川さんに、イラン野球連盟代表監督(U-18/15/12)に就任することになった経緯や今後の抱負などを聞きました。

Q1.イラン野球連盟代表監督就任のきっかけは—

2013年7月までメキシコのリーグでプレーしていました。8月中旬に日本に帰国し、地元の少年野球チームを教えていたところ、知人からイラン野球の普及・発展のためにイランへ行って見ないかと誘われました。悩みましたが、覚悟を決めました。現地入りしてからは、ベースボールクリニックを行ったり、小学校を訪問したりして野球の普及に尽力しました。国際野球の支援をしている団体からイランで野球の代表監督を公募しているという情報を頂き、応募した結果、運よく選ばれ、イラン野球連盟よりイラン野球連盟代表監督(U-18/15/12)に任命されました。野球競技が2020年東京五輪で復活する可能性があり、同五輪出場を目標に、若い世代を代表チームまで育て上げ、東京五輪出場へ導いてもらいたいと頼まれました。

イランのキーシチュアイランドスポーツ連盟代表から記念品を受け取り、握手を交わす色川さん



Q2.イランでの苦勞は—

イランで野球を普及させるためには、まず野球道具が必要になります。しかし、イランでは野球道具を買える場所はありません。野球選手が道具を買えないことが一番の苦勞。もし、使わなくなった野球道具があれば、譲って頂ければ大変有難いです。

言語はペルシャ語ですが、通訳を介して英語でコミュニケーションを図っています。

Q3.理想の監督像は—

ベニー・カスティージャ氏(2000年に最高監督賞を受賞し、2003年にはフロリダ・マーリンズ(シングルA)を率いてワールドチャンピオンに導いた名将)の生きる凄まじさに共感しています。あらゆる人種を一つにまとめ上げ、文化を尊重し、多人数種多言語の中で強いチームを作り上げてきたカスティージャ氏から学び、私も良いチームを作り上げたいです。

Q4.今後の抱負は—

イランは西アジアに属しています。イラン人は、ホスピタリティー溢れる魅力ある人たち。野球を通してイランの人々を知ってもらい、イランと世界を結ぶ架け橋になりたいです。



イランの子どもたちと共に(中央白いTシャツ:色川さん)

PROFILE

色川 冬馬(いろかわ とうま) / イラン野球連盟代表監督(U-18/15/12)



1990年1月2日生まれ。宮城県仙台市出身。

宮城・聖和学園高校に入学。仙台大学体育学部スポーツ情報マスメディア学科卒業。仙台大学硬式野球部は1年時に退部。2010年大学を1年間休学して、米大リーグ入りを目指してカリフォルニア州で行なわれたサマーリーグに参加したが、大リーグへの挑戦は叶わなかった。大学卒業後は、米国独立リーグやプエルトリコ・メキシコでプレー。2014年4月～イラン野球連盟と正式にイラン代表監督契約を締結。イラン野球代表監督として、国際的な架け橋になることを誓う。

2013年4月～3月までの毎週木曜日23:30～FM太白ラジオ(78.9Hz)の「冬馬とベースボール」に出演中。

大和町立鶴巣小学校で ニュースポーツ指導「スポーツテンカ」



12月12日（木）大和町立鶴巣小学校において、昼休みの時間を利用してニュースポーツ指導が行われました。これは大和町より健康増進事業の一環として本学のスポーツ健康科学研究実践機構に依頼があったもので、仲野教授と同ゼミ所属3年生（スポーツマネジメントコース）の学生18名が中心となり、現在月1回定期的に指導を行っています。学生たちは僅かな時間で子どもたちと良好な関係を築き、ごく自然に接していました。この点は本学学生の素晴らしい一面に違いありません。

同小学校の通学路には幹線道路が多いため、登下校時の安全確保から児童の7割以上が自家用車で送迎されている環境にあり、児童の運動不足に伴う体力低下が懸念されています。

これまで鶴巣小学校への運動指導は3回実施しており、経験したことが無いニュースポーツや運動遊びという楽しい身体活動を通じて、自発的な運動習慣が定着していくよう働きかけをしています。

仙台大学のバスが到着すると、子供たちが窓から手を振り出迎えてくれました。全校生徒約100名が校庭に集合し、準備体操の後各学年に分かれて「スポーツテンカ」を実施しました。これは、日本レクリエーション協会と吉本興業、そして仙台大学が共同開発したニュースポーツです。スポーツテンカの専用ボールは、突き指をしにくい利点がありどの学年の子どもたちも恐がらずボールを受け取ることができます。ポイント制のルールで勝負が決まる「スポーツテンカ」。1対1で難しいキャッチが決まると、誇らしげな表情を見せたり、順番待ちで並んだ子どもたちからも歓声があがっていました。

児童の運動習慣の定着には学校側の協力も不可欠ということで、鶴巣小学校の体育主任の先生にお願いし、休み時間も自由に使えるようボールを常時設置し声掛けして頂いているということです。

今後も継続的にニュースポーツを中心に様々な運動指導を行い、運動の楽しさや身体を動かす心地よさなどを子どもたちに伝えていく予定です。



鶴巣小学校昇降口前には学生紹介コーナー



年齢に適したボールの大きさを測定



いしばしゆきの

石橋雪乃さん

(体育学科マネジメントコース3年—岩手・大船渡高校出)写真左

4年生を担当しています。これまで3回継続的に指導を行ってきましたが、回数を重ねるごとにぐんと上達していると感じます。子どもたちともだんだん親しくなり、名前を覚えてくれて「モコ先生」と呼んでもらえるのがとても嬉しいです。

いしかわみか

石川美香さん

(体育学科マネジメントコース3年—宮城・聖和学園高校出)写真右

スポーツテンカのポイント加点のために、子どもたちはいろいろなキャッチに挑戦しています。小学校の先生方も意欲的にルールを覚えてくださろうとしていて熱意がとても伝わるので、今後も継続して参加して行きたいと思います。

台東大学訪問



12月3日(火)から5日(木)にかけて、朴澤学長とともに台湾・台東大学を訪問しました。

今回の訪問の主な目的は、毎年相互に留学生を派遣している台東大学との協力関係の確認と情報交換、および、現在台東大学へ留学中の体育学科3年佐々木芽衣の生活状況の確認でした。

また、明成高校普通科情報表現コースの3年生の修学旅行も同日程で台東大学及び台東大学付属高校を訪問しており、その行程にも一部同行することができました。

最初に訪問した台東大学付属高校では明成高校の生徒が付属高校で行われている授業体験や歌などを通じて交流していました。約1時間という短時間でしたがさすがに同年代、言語こそ違えども楽しそうな雰囲気でも打ち解けている姿は非常に印象的でした。

台東大学では「熱烈歓迎」を受けた後に、懇談会が開催されました。その折、台東大学の劉金源学長、朴澤泰治学長がそれぞれ挨拶を述べられ、特に劉学長からは、本学へ留学している学生に対する手厚い対応について感謝の言葉を頂きました。

また、同席した佐々木芽衣さんからは中国語による自己紹介のほか、劉学長からの質問に中国語で答えている場面もあるなど、語学も身に付けながら、充実した留学生活を送っていることが伺え安堵しました。

更に、今年8月まで本学に留学していた現地の学生の紹介場面では、それぞれが「日本での生活は大変充実していた」「もう一度仙台大学へ行きたい」などの感想を述べていました。

本学と台東大学とは平成15年に協定を締結して以来、毎年盛んに国際交流が行われております。今後ますますその関係が深まっていくことでしょう。

今回の訪問にあたり、梁忠銘先生（台東大学教授）には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

<報告：事業戦略室 石森靖明>

通信制教育『小学校教諭二種免許状』取得希望者説明会を開催



通信制教育の学習の進め方や心構えについて説明する
渡邊宣隆教職支援センター長＝仙台大学講義棟B204教室

12月20日(金)、仙台大学講義棟B204教室で「通信制教育『小学校教諭二種免許状』取得希望者説明会」が開催され、中等教職課程（保健体育）を履修している1年生及び2年生約50名が参加しました。

参加学生たちは、通信制教育の学習の進め方や心構えについての説明に聞き入り、熱心にメモを取っている姿も見られました。

参加学生たちに対し「目先のことを考えず、チャレンジしよう」（渡邊一郎事業戦略室長）、「覚悟がないと続かない。厳しさを乗り越えられる強い意志が必要」（渡邊宣隆教職支援センター長）、「努力。そして時間をかけてほしい。一生懸命努力する人を応援したい」（渡邊康男教授）、「大事なことは、君たち自身が勉強が好きかどうかを自問自答することだ。小学校の現場では体育のできる先生を求めている」（久能和夫教授）と話されました。

平成18年度から明星大学通信教育部との教育業務提携により、小学校教諭二種免許状の取得が可能となっております。本学では小学校教員採用試験において、毎年現役合格者を輩出するなど実績をあげています。

<同窓生関連情報>

S.U.N.の恒例企画「OBからのメッセージ」でご登場(第13号)頂きました、専修大学教授兼同大スポーツ研究所所長のOB佐藤雅幸さん(S53年体育学科卒)の次男・文平さんがプロ転向から6年目で「全日本テニス選手権男子ダブルスで優勝」を果たしました。

文平さんは、現在、トヨタチャレンジャーに参戦しています。佐藤雅幸・文平親子に、ぜひご注目ください。写真は家族での集合写真です。左端が母・OGかほるさん(S55年体育学科卒)、中央が文平さん、右から2番目が父・OB雅幸さん。



男子バレーボール部、悲願の全国ベスト8入りならず

第66回全日本バレーボール大学選手権大会が12月3日（火）から大田区総合体育館（東京都）を主会場として始まり、仙台大学男子バレーボール部は、予選リーグで平成国際大学と大阪体育大学をそれぞれセットカウント2-0のストレートで下し、見事1位通過で決勝トーナメントへとコマを進めました。決勝トーナメント2回戦からの登場となった仙台大学は、愛知大学と対戦。第一セットを20-25で落とす苦しい展開となりなりましたが、第二(25-16)・第三(25-17)セットを連取し、逆転勝ちを収めました。3回戦は中京大学と対戦し、二セット連取(25-20、25-18)のストレートで破り、ベスト16入りを果たしました。

12月6日（金）、大田区総合体育館で4回戦が行なわれ、仙台大学はベスト8をかけて関東の強豪・法政大学と対戦しました。仙台大学は、2セットを先取(25-19、25-19)したものの、3セット目以降の3セット(17-25、23-25、12-15)を奪われ、逆転負けを喫し、ベスト8入りを逃しました。

しかし、東北大学リーグ初のベスト16入り（シード権獲得）を果たし、特に法政大学戦では白熱した好試合が展開され、その健闘ぶりは次の大会へ繋がる成果を感じさせました。

引き続き、仙台大学男子バレーボール部への熱い応援を宜しくお願い致します。

男子ハンドボール部、東北総合ハンドボール選手権宮城県予選会「第三位」一東北大会出場決める



芳賀(4)が豪快なシュートを決める=仙台大学第二体育館

12月7日（土）、仙台大学第二体育館で「第50回東北総合ハンドボール宮城県予選会」の三位決定戦が行なわれ、本学男子ハンドボール部は、クラブチームの独眼竜と対戦しました。

仙台大学は序盤、苦しい時間帯もありましたが、GK

ごうこかずひろ
郷古和寛（体育学科1年一宮城・聖和学園高校出）が好セーブを連発し、流れを徐々に取り戻しました。エース

たかはしかずき
高橋和希（体育学科1年一北海道・函館工業高校出）の

たにぐちこうすけ
ミドルシュートや谷口航輔（体育学科1年一福島工業高校出）
はがほしや
・芳賀誉士弥（体育学科1年一宮城・聖和学園高校出）の連打でリズムに乗り16-13と3点リードで前半を折り返しました。

仙台大学は、後半さらに得点を重ね、33-21で快勝。3位を勝ち取り、東北大会出場の切符を手に入れました。

本学ハンドボール部の桑原康平監督は、「相手が走らなくなったときに、速攻が上手く決まったことは評価できる。速攻練習の成果が出た」と話し、1年生主体のチームの成長に手ごたえを感じていました。

男子ハンドボール部、宮城県学生ハンドボール選手権 準優勝



高橋和希(5)（体育学科1年一北海道・函館工業高校出）がGKのタイミングを外してループシュートを決める=仙台大学第二体育館

12月8日（土）、仙台大学第二体育館で「宮城県学生ハンドボール選手権」の準決勝・決勝が行なわれ、本学男子ハンドボール部は、準決勝で東北工業大学に42-29で大勝し、決勝で東北福祉大学と対戦しました。

決勝前半は、互いに点を取り合う一進一退の攻防が繰り返され、12-14と2点ビハインドで折り返しました。

後半、疲れの見え始めた仙台大学は、徐々に点差を広げられ、23-32で試合終了。

惜しくも優勝を逃しましたが、今年の仙台大学男子ハンドボール部は、1年生主体のチーム。今後の活躍が期待されます。引き続き、本学男子ハンドボール部への温かい声援を宜しくお願い致します。

男子サッカー部、インカレ初戦で敗退



試合前の仙台大学男子サッカー部イレブンとエスコートキッズ



前半、FW西村(11)がゴール前で直接フリーキックを放つ
=Shonan BMW スタジアム平塚

12月15日(日)、Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川県平塚市)で「第62回全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)」1回戦が行なわれ、本学男子サッカー部は中京大学と対戦しました。

前半立ち上がり仙台大学は、中盤でボールをつなぎますが中央を固める中京大学守備陣を前に、ペナルティーエリア内に進入できず。前半

にしむらこうじ
20分頃にはFW西村光司(体育学科4年-ベガルタ仙台ユース出)がゴール前で直接フリーキックを放ちますが、惜しくも相手GKにセーブされました。前半40分頃、カウンターから相手に決められ、0-1で前半が終了しました。

早く同点に追いつきたい仙台大学は、後半、

にしやゆうき
ボールを動かせるMF西谷優希(体育学科2年-茨城・鹿島学園高校出)を投入し、攻撃のチャンスを作りました。後半10分過ぎ、西村が相手DFをかわし、強烈なミドルシュートを放ちましたが、惜しくもクロスバーを叩きゴールはなりま

みねぎしひかる
せんでした。また、後半途中出場のMF嶺岸光(体育学科4年-宮城・聖和学園高校出)がドリブルで持ち込み、ペナルティーエリア内でシュートを放ちますが、相手GKの好セーブに阻まれ、得点に至りませんでした。

仙台大学はミスから相手に追加点を許し、後半終了間際にはPKを与え0-3で敗れました。

全国で勝つことの厳しさを痛感した仙台大学イレブン。次年度に向け、チーム一丸となって前進して参ります。

ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の黒岩俊喜ーソチ冬季五輪を目指す



ソチ冬季五輪に向け、練習に汗を流す黒岩
=仙台大学ボブスレー・リュージュ・スケルトン人工練習場

12月18日(水)、ソチ冬季五輪を目指す本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の黒岩俊喜(運動栄養学科2年-神奈川・橘高校出)がワールドカップ

(W杯)レークプラシッド大会を終えて一時帰国し、テレビ・新聞各社からの取材を受けました。

今シーズンのボブスレー日本代表チーム4人乗りの主な戦績は、ノースアメリカンカップ第6戦(12/5)2位、ワールドカップ最終日(12/16)19位が最高成績。現在、黒岩は4人乗りのセカンドマンを務めています。セカンドマンは、そりを加速させるためのパワーと脚力が必要とされるポジション。

取材陣に対し黒岩は「自分の長所はスタートダッシュ。さらに磨きをかけ、日本チームがソチ冬季五輪の出場権を獲得できるように貢献したい。五輪に出場して、今までお世話になった人たちに恩返しをしたい」と語りました。

また、12月22日(日)に行なわれた全日本ボブスレー選手権男子二人乗りで3位に入りました。

年明けの吉報に期待が高まります。

OG小室希選手(仙台大職)が5連覇—全日本スケルトン選手権



小室選手の気迫のスタートダッシュ＝長野スパイラル

12月22日（日）、長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）で2013／2014 全日本スケルトン選手

こむろのぞみ

権が行われ、OG小室希選手（仙台大職／H22年仙台大学大学院修了—H19年体育学科卒—宮城・白石女子高校出）が2回の合計タイム1分52秒15で大会を制して、堂々の大会5連覇（優勝は6回目）を達成しました。

小室選手は大会終了後「ソリとの一体感が少ない。集中力の高め方に満足していない」と課題を挙げ、「心技体をもっと高めて、課題を一つひとつ解決していくことがソチ冬季五輪につながる。ソチを目指していきたい」と力強く今後の抱負を語りました。

ソチ冬季五輪を目指す、小室希選手への温かいご声援を宜しくお願い致します。





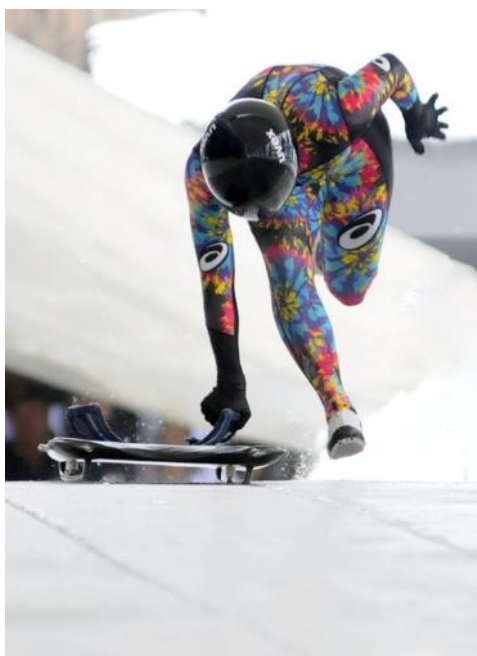
仙台大学 広報室

Monthly Report

ボブスレーの黒岩俊喜選手(運動栄養学科2年)がソチ冬季五輪出場決定—スケルトンのOG小室希選手(仙台大職)も2大会連続出場を決める



ボブスレーの黒岩俊喜選手



スケルトンの小室希選手

1月18日(土)、本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の黒岩俊喜選手(運動栄養学科2年—神奈川・橘高校出)が、2月7日に開幕されるソチ冬季五輪ボブスレー日本代表のブレイカー(押し役)に決定しました。

また、1月20日(月)、全日本スケルトン選手権で5連覇を達成したOG小室希選手(仙台大職/平成23年仙台大学大学院修了—平成20年体育学科卒—宮城・白石女子高校出)が2大会連続で冬季五輪出場を決め、スケルトンのOB笹原友希選手(システックス/平成19年運動栄養学科卒—秋田中央高校出)も見事初出場を決めました。

本学関係者では他に、ボブスレーのOB鈴木寛選手(北野建設/平成8年体育学科卒—北海道・室蘭大谷高校出)がパイロットとして、5度目の冬季五輪出場。スケルトンのOB高橋弘篤選手(システックス/平成19年体育学科卒—宮城・富谷高校出)が初選出で冬季五輪出場を既に決めていました。

ソチ冬季五輪での本学関係者5名への熱い応援を宜しくお願い致します。

※仙台大学関係者ソチ冬季五輪出場選手及び役員の紹介は2面に掲載。

< 目 次 >

ソチ冬季五輪に本学関係者5名が決定	1
仙台大学「管理栄養士合格修練会」	5
東北楽天ゴールデンイーグルスの新人選手が本学で体力測定を実施	5
河北文化賞受章—本学OB「車いすバスケットボール宮城MAX」の岩佐義明監督が来訪	6
仙台大学の先端機器を駆使した研究最前線—シリーズ(1)~(3)	8
学生の競技結果等	11

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

仙台大学関係者 ソチ冬季五輪出場選手及び役員の紹介

ボブスレー



黒岩 俊喜 Toshiki Kuroiwa ※五輪初出場

仙台大学体育学部運動栄養学科2年
生年月日:1993年8月31日(20歳) 出身地:神奈川県

- ・ノースアメリカズカップ最終日(第8戦) ボブスレー4人乗り 優勝
- ・2013年ワールドカップ第3戦 ボブスレー4人乗り 19位

ボブスレー



鈴木 寛 Hiroshi Suzuki ※5度目の五輪出場

北野建設(株)／平成8年仙台大学卒
生年月日:1973年12月13日(40歳) 出身地:北海道

- ・ノースアメリカズカップ最終日(第8戦) ボブスレー4人乗り 優勝
- ・2013年ワールドカップ第3戦 ボブスレー4人乗り 19位
- ・全日本ボブスレー選手権 ボブスレー2人乗り 12連覇

スケルトン

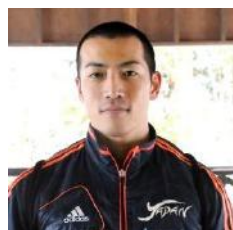


小室 希 Nozomi Komuro ※2大会連続五輪出場

仙台大学職員／平成23年仙台大学大学院修了—平成20年仙台大学卒
—宮城県白石女子高校出
生年月日:1985年5月29日(28歳) 出身地:宮城県村田町

- ・2010年バンクーバー冬季五輪日本代表
- ・全日本スケルトン選手権 5連覇

スケルトン



高橋 弘篤 Hiroatsu Takahashi ※五輪初出場

(株)システックス／平成19年仙台大学卒—宮城県富谷高校出
生年月日:1984年4月13日(29歳) 出身地:宮城県富谷町

- ・2014年1月3日、ドイツのウインターベルク大会(W杯第4戦)では自己記録を更新する 8位

スケルトン



笹原 友希 Yuki Sasahara ※五輪初出場

(株)システックス／平成19年仙台大学卒
生年月日:1984年4月11日(29歳) 出身地:秋田県

- ・2014年1月27日、ドイツのケーニヒスゼー大会(W杯第8戦)では自己ベストを更新する 9位

【役員】

- 鈴木省三(ボブスレー・リュージュ・スケルトンチームリーダー／仙台大学教授・
仙台大学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部監督／昭和60年仙台大学卒)
- 越 和宏(男子スケルトン監督／(株)システックス／昭和63年仙台大学卒)
- 野澤悠樹(女子スケルトンコーチ／山形県警／平成11年仙台大学卒)

ソチ冬季五輪共同記者会見及び壮行会を開催— 黒岩選手と小室選手がソチでの健闘を誓う



共同記者会見で両手を力強く握り合わせる（左から）朴澤学長、黒岩選手、小室選手、鈴木教授＝仙台大学



大歓声の中迎えられた壮行会
＝写真提供：河北新報船岡販売所(有)オアシス



三浦秀一宮城県副知事（中央）表敬訪問の様子（右端：宮城県ボブスレー・リュージュ連盟の鈴木孝夫理事長）＝宮城県庁

1月30日（木）、本学で、ソチ冬季五輪ボブス

レー日本代表の黒岩俊喜選手（運動栄養学科2年一神奈川・橋高校出）と同スケルトン日本代表のOGくろいわとしき小室希選手（仙台大職／H22年仙台大学大学院修了－H19年体育学科卒－宮城・白石女子高校出）の共同記者会見及び壮行会が行われました。

共同記者会見には、仙台大学の朴澤泰治学長とソチ冬季五輪ボブスレー・リュージュ・スケルトンのチームリーダーとして帯同する、本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部監督の鈴木省三教授も同席。報道関係者14社が来訪下さいました。

五輪初出場の黒岩選手は「日本チームのボブスレー4人乗りは、長野五輪の時の15位が最高順位。それを越えること、1ケタ入賞することが目標」と力強く語り、一方、2大会連続出場の小室選手は「今まで支えて下さった方々に私の姿を見て頂き、滑り切ることが最大の恩返し。自分の力を最大限発揮して、最高の滑りがしたい」と内なる闘志を燃やしました。

共同記者会見終了後は、オリンピックで戦う黒岩・小室両選手を励ますために、引き続き壮行会を開催。来賓として、現在、黒岩選手が在住する柴田町の滝口茂町長、小室選手の出身地である村田町の佐藤英雄町長、宮城県ボブスレー・リュージュ連盟の大沼迪義会長らも激励に駆け付けて下さり、集まった約300名余りの学生たちと共に熱いエールが送られました。

壮行会終了後、黒岩・小室両選手は宮城県庁を訪れ、三浦秀一副知事に、被災地からソチ冬季五輪に出場する強い思いを伝えました。

黒岩選手と鈴木教授は1月31日（金）、ボブスレーチームらと共に成田を出発し、2月1日（土）にソチ入り。小室選手は2月2日（日）にスケルトンチームと成田を出発、2月3日（月）にソチ入りします。

なお、ソチ冬季五輪の女子スケルトンは2月13日（木）・14日（金）、男子ボブスレー4人乗りは2月23日（日）に行われます。黒岩・小室両選手の活躍にぜひご注目下さい。

ソチ冬季五輪共同記者会見及び壮行会の模様【動画】（4分10秒）が本学ホームページでご覧頂けます。

※動画制作：スポーツ情報マスメディア学科
映像アカデミー参加学生

来春仙台大学大学院生になる留学生のための (一財)東北多文化アカデミー主催による日本語教室卒業式



卒業式に参加した方々と卒業生

昨年10月1日（水）に（一財）東北多文化アカデミーに入学した来年度本学大学院生になる留学生が年の瀬も近づく12月26日（金）に卒業式を迎えました。卒業式には朴澤学長も参席し、留学生の成長を温かく見守る形で式が進められました。入学前とは違った、落ち着いた表情で留学生たちはそれぞれが成長したことを感じる内容でした。

（一財）東北多文化アカデミーにおいて3か月間行ってきた日本語の勉強の成果を発表する機会でもあり、留学生たちは緊張した面持ちでした。しかし、いざとなると堂々とした発表をし、今後の活躍が期待できるものでした。発表では、以前よりもすらすらと日本語を話している姿を見て、個々に努力してきた姿が目に見えます。今後の予定としては、春の入学式まで本学内で日本語の能力を更にレベルアップとともに、身に着けた日本語を今後の大学生活に活かしてもらいたいと願うものです。

<報告：学生支援室 石栗はるか>



修了証書と共に

避難訓練を実施しました



仕事納めである12月27日（金）柴田町消防署の協力の下、消防訓練を実施しました。今回の訓練は学生食堂から火の手が上がったという想定で、約70人の教職員が参加しました。

実際に119番への通報後、本番さながらに火災消火班や避難誘導班、情報連絡班がそれぞれの持ち場である火元や守衛室に駆けつけ、その他の教職員は速やかに噴水前に避難しました。消火する際に大事なポイントは、最初に自分の逃げ道を確保することだそうです。消防設備の保守を依頼しているホーチキの支援をいただき、消火器と消火設備取扱いの説明がなされ、火災消火班数名が放水を体験しました。

最後に消防署員から通報する際の注意点などをお聞きして終了となりました。

火災を起こさないことが1番ですけれど、万が一起きてしまった際に初期消火の徹底と迅速な避難誘導をするためには、日ごろからこういった訓練を積み重ね、いざという時に慌てない心構えが求められます。

仙台大学「管理栄養士合格修練会」 —第5回国家試験直前対策合宿講座を開催



合格を誓う管理栄養士合格修練会＝仙台大学F303教室
左から西川・堀江の各新助手、早川准教授、真木・佐藤・千葉の各新助手

1月12日（日）～13日（月・祝）の1泊2日、本学35記念館F303教室で、管理栄養士合格修練会主催＜主管：早川公康准教授、塾長兼事務局長：真木瑛新助手（企画・運営・実施をサポート）＞による「第5回国家試験直前対策合宿講座」が開催され、3月の受験直前の総仕上げが行なわれました。管理栄養士合格修練会は、管理栄養士国家試験合格を目指す本学卒業生の学習を支援する会です。

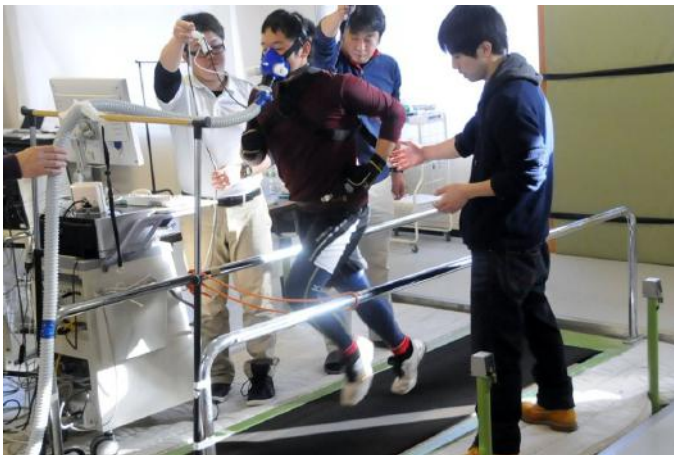
今回は、本学運動栄養学科卒の本学新助手4名が参加し、念願の管理栄養士国家資格合格を目指し、深夜に及ぶ必死の猛勉強を行ないました。

「自分にとって最後のチャンスだと肝に銘じて頑張りたい」（堀江知世新助手）、「3度目はないと思っている。最後まで諦めない気持ちで頑張りたい」（佐藤幸子新助手）、「試験終了の一秒まで粘り強く取組み、絶対合格を勝ち取りたい」（西川里美新助手）、「精一杯自分の力を出し切ったと思えるところまで準備を行ないたい」（千葉慎太郎新助手）とそれぞれ試験に向けての意気込みを語りました。

同会第5代塾長兼事務局長の真木新助手は、自分自身の合格経験を振り返りながら「勝負の残り2か月。これまでやってきたことを確実に得点につなげてほしい。4名全員の合格を祈っています」と話し、同会主管の早川准教授は「運動栄養学科にとって頼もしい4名です。自分らしく最後まで頑張ってもらい、晴れて栄冠を手にしてほしいと思います」とエールを送りました。

なお、本年度の管理栄養士国家試験は3月23日（日）、合格発表は5月9日（金）に行われる予定です。

東北楽天ゴールデンイーグルスの新人選手が本学で体力測定を実施



最大酸素摂取量を測定する松井裕樹投手
＝仙台大学スポーツ生理学実験室

1月15日（水）、昨年10月のドラフト会議を経て、プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスの2014年度入団新人となった9選手（松井裕樹投手・内田靖人捕手・濱矢広大投手・古川侑利投手・西宮悠介投手・横山貴明投手・相原和友投手・相沢晋投手・今野龍太投手）が本学を訪れ、身長・体重、体脂肪の基礎測定及び最大酸素摂取量（全身持久力の指標）、脚筋力の測定を行ないました。

本学で楽天の新人合同自主トレーニングの体力測定が行なわれるのは4回目。選手の体力やコンディショニングを詳しく把握する狙いがあります。

ドラフト1位の松井投手は「専門機器を使用した体力測定は初めて。かなりきつかったが、プロは体が資本。素晴らしい施設が整っているの、今後も十分に活用させて頂き、自分の成長につなげていきたい」と話しました。

今回の体力測定では、本学の高橋弘彦教授、内丸仁・竹村英和の各准教授、小田桂吾講師が測定指導を行ない、本学の学生6名が測定補助を行ないました。最大酸素摂取量と脚筋力の測定補助を行なったアスレ

ティックトレーナー部の森山翔太さん（体育学科3年一長野・松商学園高校出）は、「機器の使い方や明確な説明の仕方を勉強することができた。プロ野球選手の力強い動きを身近で見ることができ、測定補助にも関わることができ、非常に良い刺激を受けた。今後のトレーナー活動に生かしていきたい」と意欲的に話しました。

「DAN DAN DANCE & SPORTS 10th」が成功裏に幕



仙台大学女子体操競技部によるダンスパフォーマンス
=えぞこホール(宮城県大河原町)

1月25日(土)、えぞこホール(仙南芸術文化センター)で、今年度10回目を迎えたダンスイベント「DAN DAN DANCE & SPORTS」(主催:仙台大学・DAN DAN DANCE & SPORTS実行委員会)が開催され、約300名の方々が来場されました。

同ダンスイベントの冒頭では、本学の朴澤学長が「ダンスは体育系大学の重要なテーマの一つ」と挨拶。引き続き、昨年同様、宮城県気仙沼市から参加した「なんでもエンジョイ面瀬クラブ」の子ども達によるかわいらしい演技を皮切りに、老若男女・障害の有無を問わないダンサーたち25組の力強く華麗なパフォーマンスが繰り広げられました。

仙台大学からは、男女新体操競技部・男女体操競技部・ブレイキン同好会ほか多数の団体が出演。仙台高校・東北生活文化大学高校の両ダンス部による若さ溢れるエネルギッシュなダンスも披露され、盛り上がりを見せました。

最終演技には、(株)ジールワールドワイドのダンサーがゲスト出演してくださり、プロの引き込まれるような迫力ある演技で会場を魅了しました。「DAN DAN DANCE & SPORTS 10th」は成功裏に幕を閉じ、会場からは盛んに大きな拍手が送られました。

なお、「DAN DAN DANCE & SPORTS」は、毎年1回開催されております。

(※来年度は、2016年1月24日(土)に開催予定です。ダンスに興味関心のある方は、ぜひご来場・ご参加ください。)



河北文化賞受賞—

本学OB「車いすバスケットボール宮城MAX」の岩佐義明監督が来訪



河北文化賞の賞状を手にするOB岩佐監督(中央)と同賞の楯を携える朴澤学長及び大学関係者=学長室

1月29日(木)、車いすバスケットボールの日本選手権6連覇の偉業が称えられ、「第63回河北文化賞」(河北文化事業団が東北の学術、芸術、体育、産業、社会活動の各部門で顕著な業績を挙げ、東北の発展のために尽力した個人、団体を顕彰する賞)を受賞された宮城MAX

いわざよしあき

X(マックス)の本学OB岩佐義明監督が学長室を訪れ

ました。

朴澤学長・阿部副学長・仙台大学同窓会の鈴木会長及び仙台大学同窓会の大河原事務局次長から岩佐監督へ称賛の言葉が述べられました。

栄えある河北文化賞受賞の功績を称え、岩佐監督に対し、朴澤学長から記念品が、仙台大学同窓会の鈴木会長から褒奨金が贈られ、岩佐監督から感謝の言葉が述べられました。

岩佐監督は「仙台大学でバスケットボールのみならず、スポーツ科学を学んだことが私の原点。創意工夫と実学の精神で苦難を乗り越えてきた。河北文化賞に恥じないように、これからも精進していきたい」と本学での学びが今に生きていることなどを話され、「日本選手権6連覇を達成し、今年11月に北九州市で行なわれるクラブチーム世界一決定戦で優勝したい」と更なる飛躍を誓っていました。

なお、岩佐監督は、北京パラリンピックとロンドンパラリンピックにおいて、車いすバスケットボール日本代表チームのヘッドコーチを務めるなど第一線で活躍している監督です。

ラジオ3の公開生放送に 女子サッカー部黒澤 尚監督が出演



1月31日（金）E-BeanS 杜のサテスタ広場において、ラジオ3（FM76.2MHZ）の公開収録番組「らじすぽ仙台」に女子サッカー部監の黒澤 尚監督が生出演しました。

同番組はベガルタ、楽天89ERS、ベルフィーユの選手やスタッフなどスポーツ関係者が毎週生出演する番組で、ベガルタ仙台スタジアムDJの大阪ともお氏がパーソナリティを務めています。

番組冒頭には、仙台大学の紹介と共に、2014ソチ冬季五輪に出場する本学の黒岩俊喜選手（運動栄養学科2年）や小室希選手（新助手）をはじめ本学OBを含め5名の選手が出場し3名の役員が派遣されることなど紹介がされました。

続いてゲストである黒澤監督の紹介がなされ、本学女子サッカー部の紹介やこれまでの黒澤監督の経歴（ソニー仙台GKとした活躍後、JFAナショナルトレセンコーチ・ユニバーシアード日本女子代表GKコーチ）などの経験談などがユーモアを交え柔らかなトークで語られました。黒澤監督が指導者として大切にしていることは何かとの質問に対しては、「教える難しさを感じつつも、サッカープレーの上達のための指導だけではなく、プレー以外の部分としての教育「人間教育」が指導の大きなウェイトをもつと思う。」と話していたことが印象的でした。

収録会場には女子サッカー部の学生達も会場に駆けつけており、黒澤監督のトークに笑顔を見せる様子もありました。



収録後には観覧者へのプレゼント贈呈

<同窓生関連情報>

前宮城県鬼首小学校校長のOB村石好男先生（昭和56年体育学科卒）より、朴澤学長宛てに右記のようなお年賀を頂戴致しましたので、ご紹介させていただきます。

二〇一四年一月
村石 好男 ・ 美智子（昨年度末退職）

この度の赴任に際し、皆様には大変お世話になり、ありがとうございます。限られた日々を大切に、世界に点在する在外教育施設の中で「ひとときわかがやく サンパウロ日本人学校」を目指し、任期を全うしてまいります。どうぞお元気で。またお会いできる日を楽しみに。

謹賀新年
渡伯して九か月が経ちました。当地での仕事や生活にもだいたい慣れ、元気に過ごしています。

ホテルオニコウベを含め地区の利権を大学まで
めいたにければ幸いです。朴澤学長の
発展に伺います。



Alameda Lorena, 75 Apto. 42 -Jardim Paulista
Sao Paulo -SP- Brasil
CEP 01424-00

仙台大学の先端機器を駆使した研究最前線—シリーズ(1) 「ダートフィッシュ」・「スポーツコード」



ダートフィッシュの「ストロモーション」の編集

(1) 「ダートフィッシュ」・「スポーツコード」とはスポーツの現場において、映像が有効に活用されてきています。本学では、映像による競技力向上支援ソフトを2種類有しています。

一つは「ダートフィッシュ」。これは、動作分析によるコーチング支援およびデータ分析ソフトです。画像を重ねて詳細に比較できる「サイマルカム」、動きの軌跡を分析できる「ストロモーション」、情報を分析する「アナライザー」、情報を伝達する「インジアクション」、映像・情報データベース化ができる「タギング」機能を搭載。最近では、スポーツ界のみならず、医療・リハビリテーションをはじめ、教育、調査・研究、放送などの幅広い分野で活用されています。

もう一つは「スポーツコード」。これは、ビデオ映像を最大限に活用するためのビデオ分析ソフトです。試合を撮影しているカメラとPCを接続すれば、ライブでデータを入力できる「ライブコーディング」、ボタン操作だけでビデオ映像を分類、データ化できる「コードウィンドウ」、見たいプレーだけを編集、再生して見ることができる「タイムライン」、複数方向からの映像のリンクと分析ができる「ムービースタック」などの機能が搭載されています。

近年の競技スポーツにおいては、情報戦略が勝敗に重要な要素となってきており、多くの研究者や競技者が“勝つために”上記機器を利用しています。これらの機器をいかに使いこなすかというインテリジェンスの部分が急務になっています。

II Y A M A G A T A ドリームキッズ
による動作分析
ダートフィッシュ「ストロモーション」



(2) 「ダートフィッシュ」・「スポーツコード」を用いた仙台大学の実践例

本学スポーツ情報マスメディア学科では、スポーツにおける情報の戦略的な取扱いや分析ソフトを使用した収集分析加工方法を身に付けた人材の育成を目的とした教育が行われています。スポーツ情報戦略活動を体験的に学ぶ演習（「スポーツ情報戦略論演習」）の中では「ダートフィッシュ」と「スポーツコード」を取り上げ、これらを実際使用しながら、最先端の技術力を身に付けられるような演習活動となっています。

「ダートフィッシュ」は、スポーツ指導者やアナリスト志望の学生がスポーツ動作の分析に用いて「卒業論文」を作成するなど、幅広く活用されています。また、本学スポーツ健康科学研究実践機構の受託事業である「スポーツタレント発掘事業」（子どもたちの体力向上、地域の発展に資するスポーツ選手の育成や次世代のトップアスリートを養成することを目的とした事業）の「YAMAGATA ドリームキッズ」や「AKITA スーパーわか杉っ子」においても「ダートフィッシュ」を活用したプログラム提供が行なわれています。

「スポーツコード」は、本学男子ハンドボール部が、対戦相手の動きやシュートコース、フォーメーションなどを予め分析し、勝利する可能性を高くするために活用しています。「平成25年度東北学生ハンドボール春季リーグ」においては、2部から1部に昇格した要因の一つにもなりました。また、社会人ハンドボールの強豪・トヨタ自動車東日本男子ハンドボール部において、吉田洋志さん（仙台大学大学院1年—平成25年体育学科卒—福島・尚志高校出）が「スポーツコード」を用いて、競技力向上に向けた強化活動に対する情報面からのサポート支援活動を行なっています。

(3) 藤本晋也講師に聞く、課題と今後の展望—仙台大学の場合

競技スポーツシーンでの映像活用について、近年のICT環境の急激な変化に伴い、今後も多様な場面において活用されていくことが想像されますが、これらのソフトはあくまで分析支援ソフトです。分析を行うのは人であり、実際の現場に則した、分析するための映像を撮影し加工・編集するためには、分析の観点や視点である“何を見るのか”が重要なポイントとなります。今後は、競技現場での映像の利活用に関する研究や、多様なスポーツシーンへの実践的活用について研究を進める予定です。

仙台大学の先端機器を駆使した研究最前線—シリーズ(2) 「動物環境制御低酸素室」



動物環境制御低酸素室



動物環境制御低酸素室内



左: 動物環境制御低酸素システムGas分析システム
右: 動物環境制御低酸素システム制御盤・電源盤

(1) 動物環境制御低酸素室とは

標高の高い低酸素環境下においては、高脂血症や心疾患の患者が少なく長寿が多いことが知られており、低酸素環境が健康に及ぼす効果の研究がなされています。本学では、平地においても低酸素環境を再現できる、動物環境制御低酸素室を備えています。

高地の場合、標高が高くなると同時に大気圧が低くなることで酸素の量も減っていきませんが、本学の低酸素室は「常圧式」で大気圧が変化しないという特徴があります。酸素濃度自体を低くすることで酸素の量を高所と同じように低く設定することができます。入室前には血中酸素濃度を測り、体調の悪い人は入室をさせないようにしますが、実験中にもしものことがあった場合でも、常圧式であれば部屋の出入りがしやすく安全性に優れています。

室内環境は、酸素濃度別に設定可能で、酸素濃度別の効果を比較検討することができます。また明暗時間を任意に設定できることから、実験者のスケジュールに合わせた動物実験プロトコルを実施することができます。

(2) 動物環境制御低酸素室を用いた 仙台大学の実践例

低酸素環境下による酸素分圧の低下は、生体に一時的な低酸素状態を引き起こします。この低酸素環境において、体内環境を一定に保とうとする反応が高所順応です。血液では腎臓からのエリスロポエチンの生成分泌が増加し、血液中の赤血球数とヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値が増加することで、酸素運搬能力が向上するという報告があります。また筋肉では、酸化能力の高い筋線維が有意に増加するという報告があります。

本学は、日中共同の研究プロジェクトを実施しており、異なる低酸素濃度がラットの血液、筋肉に及ぼす影響に着目し、低酸素環境による肥満などの生活習慣病への予防改善効果を研究しています。現在、実験ではラットを高度0m、2200m、3500mに相当する酸素濃度に6週間滞在させ、さらにその期間、運動をさせる群・させない群に分けて飼育しています。飼育終了時の体重、腹腔内脂肪量、血液性状、筋組成を測定し、低酸素環境やそこで行う運動の効果を比較検討しています。

(3) 藤井久雄教授に聞く、 課題と今後の展望—仙台大学の場合

運動実験で得られた基礎データをいかにヒトへ応用するかが重要です。

仙台大学で測定した動物低酸素実験のデータを基に、中国・青海省体育科学研究所側（3月18日馬所長が来学予定）の低酸素ヒト実験のデータとの擦り合わせを行ない、健康増進等の改善に役立てる研究の方向性について協議する予定です。

仙台大学の先端機器を駆使した研究最前線—シリーズ(3)「高圧高酸素室」



高圧高酸素室=仙台大学専門研究棟(C棟)3階

(1) 「高圧高酸素室」の概要

従来、疲労回復の手段としては、睡眠やサプリメントの摂取、入浴、マッサージなどが取り入れられてきました。しかし近年、高圧高酸素室（高酸素カプセル）に滞在することにより、疲労回復やスポーツ障害からの回復に効果があるとされており、スポーツ選手を中心に広く活用され始めています。

本学では、高圧高酸素室を平成20年3月に2台設置しました。

本学に設置した高圧高酸素室では、大気を送り込むことによって室内を加圧するとともに、1分間に約10リットルの濃縮酸素（高酸素気）を流すことによって高圧高酸素環境を作り出します。

気圧は1.3気圧（水深3mに潜水した際に受ける圧力と同等）、酸素濃度は約30%（通常20.9%）まで高めることができ、自然環境にはない環境を人工的に創り出すことができます。

(2) 常圧高酸素室との違い

常圧高酸素室は、気圧を変化させずに通常大気圧の状態、高酸素気を室内に送り込んでいます。高圧高酸素室についても、常圧高酸素室と同様に高酸素気を室内に送り込んでいますが、同時に室内の気圧を高めています。そのため、同じ酸素濃度でも滞在環境が異なり、生理的応答も異なると言われてます。

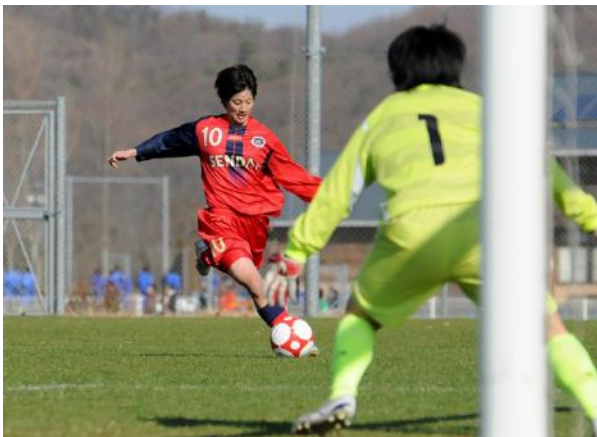
(3) 「高圧高酸素室」を用いた仙台大学の実践例

運動後の筋痛・筋疲労からの回復に対する効果について検証しています。また、陸上競技や競泳などのように、1日に数回のレースを行うことを想定し、繰り返し行う運動間の休息時に高圧高酸素室に入ることによって、パフォーマンスの低下を抑制できるかなどを研究しています。さらに、卒業論文の作成を通して、学生が高圧高酸素室を用いた疲労回復効果を検証しており、スポーツにおける疲労回復やコンディショニングに関する理論と実践を学んでいます。

(4) 竹村英和准教授に聞く、課題と今後の展望—仙台大学の場合

近年、いわゆる高酸素カプセル（1.3気圧程度の高圧酸素環境）に滞在することにより、怪我や疲労回復等に効果があるとされていますが、十分な科学的根拠が得られていないのが現状です。今後、これらの効果について検証を進めるとともに、スポーツ選手のコンディショニングへの応用について研究を進める予定です。

女子サッカー部、インカレ初戦敗退—全国の壁厚く



積極的なプレーを見せたFW須永(10)(上)とFW山下(23)(下)
＝兵庫県立三木総合防災公園第1球技場

12月25日(水)、兵庫県立三木総合防災公園第1球技場(兵庫県三木市)で「平成25年度第22回全日本女子サッカー選手権大会(インカレ)」1回戦が行なわれました。4年連続出場の本学女子サッカー部(東北第1代表)は、姫路獨協大学(関西第3代表)に0-4(前半0-2、後半0-2)で敗れ、全国の壁の厚さを改めて思い知らされました。

すながまなみ

後半途中出場のFW須永愛海(体育学科1年一

やました

JFAアカデミー福島出)とFW山下あかり(体育学科1年一宮城・常盤木学園高校出)が、躍動感あふれる積極的な仕掛けで相手ゴールに迫り、幾度か好機を作りましたが、残念ながら、ゴールは奪えませんでした。

試合終了後、本学女子サッカー部の黒澤尚監督は「予想以上の完敗。この屈辱をバネに、一からチームを立て直したい。来年こそインカレベスト4進出を果たしたい」と悔しさをにじませながら話しました。

今後に期待できるプレーを随所に見せた仙台大学女子サッカー部。引き続き、温かいご声援を宜しくお願い致します。

FLOORBALL部、インカレ男女アベック準優勝



仙台大学 FLOORBALL 部は、12月21日(土)・22日(日)に埼玉県の駿河台大学で行われた「第3回日本学生フロアボール選手権大会」で、男女ともに準優勝という結果を残しました。

創部5年目にして公式大会では初の決勝進出という大健闘を成し遂げた男子でしたが、前大会王者の国士舘大学に激闘の試合をするも0-3で敗れました。前大会で見事優勝し連覇を狙う女子は、白熱する試合を繰り広げましたが、惜しくも1-2で敗れてしまいました。目標であった2連覇を逃した悔しさを込め、女子キャプテン

さとうしおり

の佐藤詩織(健康福祉学科3年一宮城・築館高校出)は、閉会式で「来年必ず優勝トロフィーを取り返します!」と全ての大学の前で宣言。男女共に次年度に向けて前進をはじめた仙台大学の今後の活動に期待が高

はたうちかづき

まります。また、会場には創部者である畑内一輝さん(平成24年健康福祉学科卒一青森・八戸東高校出)をはじめ、沢山の卒業生が応援に駆けつけてくれました。畑内さんは「インカレという舞台で男女共に決勝の舞台に立つ姿を見れたことが何より嬉しいし、とても誇りに思う。現役生とは一緒にやってきたこともあって尚更嬉しい。この部を創って本当によかった」と語ってくれました。

今大会は、必死で応援し、いつも見守る卒業生の先輩方がいて下さる事が大きな力となり、創部から積み上げてきたものが今回の結果へと実を結んだと思います。

応援して下さった皆様、本当にありがとうございました。引き続き仙台大学 FLOORBALL 部へのご声援を宜しくお願い致します。

すずきゆうた

<報告: 仙台大学男子 FLOORBALL 部 主将 鈴木雄太
(体育学科4年一福島工業高校出)

男子サッカー部 菅井ツインズ(兄・拓也、弟・慎也)が JFLヴァンラーレ八戸FCに入団内定



左:菅井拓也、右:菅井慎也
=仙台大学サッカー・ラグビー場

仙台大学男子サッカー部主将の菅井拓也(健康福祉学科4年すがいたくや一宮城・聖和学園高校出)と副主将の菅井慎也(体育学科4年すがいしんや一宮城・聖和学園高校出)が、2014シーズンからのJFLヴァンラーレ八戸FCへの入団が内定しました。菅井拓也(兄)と慎也(弟)は双子の兄弟。中学はベガルタ仙台ユース、高校は宮城・聖和学園高校、そして大学は仙台大学と同じ道を歩んできました。菅井ツインズは、本学サッカー部1年時に総理大臣杯3位、13年連続インカレ出場に大きく貢献しました。

ヴァンラーレ八戸に入団するにあたり、兄の拓也は「大学サッカーはかけがえのない時間だった。この経験をヴァンラーレでも活かして、1年目からレギュラー定着を目指す」と力強く語り、一方、弟の慎也は「怪我で大学3年時に1年間リハビリに専念し、辛い時期もあった。周りで支えてくれた方々のお陰で4年間やり通すことができた。ヴァンラーレで活躍して、最高の恩返しをしたい」と意気込みを語りました。

引き続き、菅井ツインズへの温かなご声援を宜しくお願い致します。



仙台大学 広報室

Monthly Report

ソチ冬季五輪—

ボブスレー男子4人乗りすずきひろしにOB鈴木選手と黒岩選手が 出場—仙台大学で100名が大声援



OB鈴木選手と黒岩選手の活躍を祈り、大声援を送る学生と教職員ら＝仙台大学KMCH大会議室

2月23日（日）＜日本時間18時30分～＞ソチ冬季五輪男子ボブスレー4人乗りの3回戦が行なわれ、OB鈴木寛選手（北野建設／平成8年体育学科卒—北海道・室蘭大谷高校出）・黒岩俊喜選手（運動栄養学科2年—神奈川県・橘高校出）らで組んだ日本チームが出場しました。日本チームは、力を出し切ったものの4回戦には進めず、26位という結果となりました。

本学では、OB鈴木選手と黒岩選手の活躍を祈り「パブリックビューイング（応援の集い）in仙台大学」を実施。学生・教職員ら約100名が集結し、ソチに向けて大声援を送りました。パブリックビューイング

の司会進行役を務めた佐藤由佳さん（仙台大学大学院1年—平成24年体育学科卒—宮城・石巻市立女子高校出）は、「4回戦に進めなかったことは残念でしたが、OB鈴木選手と黒岩選手が日本代表として戦っている姿に感動しました。胸を張って日本に戻ってきてほしい」と話しました。

ソチ冬季五輪には、OB鈴木・黒岩両選手を含め本学関係者5名が出場しました。皆様方からたくさんの熱いメッセージを頂き、誠に有難うございました。教職員一同心から感謝申し上げます。

< 目 次 >

ソチ冬季五輪—「パブリックビューイングin仙台大学」を開催	1
塩エコ(減塩)キャンペーンを実施	4
第15回修士論文第3回リサーチペーパー発表会	5
平成25年度学生相談室主催研修会「東日本大震災被災者の心理」	6
仙台大学の先端機器を駆使した研究最前線—シリーズ(4)～(5)	11
学生の競技結果等	12

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

ソチ冬季五輪—スケルトン女子・前半、小室希選手(仙台大職)は19位—パブリックビューイングin仙台大学を実施



本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の有明宏さん(右)と浅野拓海さん(左)がパブリックビューイングを盛り上げる
=仙台大学KMCH大会議室

2月13日(木) <日本時間16時25分~>にソチ冬季五輪女子スケルトン・前半1・2回戦が行なわれ、OG

こむろのぞみ
小室希選手(仙台大職/平成23年仙台大学大学院修了—平成20年体育学科卒—宮城・白石女子高校出)が1回戦59秒94・2回戦59秒82のタイムで、出場20人中19位となりました。

本学では、小室選手の「パブリックビューイング(応援の集い)in仙台大学」を実施。学生・教職員ら約150名が集まり、船岡(仙台大学)からソチへ大声援を送りました。

仙台大学からソチへ声援—スケルトンOB高橋・OB笹原・OG小室の三選手の活躍を祈って



OB高橋・OB笹原・OG小室の三選手に熱い声援を送る学生・教職員の有志ら
=仙台大学KMCH大会議室

2月14日(金) <日本時間21時30分~>にソチ冬季五輪男子スケルトン1・2回戦が行なわれ、世界ランキン

たかはしひろあつ
グ10位のOB高橋弘篤選手(システックス/平成19年体育学科卒—宮城・富谷高校出)と世界ランキング17位

ささはらゆうき
のOB笹原友希選手(システックス/平成19年運動栄養学科卒—秋田中央高校出)が出場。高橋選手は暫定15位<1回戦57秒53、2回戦57秒10>。笹原選手<1回戦58秒22、2回戦58秒02>は暫定22位となりました。

日付が変わった2月15日(土) <日本時間0時40分~>に、引き続き、ソチ冬季五輪女子スケルトン3・4回

こむろのぞみ
戦が行なわれ、世界ランキング19位のOG小室希選手(仙台大職/平成23年仙台大学大学院修了—平成20年体育学科卒—宮城・白石女子高校出)が3回戦59秒24・4回戦58秒76。4本の合計タイムは3分57秒76で、最終順位は19位という結果になりました。

仙台大学には、本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の学生と朴澤学長・若井副学長・吉田事務局長ら教職員の有志15名が集まり、NHKのネット生中継を観戦。OB高橋・OB笹原・OG小室の三選手に熱い声援を送りました。

応援を先導した本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の進藤亮祐さん(仙台大学大学院1年—平成24年体育学科卒—仙台商業高校出)は、「小室さんの4本すべての滑走を見ることができ、本当に嬉しかった。弘篤さんと笹原さんには、入賞目指して頑張ってもらいたい」と話しました。

※なお、2月15日(土) <日本時間23時45分~>にソチ冬季五輪男子スケルトン3・4回戦が行なわれ、OB高橋選手は12位・OB笹原選手は22位という結果でした。たくさんの熱いご声援を賜り、誠に有難うございました。



- ①滑走を終えた高橋弘篤選手
- ②滑走を終え、Vサインを見せる笹原友希選手
- ③滑走する小室希選手

朴澤学長が「仙台日経懇話会」でご挨拶 ～人づくりを担う仙台大学～



挨拶する朴澤学長



挨拶する村井嘉浩宮城県知事



朴澤学長と日経新聞仙台支局の朝比奈宏記者(右)

「仙台日経懇話会」とは日本経済新聞社仙台支局が事務局となり、発足以来18年間、東北経済産業局や東北電力をはじめとした宮城県の名だたる企業、経済界の各社が加盟している情報交換の会で、1年に6～7回、政財界の方々を招いての講演会や懇親会を開催しています。現在の会員は126社（2013年7月現在）で、学校法人朴沢学園は2009年に加入し、有意義な活動に参加して参りました。

2月5日（水）、仙台国際ホテルで開催された第125回講演会は、宮城県の村井嘉浩知事を講師として迎え「創造的な復興を目指して」という演題で、民間の力を借りながらいかにして発展的な復興をとげるかという具体的な構想について、熱心に話されました。イスが足りなくなるほど約200人近くの参加者が集う中、引き続き実施された懇親会の閉めとして、朴澤学長が日経新聞仙台山本支局長の依頼によりご挨拶されました。

「ソチオリンピック開幕を2日後に控え、冬季オリンピックに多くの選手を輩出している仙台大学の学長は、この会場にいらっしやる中で1番ワクワクしていらっしやることと思います。」と紹介された朴澤学長は「つい最近も30歳の若い女性によるSTAP細胞という大変な発見がありました。若い世代が担う2020年東京オリンピック開催は、スポーツ界のみならず日本全体に大きな動きをもたらす画期的な出来事です。あさってソチには被災地から日の丸をしょった若者が出場しますし、被災地にある仙台大学にもそれぞれの競技にいどむオリンピック選手達がおります。

さきほどは、若い村井知事よりわかりやすく迫力のあるお話がありました。

仙台大学も人づくりの大切さを観点に、2020年に向けて宮城県と取り組んでいる事業があります。被災地の子供の肥満の割合が増えているというデータがあり、それを改善する一つの方策として「みやぎ夢・復興ジュニアスポーツパワーアップ事業」が展開されることになりました。宮城県のジュニアトップアスリートを発掘し育てていこうという取り組みです。このような試みを小さいうちに経験し、発育・発達という知的分野も含めて育てていくのは海外でも行っています。被災地から元気を発信することで体育大学としての使命を担っていきたいと思いますし、経済界・産業界の方々と交流を深める貴重な場として日経懇話会があることに感謝いたします。」と語られました。

日経新聞仙台支局には、東京大学時代に漕艇部だったという入社2年目の朝比奈記者などもいて、同会加盟社、同新聞社との意義ある交流となりました。

仙台大学運動栄養学科による「塩エコ(減塩)キャンペーン」を実施



塩エコキャンペーンの様子=ヨークベニマル柴田店入り口脇

2月8日(土)10時~12時30分の間、ヨークベニマル柴田店入り口脇の駐輪場スペースで、仙台大学運動栄養学科による「塩エコ(減塩)キャンペーン」を実施しました。同キャンペーンは、宮城県からの受託事業。宮城県民は、メタボリックシンドローム当該者と予備群を合わせた割合が全国で2番目に多く、また食塩摂取量も全国上位にランクしているため、生活習慣病として知られる高血圧・脳卒中・心臓病・糖尿病を発症するリスクが高くなっています。これらを予防するため、健康に対する意識を高めてもらうことを目的としています。同キャンペーンの企画運営は、

運動栄養学科長の藤井久雄教授、佐藤幸子・堀江・真木の各新助手、事業戦略室の半澤課長、運動栄養学科の学生8名が行ないました。当日は、「具だくさんお吸い物」200食を無料提供。家庭のお吸い物・お味噌汁と比較しながら喫食してもらい、薬味の使用(ねぎ・しょうが)についてや、嗜好品に含まれている塩分量(カップめん・スナック菓子・加工食品)の紹介も行ないました。

佐藤幸子新助手は「高血圧の方も来られ、普段から食塩の摂り過ぎに気をつけているという声も聞かれた。減塩意識がさらに高まるよう地域との連携を進め、これからも地域の健康のお手伝いをしていきたい」と意欲的に話しました。



まつやまようこ
松山容子さん
(運動栄養学科2年一
山形中央高校出)

将来、管理栄養士の資格を取り、病院で働きたい。宮城県民は、メタボ該当者・予備群で全国ワースト2位。何らかの対策が必要だと思います。「塩エコ(減塩)キャンペーン」に参加してすごく勉強になりました。お吸い物は薄味で少し不安でしたが、「美味しい」と温かい言葉をかけてもらい、安心しました。女子バスケットボール部の栄養サポートでもこの経験を生かしていきたいです。

「ちょっといい話」—男子柔道部員達が自主的に雪かき



一生懸命に雪かきをする男子柔道部員達=仙台大学第三体育館前

2月9日(日)に仙台市では35cm・白石市では32cmの積雪を観測(仙台管区气象台発表)するなど、記録的な大雪に見舞われました。2月10日(月)は本学の構内も大雪の影響を受け、積もった雪が氷の塊になっているところもあり、滑って怪我をする危険性がありました。

そんな状況を目にした本学男子柔道部員達。本学管理課に自主的に雪かきを申し出ると、柔道部員達12名がスコップを手に、汗水流しながら雪かきを行なってくれました。

お陰で誰も怪我をすることなく、校内を安心して歩けるようになりました。本当に有難うございました。

仙台大学大学院スポーツ科学研究科 第15回修士論文第3回リサーチペーパー発表会を開催



発表の様子 1年コースの森 朱里さん=大学院棟E301教室

2月14日（金）E301教室において、仙台大学大学院スポーツ科学研究科第15回修士論文第3回リサーチペーパー発表会が開催されました。

調査研究をもとに成果へ結びつけた事例などが発表され、参加した先生方からそれぞれの修士論文とリサーチペーパーの発表に対し活発な質疑がありました。

総評として大学院研究科長の若井彌一副学長からは、体育学専門研究の素直で興味深いそれぞれの取り組みに対し、院生の努力と指導教員の先生方に労いの言葉がかけられました。

また、「修士論文の発表は通過点であると共に新たな出発点であること」「先行研究については必ず例示することに努め、学術論文としての重みを是非感じてほしい」と話され、今年度の発表会が終了しました。

孫 健	社会階層およびゴルフの専門志向化課程からみた中国ゴルフ愛好者の特性に関する研究
卓 文達	日中トップテニスプレーヤーの国内育成システムの比較研究 ～トリプルミッションモデルの視覚から～
陳 家奇	中国中規模都市におけるフィットネスクラブの経営管理に関する研究 ～安徽省淮南市を事例として～
鮑 雲	中国・瀋陽市の大学におけるテコンドーの現状
盧 健	日本の学校体育における武道教育に関する研究
浅川 和輝	日本卓球協会の登録会員増加に向けた方策提案に関する研究
河野 未来	新体操競技における新採点規則に関する比較考察
服部恵未子	栄養サポートを行っている学生の栄養アセスメントを実施する能力に関する一考察 ～S大学運動栄養サポート研究会の活動の現状から～
矢部 恭平	スポーツ競技者の知的能力と「生きる力」の関連性について
山谷 公基	企業スポーツの価値を高めるための取り組みに関する事例研究 ～人事労務管理施策上の効果に着目して～
松原 匠	学校体育における水泳授業の研究 ～生涯スポーツを志向する水泳授業を視点として～
渡部 由佳	若年痩身女性の基礎代謝量の実測値と推定値の比較検討
菅野 恵子	バスケットボール競技の攻撃時における認知的トレーニングの効果に関する研究
蘇 青青	異なる濃度の常圧低酸素暴露がラットの腹腔内脂肪量の変化と骨格筋繊維タイプ特性に及ぼす影響
杜 霞	異なる濃度の常圧低酸素暴露がラットの腹腔内脂肪量と血液性状の変化に及ぼす影響
森 朱里	女子駅伝チームの競技力とチーム力とを向上させる要因に関する研究
箱島 道泰	中学校における武道授業の実態に関する研究 ～宮城県の柔道の指導内容を中心に～
徳江 郁美	トップアスリートにおけるスポーツに関わる「知的能力」の構造について ～スポーツタレント発掘・育成事業におけるグローバルスポーツ教育プログラムに着目して～

平成25年度 学生相談室主催 研修会

「東日本大震災被災者の心理」 被災した公務員・消防士・警察官のストレス ～ 将来の職業選択に向けて ～



平成26年2月18日（火）B104教室において、平成25年度学生相談室主催研修会として筑波大学大学院人間総合科学研究科松井豊教授を招き研修会が開催され、公務員や消防士、警察官などを目指す学生と教職員あわせて約50名が聴講しました。

松井教授は東京消防庁において惨事ストレス対策に関する指導を行ってこられ、東日本大震災に際しては、震災対応に携わったさまざまな職業の方々のストレスの傾向などについて継続的に調査されています。

今回の研修では、悲惨な現場に関わった時に生じる惨事ストレスによる反応（急性ストレス障害や外傷後ストレス障害）などについて様々な事例が具体的に紹介され、どのように経過し、どのように対応すべきかなどが話されました。

今回の震災においては、消防・警察の最前線で対応にあっていた職種に比べ、一般公務員（役所の職員）のストレス反応が顕著であったこと、惨事ストレスによる退職事例も各県で相次いだことが紹介され、心理的ケアの原理としては、なにより休息する（させる）こと、そして心身ともに孤立させない環境作りの重要性などが話されました。

最後に質疑応答の時間が設けられ、被災当時高校生だった学生が遭遇した、避難所となった学校で何日間も不眠不休で対応にあたった教員の状況について「あの時どうすれば良かったのだろうか」との質問がなされ、教員に避難所運営を任せるのではなく、避難者自身による自治機能を持たせる方策などが話されました。

最後にストレス解消の方法として、①適切な休息をとる（とらせる）②入浴や呼吸法でリラックス③趣味やレクリエーションを楽しむ④過度な負荷をかけない、適度な運動をする⑤発想の転換（忘れようとしない、自分を責めない）をすることなどが示されました。

また、これまでのデータに示されるように、ストレスはマイナスな部分だけでなく、辛い思いをした分、必ず成長する要素があることなどが話されました。これから進路選択をする学生にとっても、震災を共に経験した教職員にとっても、大変有意義な研修となりました。

仙台大学オリジナル大判スカーフ2柄が新発売



- ① 墨絵タッチで描かれた、さくら模様の大判スカーフ
- ② 仙台大学オリジナルネクタイ(4,000円)と同柄のスカーフ

※ 必要に応じてネクタイとスカーフ、男女ペアで揃えることも可能です

仙台大学オリジナルグッズとして、スカーフがあらたに2柄作成されました。

前回2011年4月に作成した仙台大学のロゴ入りオリジナルスカーフがいずれも完売し、今回新たに作成に至ったもので、販売するのは大判スカーフ（52cm×52cm）でシルク100%、価格は4,900円です。

学内駐輪場1Fタカトモスポーツで販売しておりますので是非ご利用ください。

F棟1階学生支援室に見本展示してあります



ギフト用に個装されています

国際交流協定校 台湾・台東大学の正規留学から帰国



(左から) 朴澤学長・佐々木さん・鎌田国際交流センター長・渡邊事業戦略室長＝学長室

本学の協定校である台東大学に正規留学（平成25年9月～平成26年2月）していた佐々木芽依さん（ささききめい 体育学科3年一秋田・由利高校出）が帰国し、2月18日（火）に学長に帰国の報告を行いました。

台東大学と本学は2003年に協定を締結してから、互いの大学に交換留学生を受け入れるなど交流を深めています。

佐々木さんは2013年3月に協定校短期留学プログラムによる約1ヶ月の短期留学を経験し、台湾の文化や台東大学の教職員・学生とのかかわりの中で、過ごしやすさと人柄の温かさに触れ、もう一度台東大学に留学したいという想いが強くなり今回の正規留学となりました。

台東大学ではソフトボール部に入部し交流大会へ出場したり、週3日夕食後の約2時間、コーフボール（※注）のサークルにも誘われ、台湾でも盛んであるニュースポーツの面白さに夢中になり様々なスポーツに親しんだようで、台湾の仲間たちと共に実に有意義な時間を過ごしたそうです。

授業は主に実技科目を履修し、「ソフトボール」「バドミントン」「アウトドアスポーツ（野外高所スポーツ・キャンプ・登山・ボート）」「海域スキューバ」など、様々なアクティビティを経験するなどし、アウトドアスポーツが盛んな台東大学の学生生活を満喫しました。最初は慣れない中国語に戸惑いつつも、ジェスチャーと筆談で会話をするうちに段々話せるようになり、より生活が楽しくなったそうです。佐々木さんの所属する体育学科は1年生50名規模の学科で、球技大会や運動会、水上運動会など、学科一丸となって活動する行事計画が組まれているので学科全体のチームワークがとても良いと感じたそうです。

※注 コーフボール…オランダ発祥のニュースポーツで、男性と女性が平等かつ一緒にプレーするよう考案された男女混合スポーツ。リング状のバスケットにシュートし得点を競う。世界57か国の国々が、国際コーフボール連盟に加盟している。

ささききめい

佐々木芽依さん（体育学科3年一秋田・由利高校出）

充実した留学生活でした。特に沢山のアウトドアスポーツを経験することができたのが一番でした。

仙台大学に留学生していたことのある学生の方々が淋しくならないよう様々な場所に誘ってくれたり、スポーツや学生生活を通じ沢山の親しい友達ができました。」友達の家に2～3泊ずつ泊めてもらうこともあり台東大学以外の地域も行くことが出来ました。台湾の方々は親切で、これからも中国語を勉強しながら台湾の良さを伝えていけたらと思っています。

次に続く後輩たちにも台東大学への留学を勧めたいです。



(写真上) 台東大学のソフトボール部の仲間たちと（賞状を持つ佐々木さん）



(写真左) 野外高所スポーツ
ペアになり丸太の頂上まで力を合わせバランスを取りながら登っていく。

(写真右) コーフボール大会での一コマ。



第25回 柴田町スポーツ賞表彰式



表彰学生＝柴田町槻木生涯学習センター

平成26年2月21日(金)柴田町槻木生涯学習センターにおいて第25回柴田町スポーツ賞の表彰式が執り行われました。

表彰式に先立ち、ソチ五輪代表女子スケルトン競技に出場した小室希さん(新助手)と男子ボブスレー競技4人乗りの黒岩俊喜さん(運動栄養学科2年)の、本学25記念館学生食堂「なちゅら」で開催した壮行会の様子と、女子スケルトン競技の3本目と4本目の滑走の映像が柴田町スポーツ振興会の計らいにより上映されました。

種類	個人(所属)・団体	競技種目
栄誉賞	中川ひかり (体育学科3年-愛媛・宇和島水産高校出)	漕艇
"	加藤由希子 (健康福祉学科2年-宮城・気仙沼女子高出)	陸上競技
"	須永 愛海 (体育学科1年-福島・富岡高校出)	女子サッカー
"	加賀 孝子 (スポーツ情報マスメディア学科2年-宮城・聖和学園高校出)	女子サッカー
"	黒岩 俊喜 (運動栄養学科2年-神奈川・橘高校出)	ボブスレー
功績賞	小室 希 (仙台大学職員/平成23年仙台大学大学院修了-平成20年体育学科卒-宮城・白石女子高校出)	スケルトン
"	外崎 海舟 (体育学科4年-青森・むつ工業高校出)	漕艇
"	佐々木琢磨 (健康福祉学科2年-盛岡聴覚支援学校出)	陸上競技
"	小林 真衣 (体育学科4年-宮城・名取北高校出)	スケルトン
奨励賞	吉本 日月 (体育学科3年-宮城・明成高校出)	体操競技
"	鈴木 真佑 (体育学科3年-京都市教女子高校出)	柔道
奨励賞 団体	仙台大学 漕艇部	漕艇
"	仙台大学 新体操競技部	新体操
"	仙台大学 体操競技部	体操競技
"	仙台大学 サッカー部	サッカー

<報告：川村昭宏学生課長>

ソチ冬季五輪一

ボブスレー・黒岩選手とスケルトン・小室選手が朴澤学長に帰国の挨拶



左から黒岩選手・朴澤学長・小室選手・鈴木教授＝学長室

2月26日(木)、ソチ冬季五輪に出場したボブスレーの黒岩俊喜選手(運動栄養学科2年-神奈川・橘高校出)とスケルトンの小室希選手(仙台大学職員/平成23年仙台大学大学院修了-平成20年体育学科卒-宮城・白石女子高校出)及び同五輪のボブスレー・リュージュ・スケルトンチームリーダーとして帯同した鈴木省三教授(サラエボ冬季五輪ボブスレー日本代表/仙台大学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部監督/昭和60年体育学科卒)が学長室を訪れ、帰国の挨拶を行ないました。

黒岩・小室両選手の全ての滑走を「NHKのネット生中継」で観戦し、応援(本学で行なわれた「パブリックビューイング」に全て参加)された朴澤学長からは、黒岩・小室両選手及び鈴木教授に対し、労いと今後に向けての激励の言葉が述べられました。

ボブスレーの黒岩選手は「世界との差を見せつけられ、悔しい思いしかない。これからのボブスレー界を引っ張っていけるように、4年後の(韓国)平昌五輪に向けてさらに精進していきたい」と力強く話し、一方スケルトンの小室選手は「仙台大学の同僚や多くの人に支えられてここまで来られた」と感謝し、「成績(19位)は悔しい。一つひとつ努力を積み重ね、もっと成長していきたい。今後のことは休んでから考えたい」と話しました。鈴木教授は「黒岩・小室を含めた仙台大学関係の5選手は、目標に向けて熱い思いをぶつけてきた。思い残すことはない。5選手は決してエリートではなく、あきらめないで夢を追い続けてきた結果、オリンピックという夢の舞台に立った。仙台大学魂(雑草魂)を発揮した選手達を誇りに思う。夢の続きは(韓国)平昌五輪に持っていきたい」と熱い思いを語りました。

皆様、本当にお疲れ様でした。

仙台大学監修 2014年カレンダーが完成

「楽しくできるトレーニング & 栄養士が考案した旬野菜の簡単レシピ」



クリーニング店の2014年カレンダーとして制作依頼を受け、「楽しくできるトレーニング&栄養士が考案した旬野菜の簡単レシピ」と題し12ヶ月すべて本学関係者の提案内容として採用されました。

このカレンダーは、北海道・宮城・山形・福島の4道県で5万部発行され販売・配布されるもので、昨年のカレンダーが好評であったことから、依頼を受け今年で2年目となります。

利用者の方々が年間を通じ健康に過ごすためのヒントとして家庭内で楽しくカレンダーを見ながら運動したり、栄養士が考案した四季折々の旬野菜の簡単レシピ(栄養一口メモつき)をみながら、家庭の新たなメニューに加えていただけるような魅力あふれる提案内容となっています。

1月	自分に合った運動量 ～運動強度を計算できる「カルポーネン法」を利用して～ 准教授 笠原 岳人	あったかポパイ(ほうれん草)リゾット ～美しく元気なカラダを～ 大学院生・管理栄養士 高橋 良太
2月	二の腕シェイプアップ ～ペットボトル・フレンチプレス&ナロープッシュアップ～ 助教 高橋 陽介	雪菜と豚肉のスープ ～風邪予防に！～ 大学院生・管理栄養士 玉崎 千尋
3月	散歩のススメ ～日頃から体を動かして糖尿病などのリスクを下げ、健康寿命を延ばしましょう～ 講師 小田 桂吾	春キャベツと桜海老のニンニク炒め ～カルシウムで肩こり解消～ 新助手・栄養士 堀江 知世
4月	美脚エクササイズ ～カカト上げ・足振り・しこ踏み～ 講師 山口 貴久	アスパラガスと新玉ねぎの春色クリームパスタ ～体を酸化から守ろう～ 新助手・栄養士 堀江 知世
5月	身体のバランスを整える ～左右のバランスが良くなると色々な痛みが取れ動きがよくなります～ 教授・医師 橋本 実	新じゃがと海老のサラダ ～じゃがいもで美しく～ 新助手・栄養士 千葉 慎太郎
6月	カンタン筋力アップ！ ～壁立て伏せ・ひざ立て腹筋～ 講師 小田 桂吾	手軽にもりもりレタスときこのレンジ蒸し ～むくみや便秘を解消して身体すっきり～ 大学院生・管理栄養士 渡部 由佳
7月	早口言葉で顔の運動 ～表情筋を収縮させると自然の笑いと同じ効果があります～ 准教授 高崎 義輝	夏野菜トマトキーマカレー ～リコピンのチカラで身体を守ろう～ 新助手・管理栄養士 服部 恵未子
8月	肩こりに効く ～腕まわし運動～ 教授・医師 橋本 実	蒸しナスの香りみそダレ ～ナスでむくみ改善～ 新助手・管理栄養士 服部 恵未子
9月	下腹ぽっこり解消運動 ～お腹引っこめ 座ってツイスト&仰向けツイスト～ 講師 山口 貴久	カボチャとチョコのスコーン ～カボチャで美肌～ 新助手・栄養士 佐藤 幸子
10月	スティックトレーニング 新助手 岩垂 利枝	カブときのこのサラダ ～体の中から綺麗になろう～ 新助手・管理栄養士 真木 瑛
11月	イスを使ったストレッチ ～背中ストレッチ・太ももストレッチ～ 新助手 白幡 恭子	長ネギのヘルシーグラタン ～免疫力を高めよう～ 新助手・栄養士 西川 里美
12月	冷え症予防！足指運動 ～タオルつかみ運動&ボール転がしマッサージ～ 新助手 鈴木 のぞみ	みかんのコンポート ～体を芯から温めよう！～ 新助手・栄養士 西川 里美

仙台大学生化学実験室内にある測定機器の紹介

<血液成分分析システム>

(1) 全自動血球計測器MEK-6450



近年、多くの動物病院・クリニックでは健康診断の一環として、血液検査が行なわれるようになりました。動物の血液検査を行なうことによって、動物の健康状態をより早く把握して、早期治療に役立てることができます。

本学に設置（平成25年年7月）した全自動血球計測器MEK-6450は、血液の血球成分を調べる血球計算検査機器で、動物専用機種です。主な特長は、リンパ球・単球・好酸球、顆粒球の白血球4分類を含む血液20項目（イヌ・ネコ・ウシ・ウマ）及び12項目（ラット・マウス）を全自動で測定することが可能です。

(2) 原子吸光光度計AA-7000



原子吸光光度計AA-7000は、試料を高温中で原子化し、そこに光を透過して吸収スペクトルを測定することで、試料中のミネラルの濃度の測定を行なう装置です。例えば、私たちの骨の元になっているカルシウムや飲料水に含まれているナトリウムやカリウムなどの金属元素を測定することができます。（本学では、原子吸光光度計AA-7000を平成25年8月に設置。）

上記2種類の機器を用いて、血液を構成する物質を評価することができ、競技力向上から健康維持・増進のための運動あるいはトレーニングの効果について、詳細かつ包括的なスポーツ科学領域の立場からの研究を進めることが可能です。また、現在、本学と中国・青海省体育科学研究所と行なっている共同研究では、低酸素環境下で飼育したラットの血液成分を測定し、低酸素環境への適応を検証しています。

<体脂肪測定装置>

(3) BODPOD（ボドポッド）



BODPODは、体脂肪率を高精度で測定することができる機器です。これまで、本学にもある水中体重秤量法（水中に全身を潜らせ体重を測り、身体密度を算出する方法）の信頼性が高く最も普及した方法と言われていました。しかし、水に潜り、息を吐ききった状態で測定するため被験者へ負担を強いる難点がありました。そこで、水中体重秤量法の代わりとして空気置換法が開発されました。密閉された測定機内に被験者が入り、その時の体積変化による圧変化から体積を求めるもので、被験者への負担が大幅に軽減されました。BODPODで、体密度の測定に必要な体重・体積・肺気量を測定することにより、正確にしかも短時間で安全に体脂肪の測定が可能です。

本学では、BODPODを平成25年8月に設置しました。今後も、授業や運動栄養サポート研究会の活動などで活用していく予定です。

仙台大学の先端機器を駆使した研究最前線—シリーズ(4) 「ヒューマンカロリメーター」



ヒューマンカロリメーター＝仙台大学第三体育館1階

(1) 「ヒューマンカロリメーター」とは

ヒューマンカロリメーター（エネルギー代謝測定室）は、被験者の居住する測定室の排気及び給気側のガス濃度、流量等を測定し、これらを基に酸素摂取率及び二酸化炭素排泄率を算出するようになっています。測定室は温度、湿度、気圧が一定にコントロールされた密閉の小部屋があります。外気を取り入れる給気口と室内空気の排気口が取り付けられており、流量、気圧、温度及び湿度が連続的に計測することができます。取り付けられた外気は測定室から外へ出る前に十分に混合された後、排気口に吸引されます。室内空気が排気側に吸引される際、一部はガス分析計に送られ、コンピュータの自動制御により連続的にガス濃度の測定ができます。

ヒューマンカロリメーターの最大の特徴は、呼気採取のためにマスク等の特別な器具を装置することなく、普段の生活状態で長時間にわたってエネルギー消費量を測定できることです。24時間あるいはそれ以上の長時間にわたる連続測定や、食事や睡眠中の連続測定が可能となっています。また、ヒューマンカロリメーターのその他の特徴として、酸素摂取量と二酸化炭素排出量を連続的に測定できることにより、呼吸商(RQ)から酸化基質を特定できることが挙げられます。

(2) 仙台大学「ヒューマンカロリメーター」の概要

本学では、ヒューマンカロリメーターを平成17年3月に設置しました。

設置されたヒューマンカロリメーターは、チャンバーシステム、高精度分析システム、及びエネルギー代謝システムの3つのシステムから構成されています。容積約18m³の測定室は温度、湿度、気圧が一定にコントロールされています。ガス分析には質量分析計V G Prima δ β（Thermo社製）が採用されており、それぞれのガス濃度値(%)は小数点以下第4位まで計測可能となっています。質量分析計の分析値、測定室の環境条件測定値及び流量等は、コンピュータで解析、自動制御されています。

測定室内にはトイレ、洗面台、ベッド、机、電話、テレビ機能の付いたパーソナルコンピュータ等が備わっており、ホテルのシングルルーム並みの居住空間となっています。また自転車エルゴメーターを室内に設置し、運動を行なうことも可能です。被験者が閉塞感を感じないように、室内からは大きなガラス窓を通していつでも室外の景色が見られるようになっています。また安全面での配慮から、電話やインターホン、e-メールを通じていつでも外部と連絡が取れるようになっています。

(3) ヒューマンカロリメーターを用いた 仙台大学の実践例

肥満はエネルギー摂取量がエネルギー消費量を上回ることによって引き起こされますが、近年増加傾向にある朝食欠食などの不規則な食事摂取パターンはエネルギー消費量を減少させ、肥満の一要因となっている可能性が考えられます。そこで本学ではヒューマンカロリメーター室内で被験者に朝食を欠食させ、それがエネルギー消費量に与える影響を検討する研究を行っています。

また一方で、若い女性の痩せの問題も指摘されるようになってきています。私たちの健康を維持・増進するために、何をどれだけ食べれば良いのか、その基準が「日本人の食事摂取基準」（厚生労働省）で示され、栄養指導や給食管理の現場で幅広く活用されています。

現在、本学では「日本人の食事摂取基準」の推定誤差が生じると言われている若年痩身女性に着目し、ヒューマンカロリメーターを用いて、栄養指導の基礎資料とするための研究を進めています。

(4) 藤井久雄教授に聞く、 課題と今後の展望—仙台大学の場合

健康増進や競技力向上の分野で、「運動」と「栄養・食事」は両軸です。特に、食事量に視点を当てた場合、エネルギー消費量が重要となり、一日のエネルギー消費量を測定する装置がヒューマンカロリメーターです。

ヒューマンカロリメーターを用いて、実験室レベルの情報を健康増進と競技力向上を目指す現場へ幅広く活用していきたいと考えています。

仙台大学の先端機器を駆使した研究最前線—シリーズ(5) 「バイオデックス」



バイオデックス=仙台大学第四体育館1階

(1) 「バイオデックスシステム」の概要

「バイオデックス」は筋力・筋持久力・瞬発力・筋パワーなどの機能を評価できるもので、各関節のあらゆる角度での動作による測定・評価も可能となっています。

この測定器はアスリートだけでなく障害や疾患のある方などのリハビリの評価でも活用でき、年代別・性別、一般・アスリートなど区分毎による幅広い適応も可能です。測定したデータは研究はじめ学生たちの卒業論文のデータ収集などに用いられており、より精密なデータ収集とそれを基にした様々な解析が可能となっています。

(2) バイオデックスを用いた仙台大学の実践例

東北楽天ゴールデンイーグルス新人選手を対象に本学の各施設を利用し、体力測定が実施されており、そのうちのひとつとして、この「バイオデックス」を利用した測定も実施されています。

選手らには主に下肢の筋量測定をし、得られたデータから怪我の予防や今後重点的に筋力アップしなければならない箇所などが各自フィードバックされ、今後のトレーニングの目安として評価なども行っています。

(3) 高橋陽介助教に聞く、 課題と今後の展望—仙台大学の場合

現状として、バイオデックスを使用している測定と評価は、膝関節を屈曲・伸展することにより大腿部前面と後面の筋力差や左右差を診ることに偏っています。私個人的な意見としては、他部位の測定や評価のためにもっとこのバイオデックスを活用し、仙台大学だからこそできる多くの競技者のデータを収集することで、各競技または競技者の競技力向上や障害予防に役立てればと思っています。

女子バスケットボール部—河北杯県バスケットボール大会「準優勝」



キレのある動きを見せた笹野(11)
=宮城野体育館

2月23日(日)、宮城野体育館(仙台市)で「第64回河北杯争奪県バスケットボール大会」の決勝戦が行なわれ、仙台大学は宮城クラブと対戦しました。

前半はお互い譲らず、一進一退の攻防が続く中、
はなだはるか
仙台大学は、花田遥歌主将(体育学科3年—青森・柴田女子高校出)
たかはしなお
や高橋奈央(体育学科3年—岩手・一関学院高校出)を中心に得点を重ね、第2クォーターまでの前半を34-32の2点リードで折り返しました。第3クォーターは、相手に攻められ、8点ビハインドで最終クォーターを迎えました。最終
ささのはつき
クォーターは、笹野葉月(体育学科1—青森・柴田女子高校出)のキレのある動きでリズムを立て直し、同点に追いつき勝負は延長戦へ突入。しかし、延長戦は勝負所でミスがあったり、イージーショットミスが大きく響き、3点差で試合を落としました。

本学女子バスケットボール部は、最後まで粘りを見せましたが準優勝という結果に終わり、2連覇達成はなりませんでした。

仙台大学 広報室



Monthly Report



国際スポーツ情報カンファレンス2014を開催



基調講演で熱弁を振るう高谷氏＝TKPガーデンシティ仙台

国際スポーツ情報カンファレンス2014を開催	1
平成25年度 仙台大学学位記授与式・卒業式を挙行	2
第9回健康福祉研究会を開催	3
柴田町議会スポーツ議員連盟の視察団来訪	6
ウェイトリフティング米国遠征研修合宿に参加	7
学生の競技結果等	8

仙台大学スポーツ情報マスメディア学科主催「国際スポーツ情報カンファレンス2014」が、3月16日（日）仙台市青葉区のTKPガーデンシティ仙台で開催し、4月から本学スポーツ情報マスメディア学科に入学予定の8名を含む約50名の方々が来場されました。本年度は、2020年オリンピック・パラリンピック開催地が東京に決まったことから、「TOKYO2020を「ジャーナル」した先にみえる社会と未来」をテーマに報告、話し合いました。

冒頭の基調講演では東京招致で国際戦略広報を担当した、財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 事業戦略広報部 戦略広報課長の高谷正哲氏が、「TOKYO2020招致と東京からの目線、地方・大学との関わりへの期待」と題し招致活動と今後の期待を話しました。この中で高谷氏は「日本は何を訴えて招致に勝利したか」「東京開催で被災地にどう貢献したいか」「2020年を国際スポーツで働くことへのヒント」の3つについて述べ、「被災からの復興が招致には必要だった。オリンピック開催に向け学生が積極的に経験値を積むことで活躍の場が広がる」と熱いメッセージを参加者に伝えました。

この後のSession1情報戦略（Intelligence）からの視点と、Session2メディア（Media）の視点では、本学スポーツ情報マスメディア学科教員8人が、TOKYO2020やその先のスポーツを取り巻く諸問題の発展・課題整理に

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
 広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
 にも旬な話題を提供していきたいと考えて
 おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
 広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

この中で「大学教育」の視点から報告した山内スポーツ情報マスメディア学科長は、「オリンピック日本代表選手団に占める大卒アスリートの割合が年々高くなっている今、大学はTOKYO2020に向け新しいプログラムに積極的にに関わり、技術の向上と同様に心も育て、アスリート以外にもスポーツの価値を伝えていかなければならない」と述べました。

最後のダイアログ・セッション（互いの意識を共有し、一緒に新しい方向性や知恵を確認する対話）では

TOKYO2020に向けて、スポーツの価値を含めた社会のロールモデルが変わっていくことの大切さや、大学として人をつくるシステムを考えていく必要性等が各教員から出され、盛況のうちに終了しました。

TOKYO2020に向けての取り組みが、その先のスポーツを通じた社会と未来の発展に繋がるよう、今後より多くの皆様と共に幅広い視点から考えて参りたいと存じます。

＜寄稿：スポーツ情報マスメディア研究会 溝上拓志＞



ダイアログ・セッションの様子

平成25年度 仙台大学学位記授与式・卒業式を挙行



朴澤学長から賞状を授与される国分彩加さん
＝仙台大学第五体育館

3月15日（土）、本学第五体育館で「平成25年度仙台大学学位記授与式・卒業式」（第44回体育学部「卒業証書・学位記」授与式並びに第15回大学院「学位記」授与式）が挙行されました。体育学部544名（体育学科322名・健康福祉学科107名・運動栄養学科82名・スポーツ情報マスメディア学科33名）並びに大学院スポーツ科学研究科18名合わせて562名が所定の課程を修了し、「卒業証書・学位記」を授与されました。

開式に先立ち、発生から3年となった「東日本大震災」で犠牲となった3名の学生、親族の方々、そして多くの方々のご冥福をお祈りし、会場にいる全員で黙とうを捧げました。

また、スポーツ競技や文化活動等において特に顕著な功績を挙げた方を表彰する「平成25年度学生表彰

式」も併せて行なわれ、「仙台大学学長賞」は漕艇部おぐちさくらこの小口桜子さん（体育学科4年一長野・岡谷東高校出）
他が、「日本介護福祉士養成施設協会会長賞」はたかはしみさき高橋美沙紀さん（健康福祉学科4年一福島西高校出）

こくぶんあやかが、「全国栄養士養成施設協会理事長賞」は国分彩加さん（運動栄養学科4年一山形・新庄北高校出）が受賞し、それぞれ朴澤学長から賞状を授与されました。

たかだしゆんすけ卒業生を代表して答辞を述べた高田瞬輔さん（体育学科4年一新潟・新発田高校出）は「本当に充実した4年間でした。仙台大学で出会ったアメリカンフットボールのお陰で、心身ともに鍛えられました。4月からは晴れて警察官（新潟県警）になります。信頼される警察官を目指します」。スポーツ情報マスメディア学科総みうらたかよし

代の三浦崇悦さん（スポーツ情報マスメディア学科4年一福島東高校出）は「高校では学ぶことのできなかった専門的な知識や理論を学ぶことができ、毎日が刺激的でした。硬式野球部では、常に人間性の向上を問われてきました。4月からは、福島県立川俣高校で常勤講師（保健体育）として勤務することになりました。生徒たちがスポーツと一生付き合っていけるような機会を作り、スポーツの楽しさを伝えていきたいです」とそれぞれ今後の抱負を力強く話しました。

卒業生のますますのご活躍とご健勝を祈念申し上げます。

第9回健康福祉研究会を開催



基調講演する大淵氏＝仙台ガーデンパレス

2月28日（金）に仙台ガーデンパレス（仙台市宮城野区）にて、「第9回健康福祉研究会」を開催しました。本研究会は、介護や福祉・健康づくり等の現場に勤める方々と本学の健康福祉学科の卒業生、在校生、教職員が相互に学習研鑽できる環境づくりを進めるために、平成16年度より毎年開催しているものです。今回は「体育系大学における健康づくりの指導者養成」をテーマに実施し、約200名が参加しました。

はじめに第1部として「高齢者の健康寿命と介護予防活動について」と題し、東京都健康長寿医療センター研究所高齢者健康増進事業支援室長の大淵修一氏より基調講演を頂きました。講演の中で、「高齢化の社会の中で、高齢者を助ける・支えるという考え方ではなく、高齢者を活かしていくということが若者の役割」という

お言葉が印象的でした。

第2部のパネルディスカッションでは、3名の卒業生（※パネリスト紹介を参照）が「健康づくりの仕事を通して学んだこと」をテーマに、現在の仕事と在学時の学びがどうつながっているかお話し頂きました。パネリストの3名は健康運動指導士の資格を取得し、健康増進やリハビリテーションを専門とする職場でご活躍されています。「授業の他にも、部活動、アルバイト、健康づくり運動サポーターの活動等さまざまな場面で自分の将来に向けての手掛かりがある。様々なことに取り組んで将来につなげてほしい」と参加した在校生に向けてメッセージを頂きました。

今回も成功裏で幕を閉じた健康福祉研究会は来年で第10回目を迎えます。今後も健康福祉をキーワードとして、より多くの方と交流できる場になることを願っています。

－ パネリスト紹介 －

- まつがさきゆい
- (1)松ヶ崎結氏（君津メディカルスポーツセンター
／平成22年運動栄養学科卒）
- おぐまりえ
- (2)小熊理恵氏（栃木健康倶楽部
／平成23年体育学科卒）
- いずみ さち
- (3)泉 幸氏（船橋市立リハビリテーション病院
／平成24年健康福祉学科卒）

<寄稿：GTセンター 新助手 齋藤まり>

本学OB菊地駿さんが柴田町職員の採用試験に合格しました



（左から）朴澤学長、菊地臨時職員、西塚室長、千葉コンサルタント
＝学長室

きくちしゅん

学生支援室の本学OB菊地駿臨時職員（平成24年体育学科卒一宮城・角田高校出）が、平成26年度柴田町職員（一般行政事務）の採用試験に見事合格しました。

3月4日（火）、西塚学生支援室長と千葉コンサルタントと共に学長室を訪れ、朴澤学長に合格を報告しました。

学長室を訪れた菊地さんに、柴田町役場の職員を目指したきっかけや今後の抱負などをお聞きしました。

Q1.柴田町役場の職員を目指したきっかけは—

もともと地元志向が強く、私の父（享年47歳）が柴田町役場に勤務していた影響を受けたこと、今まで住んできた柴田町のために貢献していきたいという思いがあることが大きな理由です。

Q2.合格までの道のりは—

5回目の受験。初級（高卒・大卒を含む）の追加募集で合格しました。勉強時間は、一日3～4時間程度。私は「追い込まれ型」なので、試験前は連日徹夜の状態が続きました。仙台大学卒業後は、大学の臨時職員としてお世話になり、朴澤学長をはじめたくさんの方々に応援して頂き、何とか合格することができました。

Q3.今後の抱負は—

父の名に恥じぬよう、頑張りたいです。スポーツ行政の分野に興味があります。色々な分野に挑戦しながら、自己の能力を高めていきたいです。

ソチ冬季五輪ボブスレー・スケルトン報告会を開催



報告会で挨拶をする小室選手（右）と黒岩選手
＝サンシャイン青葉

3月1日（土）、サンシャイン青葉（柴田町船岡中央）でボブスレーの黒岩俊喜選手（運動栄養学科2年一神奈川・橘高校出）とスケルトンの小室希選手（仙台大学職員／平成23年仙台大学大学院修了一平成20年体育学科卒一宮城・白石女子高校出）の「ソチ冬季五輪ボブスレー・スケルトン報告会」（主催：宮城県ボブスレー・リュージュ連盟）が開催されました。黒岩選手は、ソチ冬季五輪の男子ボブスレー4人乗りで26位。小室選手は女子スケルトンで19位という結果でした。

同報告会には、宮城県ボブスレー・リュージュ連盟の大沼迪義会長・仙台大学の朴澤泰治学長・宮城県議会議員の高橋伸二氏をはじめ、約30名が出席しました。

主催者を代表して、大沼会長は「宮城県連盟は長野五輪（1998年）の時に設立された。以来、本県にはソリ競技のメッカである仙台大学があることから

毎回オリンピック選手を宮城県連盟から輩出でき、大変嬉しく思っている。世界の壁は厚い。さらに精進してほしい」と挨拶。

来賓を代表して、朴澤学長は「小室選手は8年間の想いをスタート台に込め、4回滑走することができた。非常に嬉しく思っている。黒岩選手は20歳とまだ若い。4年後を楽しみにしている。両選手の滑走は全て（仙台大学で実施された）パブリックビューイングで応援した」と話されました。

小室選手は「私を支えて下さった宮城県ボブスレー・リュージュ連盟と仙台大学に感謝している。成績（19位）は正直悔しい。バンクーバーで止まった時間を動かすことができ、新しいスタートに立てたことは一つの成果」と話し、黒岩選手は「たくさんの方々々に支えて頂き、ソチでもたくさんのメッセージを頂いた。しかし、結果が伴わず、悔しい思いでいっぱい。今後は、ボブスレー界を自ら引っ張っていく覚悟」と話しました。

ソチ冬季五輪にボブスレー・リュージュ・スケルトンのチームリーダーとして帯同された鈴木省三教授（サラエボ冬季五輪ボブスレー日本代表／仙台大学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部監督／昭和60年体育学科卒）がオリンピック報告・ビデオ映写の中で「小室選手は日本の五輪出場1枠に対し、3選手が激しい争いを繰り広げ、最終レースでライバルに勝利。一方、黒岩選手はライバルに80cm差（0.01～0.02秒差）で勝利し、それぞれ五輪出場を勝ち取った。大きなプレッシャーと並々ならぬ努力があった」と紹介され、改めて会場から大きな拍手が沸き起こりました。

ソチ冬季五輪では、たくさんの応援を頂き、誠に有難うございました。引き続き、黒岩・小室両選手への温かなご声援を宜しくお願い致します。

平成25年度 仙台大学学生表彰式



朴澤学長からスポーツ功労賞を授与される漕艇部の田中主将
＝KMCH大会議室

及び個人10名（ボブスレー1名・漕艇部1名・柔道部1名・体操競技部3名・女子サッカー部2名・陸上競技部2名）がスポーツ功労賞を受賞しました。

朴澤学長からは「皆さんの努力の成果が示された。加えてこの成果を得るにあたっては、協力者の支援が大いにあったことを忘れないでほしい。引き続き、仙台大学の名を高めていってほしい」と今後に向けての期待が述べられました。

同受賞式終了後、スポーツ功労賞（団体）を受賞した漕艇部の田中香加主将（＝写真）（体育学科3年一石川・小松商業高校出）は「今年のインカレ（第40回全日本大学選手権）は、女子舵手つきオドルプルで7位という結果に終わった。来年こそ優勝を目指して頑張っていきたい。そのためには、コックスのかけ声に、4人の息を合わせ、スピードを上げて同じリズムで漕いでいくことが重要。勝負の鍵は“団結力”」と今後の抱負を力強く話しました。

3月5日（水）、本学「鹿島メモリアルクラブハウス（通称：KMCH）大会議室」で「平成25年度仙台大学学生表彰式」が行なわれ、新体操競技部・男子新体操競技部・柔道部・体操競技部・漕艇部の5団体

平成25年度 学校支援ボランティア感謝状贈呈式



3月15日（金）本学第5体育館大会議室において、平成25年度学校支援ボランティア感謝状贈呈式が開催されました。

今年度は仙台市から98名、柴田町から11名、岩沼市から30名、大崎市から3名、名取市から69名、そして新たに角田市から18名、計228名の学生に対し各教育委員会から学習支援活動や部活動支援活動に対し感謝状が授与されました。

はじめに朴澤学長が「教育現場において、実践の場を提供して頂いておりますことに心より感謝申し上げます。文部科学省は、地域における教育活動や社会貢献活動を重要視しており、大学の使命の一つとして実践経験を積み社会で活躍できる人材の育成を強く期待されているところです。今後とも、本学の教育活動に対しご指導を賜ればありがたい」と挨拶し、表彰された学生を代表し6名の学生から学習支援活動に関する経験談が報告されました。

仙台市教育委員会健康教育課清水義明課長からは「憧れであり身近な大人として、皆さんが思っている以上に児童・生徒は、大学生の皆さんの来訪を心待ちにしています。今後も夢や目標に向かって是非頑張ってください来年も子供たちの学習支援をよろしくお願ひしたい。」との講評をいただきました。最後に学生支援センター長の大山さく子教授からも感謝の言葉が述べられ、「全体としてボランティア活動者数は減少傾向にあるものの、学習支援ボランティアに関しては例年に比べ活動者数が増加しております。人とのかかわりを通じ多くのことを学んでほしいと思っております」と述べました。



まつぎよしゆき

松崎 祥之さん（体育学科1年—宮城・柴田高校出）



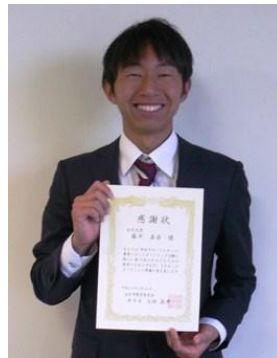
「ボランティア活動実践A」の授業で、母校の部活動支援の募集告知を知りボランティア登録をしました。現在、岩沼中学校でバレーボール部の部活動指導補助を行っています。10月から活動を始め約半年、週2回夕方4時頃からバレーボール部の練習指導を定期的に行っています。

恩師でもある監督とのコミュニケーションを大切にし、指導方針がブレないように監督の目指す方向性の意図を酌みながら指導することを大切にしています。

また、出来ることを前提とした目線からではなく、子どもたちの個々の理解度に応じたアドバイスや指導ができるよう声掛けにも工夫しながら指導にあたらせていただいているところです。3年生が良い形で中総体を迎えらるよう引き続き指導していきたいと思っています。

ふじひら しんご

藤平 真吾さん（体育学科2年—千葉・袖ヶ浦高校出）



昨年に引き続き、仙台市内のすべての小学校が参加する仙台市内陸上競技会への運営補助ボランティアを行いました。大会前には種目毎のブロックに分かれ3日間に亘る「陸上教室」が実施され、陸上競技部の部員たちと共に短距離・長距離・跳躍など種目毎の指導を行いました。

模範演技を通じ、どうやったら高く飛べたり、早く走れたりするかなどを指導すると、積極的に小学生からの質問があったり、私たち大学生もそれに解りやすいよう応えたりしました。運営にあたられた先生方から毎回感謝の言葉をいただき、やりがいも大きく感じました。選手になれなかった子どもたちが観客席から一生懸命声援を送る姿も印象的でした。私自身、高校時代から地元（千葉県富津市）の陸上競技大会の運営補助に携わった経験も活かし、大学生活の4年間、仙台市内小学校陸上競技大会の運営に何らかの形で関わっていただけたいと思っています。



柴田町議会スポーツ議員連盟の視察団来訪



仙台大学の概要と柴田町との連携事業等の現状について
講話する朴澤学長＝管理研究棟2階大会議室

柴田町スポーツ振興議員連盟（会長 我妻弘国、当日参加者13名）は、地域に開かれた大学として地域社会に貢献している仙台大学を3月5日視察させて頂きました。

町は、仙台大学を地域の教育力の向上や活性化を図るうえで、重要な役割を果たしてきていると捉え、今後もより一層、協力・連携を深める必要性があるとしています。このことから、仙台大学の持つ教育的資源を的確に認識しておくことが不可欠であり、まちづくりの施策に活かす重要なこととの思いから再認識の意味も込め視察することとしたものです。

仙台大学は、スポーツ・レクリエーション活動の生涯学習に対し、積極的に取り組んでおり、柴田町に対しても例外ではありません。地域スポーツ活動や転倒予防・生活習慣病予防など多くの連携事業を行って来ています。視察では数多くのオリンピック選手を輩出しているボブスレー・リュージュ・スケルトン人工練習場・学生一人一人の栄養管理がされている学生食堂、あらゆる専門的なスポーツ関連施設と研究施設を丁寧な説明を受けながら見学させて頂きました。

朴澤泰治学長から、大学と地域との関わり方や、仙台大学ではスポーツの様々な研究が行われていることなどの講話も頂きました。特に朴澤学長の話で「大学は研究・教育に加え、社会貢献が一層求められている」という言葉が印象として残りました。

今回の視察を通し、これからもスポーツ活動はもちろん、介護予防・生活習慣病予防対策など、協力・連携を積極的に進めることが大切との意を強くしました。

柴田町スポーツ振興議員連盟としても、大学と町が今まで以上に連携を図れるよう環境整備に努めていくという方向づけを刻むことができました。

快く視察研修にご理解とご協力を頂きました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

＜寄稿：柴田町議会議員

OB安部俊三（昭和47年体育学科卒）＞

壹岐優さん（仙台大学大学院1年）が ウェイトリフティング米国遠征研修合宿に参加



写真：本人提供

オリンピックに3大会連続出場（アテネ・北京・ロンドン）の
米国代表・ケンドリック選手（左）と壹岐さん＝ルイジアナ
州立大学シュリーブポート校ウェイトリフティング場

2月10日（月）～3月4日（火）までの約3週間、米
国・ルイジアナ州立大学シュリーブポート校で「ウェ
イトリフティング米国遠征研修合宿」（日本ウェ
イトリフティング協会主催）が行なわれ、早稲田大学
ウェイトリフティング部監督の岡田純一准教授らと
共いさまさに、本学ウェイトリフティング部の壹岐優さん
（仙台大学大学院1年―金沢学院大学卒―柴田高校
出）がコーチとして帯同しました。参加学生は、早
稲田・慶応・立教・法政・関西・金沢学院の各大学ウェ
イトリフティング部の選手7名（男子3名・女子4名）。
ルイジアナ州立大学シュリーブポート校のウェイト
リフティング部及びカナダのナショナルチームとの
合同練習が行なわれました。同研修合宿は、競技力
の向上及び語学力と国際感覚を養うことを目的とし
ています。

3月12日（水）、広報室を訪れた壹岐さんに、日米の
ウェイトリフティングの違いや今後の抱負などについて
お話を伺いました。

いろいろな経験を積んで活躍したい

Q1.コーチの仕事は―

今回で2回目の参加となりました。前は選手（金沢
学院大時代）として参加しました。今回は、自分のこと
だけでなく、選手の練習内容（選手がその日に行なった
練習メニュー）のまとめ、練習中の動画の編集、毎日提
出されるウエイトノートのやり取り、選手の所属する指
導者に選手の行動内容を毎日メールで送信するなど睡眠
時間もほとんどとれず、改めてコーチという仕事の大変
さを感じました。

Q2.日米のウェイトリフティングの違いは―

日本は練習時間に規則性（一定のルールが存在する）
があります。一方、米国は練習時間に規則性はありません。
礼儀正しく、規則を持って練習を行なう日本のスタ
イルは、集団行動やコンディショニングを整えやすい点
が良いと思います。しかし、米国のスタイルのように、
トレーニングとコンディショニングの分野において自ら
考え、行動できるようになることが競技力向上に必要で
あると考えています。日米の良い点をうまく取り入れて
いくことが重要であると思います。

Q3.今後の抱負は―

今回の米国遠征研修合宿を通して、常に先を読んで行
動する大切さを学びました。求められている課題に対
し、適切な回答や助言を出すまでに時間が掛かりまし
た。今はいろいろな経験を積んでいる段階なので、多く
の経験を積みながら、良いコーチ（指導者）になれるよ
う努力していきたいです。



写真：本人提供

ウ
エ
イ
ト
リ
フ
テ
ィ
ン
グ
米
国
遠
征
研
修
合
宿
の
集
合
写
真
||
米
国
・
ル
イ
ジ
ア
ナ
州
立
大
学
シュ
リーブ
ポ
ー
ト
校
ウ
エ
イ
ト
リ
フ
テ
ィ
ン
グ
場

初の全日本女子柔道選手権に 中村優(現代武道学科2年)と鈴木真佑(体育学科3年)が挑む



全日本女子柔道選手権に向け稽古に励む中村(右)と鈴木
=仙台大学柔道場

3月2日(日)、宮城県武道館(仙台市太白区)で「全日本女子柔道選手権大会東北予選会」が行なわれ、決勝リーグで2勝(全勝)の成績を収めた中村優(柔道2段/現代武道学科2年-静岡・藤枝順心高校出)が、見事初優勝を飾りました。また、鈴木真佑(柔道2段/体育学科3年-京都文教高校出)は、同リーグで1勝1敗の準優勝という好成績を収めました。初の「全日本女子柔道選手権大会」(女子柔道の無差別級日本一を決める本大会)への出場権を獲得した中村と鈴木。

78kg超級の中村は「決勝リーグを含め5試合中2試合で先に指導を取られた。全日本では自分から前に出て攻めていき、入賞を目指したい」と話し、鈴木は「自分は52kg級の選手。全日本は無差別日本一を決める大会。引かないで最後まで攻めの姿勢を貫き、思い切って臨みたい」と話しました。

「全日本女子柔道選手権大会」は、4月20日(日)に横浜市文化体育館で開催されます。

また、3月2日(日)、宮城県武道館(仙台市太白区)で「全日本柔道選手権大会東北予選会」(男子が出場)も行なわれ、本学男子柔道部監督の仲田直樹助教(柔道5段)が優勝。4度目となる本大会出場を決めました。

仲田助教は「東北の代表として恥じない試合がしたい。過去は2回戦進出が最高成績。一戦必勝で頑張りたい」と意気込みを話しました。

仲田助教が出場する「全日本柔道選手権大会」(男子柔道の無差別級日本一を決める大会)は、4月29日(日)に日本武道館で開催されます。

「全日本女子柔道選手権大会」への初出場を目前に、日々練習に打ち込む中村優と鈴木真佑、そして、「全日本柔道選手権大会」への4度目の出場切符を手にし、一戦一戦に心血を注ぎ上位入賞を目指す仲田直樹助教に、皆様からの熱い声援をよろしくお願い致します。

競技スキー部、南隆徳(仙台大学大学院2年)が全日本スキー選手権大会 フリースタイル競技エアリアル種目で2連覇達成



写真：美深町教育委員会提供
全日本で2連覇を達成した南の演技
=北海道美深スキー場

3月2日(日)、北海道美深スキー場で開催された「第34回全日本スキー選手権大会フリースタイル競技エアリアル種目」に出場した南隆徳(仙台大学大学院2年-北翔大学卒-北海道・美深高校出)が昨年に続き優勝、連覇を果たしました。

また、前日に開催された北海道選手権においても連覇を果たし、二年連続の二冠を達成しました。

今シーズン最大の目標としていたソチ五輪への出場は、惜しくも叶えられなかったものの「今シーズンは新たに二回転三回捻りでの大会参戦、全日本選手権後の合宿では三回転と、ジャンプの難易度が着実に上がってきている。これまでの経験を糧に4年後の目標達成に向け、計画的に活動していきたい」と自身を飛躍させるべく意欲を燃やしている南。

目標達成はもとより、マイナー競技であるエアリアルスキーの普及へ向け、一層の活躍が期待される南への温かいご声援、ご支援を宜しくお願い致します。

<寄稿：美深町教育委員会

OB前田研吾(平成21年体育学科卒)>